

令和元年度

名古屋市美術館年報

2 0 1 9

目 次

序	1
沿革	2
展覧会事業	3
1 常設展	3
(1)名品コレクション展	4
(2)常設企画展	10
2 特別展	11
教育普及事業	29
1 教育プログラム	29
1 一般成人対象の事業	30
(1)講演会・解説会	30
(2)コレクション解析学	30
(3)コンサート	31
(4)パフォーマンス・ワークショップ	31
2 子ども対象の事業	32
(1)学校休業日の体験活動の推進	32
(2)夏休みこどもの美術館	34
(3)芸術と科学の杜	35
3 学校対象事業	37
(1)ボランティアによる学校等団体向け ガイドトークの実績	37
(2)アートカード貸出実績	37
(3)出前アート体験	38
(4)就業・職業体験及び 職場訪問受け入れ	40
(5)その他	41
2 ボランティア	43
(1)ボランティア登録者	43
(2)定例会	43
(3)ガイド活動	43
(4)サポート活動 系の活動	44
3 学生向け優待事業	44
4 協力会	46
5 図書室	46
6 出版	47
資料	48
1 収集	48
(1)受贈	49
(2)資料収集状況一覧	57
2 保存・修復	58
3 調査・研究	60
4 貸出	61
5 寄附金	63
入館者一覧	64
組織・予算	65
1 組織図	65
2 美術館協議会	65
(1)名古屋市美術館協議会委員	65
(2)名古屋市美術館協議会開催状況	65
3 職員	65
4 運営予算	65

序

PREFACE

名古屋市美術館の令和元年度の活動をまとめた年報を発行いたします。

今年度は、年度途中で平成から令和へと、新しい時代への区切りを迎えましたが、美術館も30周年の区切りを終えて新しい時代に入ろうとしています。これまで以上に皆さま方のご理解とご支援をいただければ幸いです。

さて、令和元年度も作品の収集、展示、教育普及など多方面の活動を積極的に展開いたしました。例年ですとその活動の概要を、この序文でお伝えするのですが、今年度は二つの事項に焦点を当てて振り返りたいと思います。その一つ目は夏から秋にかけて開催した「あいちトリエンナーレ2019 情の時代」です。2010年に始まり、3年毎に開催するこのトリエンナーレも今回で4回目を迎え、地元で、そして全国で定着した感がありました。しかし、今回は全く別の側面で全国から強い注目を浴びることになってしまいました。愛知県美術館を会場として開催された「表現の不自由展・その後」を巡る議論がそれです。展示された一部の作品を巡って、芸術上の自由の範疇を逸脱した不遜かつ不適切な表現であるとして、撤去を求める声が湧き上がり、主催者に対して強い圧力となって突き付けられました。会場ではない名古屋市美術館にも少なからぬ声が寄せられ、対応に苦慮する場面もあったのですが、結局僅か三日間で展示は閉鎖されることになりました。この状況に、一部の出品作家が表現の自由を侵すものであると強く反発し、作品の非公開や改変を求める事態となり、混乱に一層の拍車がかかりました。問題の本質が政治的な部分に関わることであり、作家や愛好家だけでなく、様々な立場の人々が議論に加わったことが、より事態を複雑化させました。議論を重ねることは、問題の理解や解決にとって好ましい事のはずなのですが、実際には空回りと対立の激化を招くだけで、分断された社会の在り方をより顕在化させることになってしまいました。会期が終了してから1年近くを経た今でさえ、その構図は変わっていません。「芸術における表現の自由」という議論の本質ではなく、手続き論や運営方法の問題に論点が移行してしまい、司法の場に決着を委ねるといった事態になっています。今後のトリエンナーレの開催にも様々な課題を残す推移となっています。

令和元年度のもう一つの大きな事項は新型コロナウイルスの問題です。中国に端を発し、瞬く間に全世界を巻き込んだこの感染症、未だに収束の手がかりも見えない状況です。当館に関していえば、年度最後の「没後90年記念 岸田劉生展」の会期末に多少の影響がありましたが、その時点ではこれほどまでに長期化かつ甚大化するとは予想できませんでした。その後の展開は周知のとおりなのですが、「コロナ前」「コロナ後」という言葉が盛んに唱えられているように、社会活動の根幹を揺さぶるような衝撃をこのウイルスはもたらしています。美術館についていえば、ウイルスの感染を防ぐための様々な対策が必要とされるだけでなく、入場者の制限を強く求められる状況になってしまいました。「どうぞ美術館にお越しく下さい」とは積極的に言えず、「来ていただきたくない。しかし、感染は怖い」という状況では十分な広報も展開できません。となると、多数の入場者を見越して予算を組んでいた展覧会なども実現が難しくなり、活動の根本を見直す作業を迫られる事態になりつつあります。もちろんこれは美術館に限った話ではなく、社会の全てが直面している課題であり、だからこそ「コロナ後」の展望についてあらゆる立場の人々が真剣な検討を求められています。前代未聞の状況の中で、新たな美術館像を模索し、実現していかなければなりません。

本当の意味でその真価を問われる時が来たのかもしれませんが、どうぞ、この困難な状況の中でも美術館へのご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

2020年9月

名古屋市美術館

沿革 HISTORY

- 昭和52年12月 「名古屋市基本構想」策定、同構想において美術館建設をめざす
- 昭和56年1月 市長、年頭記者会見において、美術館の具体化検討を発表
12月 市会、美術館建設のための調査費を議決
- 昭和57年2月 美術館調査委員会（委員長 豊岡益人愛知県立芸術大学学長）設置、美術館のあり方について諮問
4月 「名古屋市市民文化振興のための基金に関する条例」制定
- 昭和58年1月 美術館調査委員会「名古屋市美術館（仮称）基本構想について」答申
7月 美術館建設委員会（委員長 伊藤延男東京国立文化財研究所所長）設置
8月 美術館基本設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）
10月 美術館資料収集審査委員会設置、資料の収集を開始
- 昭和59年3月 建築基本設計完了
9月 美術館実施設計委託（黒川紀章建築・都市設計事務所）
- 昭和60年1月 建築実施設計完了
2月 名古屋市文化顧問（安達健二 東京国立近代美術館長）委嘱
7月 美術館建設工事着手
- 昭和61年11月 「名古屋市美術館（仮称）収集作品展」を市博物館で開催
- 昭和62年4月 美術館開設準備顧問（谷隆夫 元名古屋市助役）委嘱
7月 美術館本体工事完成
10月 外構工事完成
- 昭和63年3月 「名古屋市美術館条例」制定
4月 美術館顧問（河北倫明氏）委嘱
4月 開館（館長 谷隆夫）
- 平成元年9月 博物館登録
- 平成5年9月 南側エレベーターの設置
- 平成7年6月 美術館長（劔持一郎 元名古屋市教育長）委嘱
美術館顧問（谷隆夫 元館長）委嘱
- 平成10年10月 美術館参与（馬場駿吉 元名古屋市立大学教授）委嘱
- 平成11年6月 美術館長（小林龍郎 元名古屋市総務局長）委嘱
- 平成14年6月 美術館長（宮澤明倫 元名古屋市教育長）委嘱
- 平成18年6月 美術館長（渡辺豊彦 元名古屋市選挙管理委員会事務局長）委嘱
美術館参与（石黒鏘二 名古屋造形芸術大学名誉教授）委嘱
- 平成21年5月 美術館長（松永恒裕 元名古屋市総務局長）委嘱
6月 開館以来1,000万人目の入館者を迎える
- 平成26年5月 美術館長（横井政和 元名古屋市選挙管理委員会事務局長）委嘱
- 平成29年4月 美術館参与（早瀬弘親 元名古屋市鶴舞中央図書館長）委嘱
- 平成29年7月 美術館長（早瀬弘親 元名古屋市美術館参与）委嘱

令和元年度の常設展（名品コレクション展）は、「エコール・ド・パリ」「メキシコ・ルネサンス」「現代の美術」「郷土の美術」の4つのコーナーで、3期に分けてそれぞれテーマを設定して収蔵作品を紹介しました。当館のコレクションを代表する作家の作品のみならず、皆さまに知っていただきたい作品、また油彩画、彫刻、版画、素描、写真といった多彩な技法・材料を用いた作品を展示しました。「エコール・ド・パリ」では、6月にご寄贈いただいた藤田嗣治の《夢》と《二人の祈り》を、第Ⅱ期・第Ⅲ期を通して「受贈記念」として展示しました。

常設企画展では、「新たなる木彫表現を求めて—平櫛田中賞受賞の作家たち—」を開催しました。

【エコール・ド・パリ】

第Ⅰ期「フランスに魅せられた画家たち」

20世紀初頭、モディリアアーニ、シャガールのようにパリに移り住んだ画家やローランサンのようにパリで生まれ育った画家がパリに魅せられ多彩な作品を描きました。日本からも藤田嗣治がフランスへ渡り活躍し、のちに荻須高德もパリにアトリエを構えました。パリに集い、自らの素養を活かしながら独自の作品を生み出した画家の作品を紹介しました。

第Ⅱ期「パスキンの芸術」

雑誌の挿絵を描いた経験があるジュール・パスキン（1885-1930）は素描や版画の技量も優れていました。前期は油彩画とともにパリのカフェや女性たちの姿を題材にした素描、版画、後期は同時期に開催した特別展カラヴァッジョ展に関連させ、聖書や神話に取材した版画を展示しました。

第Ⅲ期「パリの日本人作家」

パリで成功した日本人作家として知られる藤田嗣治、パリで認められた田中保、イタリア未来派とも交流した東郷青児。彼らをはじめ、この地方に縁のある安藤邦衛、伊藤廉、荻須高德、鬼頭甕二郎、佐分真、富澤有為男といった画家が滞欧時に描いた作品を展示しました。

【メキシコ・ルネサンス】

第Ⅰ期「北川民次とメキシコ」

メキシコに13年滞在した北川民次（1894-1989）の作品には、旅行者ではなく生活者としての視点から見たメキシコの姿が映しだされています。素朴な暮らしに見られる美しさや民族に伝わる死生観が表現された民次の作品を展示しました。

第Ⅱ期「タマヨの芸術」

ルフィーノ・タマヨ（1899-1991）は、革命とともに展開した壁画運動からは距離をおき、タブロー（額縁画）の重要性を唱え、創作活動を続けました。油彩画に加え、前期では《メキシコの風》《パラナの三角州の夜明け》《人物》、後期では《聖ヨハネの黙示録》のリトグラフを展示しました。

第Ⅲ期「イサム・ノグチとメキシコの作家」

イサム・ノグチ（1904-1988）は、1920年代にパリでブランクーシの助手となり、1930年代にはアメリカのダートマス大学でオロスコの壁画制作に助手として加わりました。その後、ノグチはメキシコに渡りリベラが統括した壁画プロジェクトに参加しています。こうしたノグチとメキシコのかかわりを取り上げました。

【現代の美術】

第Ⅰ期「海外と日本と」

この地方を代表する作家であり、アメリカで活躍した荒川修作、河原温、桑山忠明。北欧で写真を学び名古屋で活動する水野誠司・水野初美。名古屋の今池にモニュメントをつくったレッド・グルームス。海外、日本で活躍したこれらの作家を紹介しました。

第Ⅱ期「反復と連続」

ある一定の間隔で線や形を繰り返したり、さまざまな手法で生み出された形を連なせたりといった表現に着目し、アグネス・マーチン、ショーン・スカリー、山田正亮、吉川家永といった作家の作品を展示しました。

第Ⅲ期「写実の拡がり」

「写実=実を写す」の「実」の解釈を目に見えるものだけでなく、身体、心で感じるものや頭で考えることにまで広げ、また「写す」を「なぞらえてつくる」という意味も含むことで「写実」表現の拡がりを探りました。

【郷土の美術】

第Ⅰ期「此方、彼方」

作家たちは身近な風景や遠く離れた土地、そして心の中にある場所を描き、私たちをさまざまな場所にいざなってくれます。この地方にゆかりのある作家が「近い場所、遠い場所」を表現した作品を展示しました。

第Ⅱ期「洋画におけるモデルとポーズ」

大澤鉦一郎、太田三郎、鬼頭鍋二郎、大澤海蔵といった作家の人物画にみられるモデルのポーズや配置に着目しながら作品を観察し、作品に潜む作家の意図や制作過程を探り、作品同士の関係にまで考察を広げて紹介しました。

第Ⅲ期「岸田劉生と愛美社」

同時期開催の特別展「没後90年記念 岸田劉生展」にあわせ、劉生が名古屋滞在中に残した作品を展示しました。また劉生の活動に刺激を受けながらこの地方で写実表現を追求した愛美社の画家・大澤鉦一郎、萬代比佐志、藤井外喜雄、山田陸三郎、宮脇晴、水野正一の作品を展示しました。

常設企画展では「新たなる木彫表現を求めて—平櫛田中賞受賞の作家たち—」を開催しました。平櫛田中賞は、日本の近代木彫を代表する平櫛田中を顕彰し優れた木彫作家に贈られる賞です。本展では、受賞作家5人の作品を田中の作品とともに展示しました。

(1)名品コレクション展

Selected Works from the Collection of
Nagoya City Art Museum

名品コレクション展 I

会期：2019年4月9日(火)～6月30日(日)

常設展示室 1・2

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (cm)
1	キスリング	マルセル・シャンタルの肖像	1935	油彩・キャンヴァス	116.0×81.0

コレクション解析学

1	キスリング	マルセル・シャンタルの肖像	1935	油彩・キャンヴァス	116.0×81.0
---	-------	---------------	------	-----------	------------

エコール・ド・パリ：フランスに魅せられた画家たち

1	マルク・シャガール	二重肖像	1924	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0
2	キース・ヴァン・ドンゲン	コルセットの女	1908	油彩・キャンヴァス	65.0×50.0
3	キスリング	ルネ・キスリング夫人の肖像	1920	油彩・キャンヴァス	73.7×54.6
4	マリー・ローランサン	横たわる裸婦	1908	油彩・キャンヴァス	38.0×46.4
5	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c. 1918	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4
6	アメデオ・モディリアーニ	立てる裸婦(カリアティードのための習作)	c. 1911-12	油彩、水彩・紙、板	83.0×47.8
7	ジュール・バスキン	横たわるエリアーヌ	1929	油彩・キャンヴァス	73.2×92.6
8	海老原喜之助	群鳥	1931	油彩・キャンヴァス	100.0×73.2
9	荻須高德	サン・ドニ河岸	1958-59	油彩・キャンヴァス	73.2×91.7
10	荻須高德	ボールガール通り	1958-59	油彩・キャンヴァス	73.2×60.2
11	鬼頭鍋三郎	エル・モニック	1954	油彩・キャンヴァス	90.9×72.2
12	佐分 真	南仏風景	1932	油彩・板	46.3×55.3
13	藤田嗣治	家族の肖像	1932	鉛筆、パステル・紙	86.5×67.2
14	藤田嗣治	ベルギーの婦人	1934	水彩、パステル・紙	61.0×44.5

現代の美術：海外と日本と

1	トニー・クラッグ	住処のある静かな場所	1984	木	155.0×105.0×60.0
2	アンディー・ゴールズワージー	楓の紅葉による色彩線/大内山村/1987年11月14日	1987	カラー写真	92.6×50.0
3	アンディー・ゴールズワージー	穴のまわりの楓の紅葉/大内山村/1987年11月14日	1987	カラー写真	40.5×48.5
4	アンディー・ゴールズワージー	楓の紅葉による鎖/大内山村/1987年11月21日	1987	カラー写真	129.3×73.4
5	アンディー・ゴールズワージー	太陽の輝く朝の雪の厚板/和泉村/1987年12月19日	1987	カラー写真	74.8×75.5
6	アンディー・ゴールズワージー	冷え込んだ山影で早朝に制作/和泉村/1987年12月24日	1987	カラー写真	69.7×142.0
7	レッド・グルームス	夜の今池トローリーバス(第1次提案)	1995	グワッシュ・紙	74.9×106.0
8	レッド・グルームス	今池ブロードウェイのリズム	1997	リトグラフ、水彩・紙	112.9×76.2
9	フリーデンスライヒ・ファンデルワッサー	919 蝉凧	1990	彩色・蝉凧	30.0×36.0
10	フリーデンスライヒ・ファンデルワッサー	919 蝉凧	1992	彩色・蝉凧	30.0×36.0
11	アンゼラム・キーファー	シベリアの王女	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5
12	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7
13	荒川修作	忘れるということ(振り起こされて出し尽くしていること)	1973-74	アクリル・キャンヴァス、コラージュ	195.5×609.9
14	河原 温	20ABR. 68	1968	リキテックス・キャンヴァス	25.5×33.0
15	河原 温	APR. 1, 1978	1978	リキテックス・キャンヴァス	33.0×44.0
16	河原 温	NOV. 17, 1988	1988	リキテックス・キャンヴァス	133.4×194.3
17	桑山忠明	無題	1970	アクリル・キャンヴァス	273.0×273.0
18	桑山忠明	メタリック	1991	エッチング、アクアチント・紙(6点1組)	各77.5×59.5(紙サイズ)
19	水野誠司・水野初美	椅子、トペリウス通り	2013	パラジウム・プリント	11.4×11.4
20	水野誠司・水野初美	北の方へ	2013	パラジウム・プリント	15.2×22.9
21	水野誠司・水野初美	雪の丘	2013	パラジウム・プリント	17.8×17.8

メキシコ・ルネサンス：北川民次とメキシコ

1	マリア・イスキエルド	生きている静物	1947	油彩・キャンヴァス	80.3×99.7
2	フリーダ・カーロ	オブジェによる自画像	1946	アッサンブラージュ	90.0×90.0×10.7
3	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9
4	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(3層)、ワイヤラス(金網)、合板	161.9×201.3
5	ディエゴ・リベラ	ホコの葬列	n. d.	油彩・キャンヴァス	161.9×201.3
6	ダビッド・アルファロ・シケイロス	カウテモックの肖像	1947	ピロキシリン・メゾナイト	75.5×62.0
7	ダビッド・アルファロ・シケイロス	奴隷	1961	アクリル・板	86.4×64.8
8	ルフィーノ・タマヨ	黒人の仮面(カーニバル)	1939	テンペラ・リンネル	44.8×60.4
9	ルフィーノ・タマヨ	乗り遅れた乗客	1946	油彩・キャンヴァス	97.2×84.0
10	北川民次	チュルプスコのコンベント回廊	1923/1955	油彩・キャンヴァス	71.3×61.5
11	北川民次	トラルパム霊園のお祭り	1930	油彩・キャンヴァス	99.5×89.8
12	北川民次	メキシコ水浴の図	1930	油彩・キャンヴァス	78.6×68.5
13	北川民次	老人	1932	油彩・キャンヴァス	76.0×61.0
14	北川民次	タスコの山B	1934	油彩・板	45.5×60.6

郷土の美術：此方、彼方

1	北脇 昇	春に合掌す	1942	油彩・キャンヴァス	72.5×91.0
2	島田章三	山と湖の在り方	1993	油彩・キャンヴァス	181.8×227.3
3	田淵俊夫	ヨルバの花	1968	紙本着彩	130.0×160.0
4	中村正義	風景	1946	紙本着彩	124.6×154.9
5	檀田伸也	あいまいな風景	1993	油彩・キャンヴァス	181.8×227.3
6	平川敏夫	陶土のある町	1958	紙本着彩	134.0×182.0
7	三岸好太郎	構図(暖炉のある静物)	1933	油彩・キャンヴァス	46.0×53.5
8	三岸節子	トネールにて	1979	油彩・キャンヴァス	100.2×81.3
9	三岸節子	ブルゴーニュの麦畑	1980	油彩・キャンヴァス	112.1×145.5
10	矢橋六郎	春の入り陽	1970	油彩・キャンヴァス	72.7×100.0
11	吉川三伸	死からの幻想	1949	油彩・キャンヴァス	40.7×53.0

名品コレクション展Ⅱ

会期：2019年8月1日(木)～12月15日(日)

常設展示室1・2

☆：初出品 *：寄託作品

I：[前期] 2019年8月1日(木)～10月14日(月・祝)

II：[後期] 2019年10月26日(土)～12月15日(日)

出品作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)	
コレクション解析学						
1	喜多村麦子	暮れ行く堀川	1928	絹本着彩	112.8×146.3	I
2	野水 信	コの記号	1965	鉄	147.0×42.0×25.0	II

エコール・ド・パリ：パスキンの芸術

1	マルク・シャガール	二重肖像	1924	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0	I・II
2	キース・ヴァン・ドンゲン	コルセットの女	1908	油彩・キャンヴァス	65.0×50.0	I・II
☆ 3	藤田嗣治	二人の祈り	1952	油彩・キャンヴァス	46.2×38.2	I・II
☆ 4	藤田嗣治	夢	1954	油彩・キャンヴァス	50.8×61.3	I・II
5	マリー・ローランサン	サーカスにて	1913頃	油彩・キャンヴァス	116.5×89.0	I・II
6	アメデオ・モディリアアーニ	おさげ髪の少女	1918頃	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4	I・II
7	ハイム・スーチン	セレの風景	1922頃	油彩・キャンヴァス	79.8×87.2	I・II
8	モーリス・ユトリロ	ラバン・アジュール	1913頃	油彩・キャンヴァス	50.0×65.0	I・II
9	ジュール・パスキン	クララとジュヌヴィエーヴ	1925	油彩・キャンヴァス	92.0×73.0	I・II
10	ジュール・パスキン	カフェにて	1910頃	インク・紙	14.0×22.0	I
11	ジュール・パスキン	ジャネットとベアとロベール	1920年代	インク・紙	43.0×55.4	I
12	ジュール・パスキン	城壁跡の光景	1908	ドライポイント・紙 ed.5/50	9.8×14.4	I
13	ジュール・パスキン	洗濯女	1909	ドライポイント・紙 ed.30/50	16.6×23.0	I
14	ジュール・パスキン	街路にて	1912	ドライポイント・紙 ed.5/100	9.3×11.9	I
15	ジュール・パスキン	モンマルトルの女たち	1912	木版・紙 ed.E.A.	7.9×9.4	I
16	ジュール・パスキン	モンマルトルの酒場	1912	ドライポイント・紙 ed.E.A.	8.3×11.0	I
17	ジュール・パスキン	若い男	1912	ドライポイント・紙 ed.12/50	9.8×5.7	I
18	ジュール・パスキン	夕食	1916	エッチング・紙 ed.E.A.	6.7×7.5	I
19	ジュール・パスキン	アメリカの少女	1917	ソフトグラウンドエッチング・紙 ed.5/100	8.4×8.4	I
20	ジュール・パスキン	美しきヨーロッパ婦人	1918	ドライポイント・紙 ed.8/100	14.7×9.5	I
21	ジュール・パスキン	母と娘	1922	ドライポイント・紙 ed.5/50	13.7×11.9	I
22	ジュール・パスキン	目ざめ	1925	リトグラフ・紙 ed.E.A.	24.8×18.9	I
23	ジュール・パスキン	エウロペの掠奪	1923	ドライポイント、アクアチント・紙 ed.5/50	9.7×13.6	II
24	ジュール・パスキン	ここにヘロデ王ありき	1923	エッチング・紙 ed.5/50	11.3×14.9	II
25	ジュール・パスキン	放蕩息子と娘たち	1926	ドライポイント・紙 ed.17/100	33.5×47.9	II
26	ジュール・パスキン	再び放蕩息子	1927	ソフトグラウンドエッチング・紙 ed.8/100	25.2×30.0	II
27	ジュール・パスキン	サロメ	1927	ドライポイント、アクアチント・紙 ed.13/100	23.9×24.0	II
28	ジュール・パスキン	サロメ、サロメ	1927	エッチング、エマーユシャンルヴェ・紙 ed.10/100	23.9×31.6	II
29	ジュール・パスキン	サロメの踊り	1927	ドライポイント・紙 ed.3/100	20.2×27.2	II
30	ジュール・パスキン	バテシバの化粧	1928	ドライポイント、メゾチント・紙 ed.5/100	32.6×24.9	II
31	ジュール・パスキン	千夜一夜物語	1929	ソフトグラウンドエッチング、メゾチント・紙 ed.35/100	59.7×49.3	II
32	ジュール・パスキン	ヘロデ王の前で踊るサロメ	1930	ソフトグラウンドエッチング、アクアチント・紙 ed.57/100	45.5×57.0	II

現代の美術：反復と連続

1	河口龍夫	関係一質(青84-4)	1984	綿布、銅板、液体	180.0×100.0×1.5	I・II
2	河口龍夫	関係一質(青84-10)	1984	綿布、銅板、液体	180.0×100.0×1.5	I・II
3	木下佳通代	UNTITLED	1975	シルクスクリーン、フェルトペン・紙	111.4×79.0	II
4	中村 宏	車窓編 TYPE10—A,B,C	1981	油彩・キャンヴァス(3点1組)	各91.0×117.0	I・II
5	野水 信	コの記号	1965	鉄	147.0×42.0×25.0	I
6	村上友晴	十字架の道	1998	油彩、アクリル・紙(14点1組)	各31.5×23.0	I・II
7	山田正亮	Work D. 52	1972	油彩・キャンヴァス	227.5×162.0	I・II
8	吉川家永	作品—26	1962	油彩・厚紙	178.0×146.5	I・II
9	ジョセフ・アルバース	白線の正方形VIII	1966	シルクスクリーン・紙	39.8×39.8	I
10	アンゼルム・キーファー	シベリアの女王	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5	I・II
11	アグネス・マーチン	無題 No.3	1992	アクリル・キャンヴァス	183.0×183.0	I・II
12	ショーン・スカリー	ボディ	1993	油彩・キャンヴァス	213.4×243.8	I・II
13	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7	I・II
14	ヴィクトル・ヴァザルリ	パリ—東京-i	1980	シルクスクリーン・紙	52.0×52.0	I
15	クロード・ヴィアラ	無題	1979	アクリル・テント	455.0×560.0	I・II

メキシコ・ルネサンス：タマヨの芸術

1	マリア・イスキエルド	巡礼者たち	1945	油彩・キャンヴァス	60.0×75.0	I・II
2	マリア・イスキエルド	生きている静物	1947	油彩・キャンヴァス	80.3×99.7	I・II
3	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・金属板	14.9×11.0	I・II
4	ホセ・クレメンテ・オロスコ	白い神々	1947頃	油彩・メゾナイト	71.0×91.5	I・II
5	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	フレスコ・石膏(3層)、ワイヤラス(金網)、合板	161.9×201.3	I・II
6	ディエゴ・リベラ	ヘンリー・ノーウェップの肖像	1935	油彩・板	115.1×91.2	I・II
7	ダビッド・アルファロ・シケイロス	母と子	1962	デュコ・メゾナイト	80.2×61.2	I・II
8	ルフィーノ・タマヨ	苦悶する人	1949	油彩・キャンヴァス	100.0×80.0	I・II
9	ルフィーノ・タマヨ	横笛を吹く人	1983	油彩・キャンヴァス	129.0×95.5	I・II
10	ルフィーノ・タマヨ	メキシコの風	1952	リトグラフ・紙(4点) ed.230/274	25.0×19.3	I
11	ルフィーノ・タマヨ	パラナの三角州の夜明け	1972	リトグラフ・紙(2点) ed.87/129	38.0×28.0	I
12	ルフィーノ・タマヨ	人物	1975	リトグラフ・エンボス ed.87/100	76.0×55.0	I
13	ルフィーノ・タマヨ	聖ヨハネの黙示録	1959	カラーリトグラフ・Rives紙(15点より抜粋) ed.117/255	32.8~33.0×25.0~25.3	II

郷土の美術：洋画におけるモデルとポーズ

1	大澤海蔵	室内裸婦	1930	油彩・キャンヴァス	112.7×146.0	I・II
2	大澤海蔵	厨房	1934	油彩・キャンヴァス	145.7×112.4	I・II
3	大澤鉦一郎	裸婦	1917	油彩・キャンヴァス	45.5×33.3	I・II
4	太田三郎	モデルたち	1933	油彩・キャンヴァス	132.0×196.0	I・II
5	北川民次	作文を書く少女	1939	油彩・キャンヴァス	73.4×60.7	I・II
6	鬼頭鍋三郎	背向きの裸婦	1930	油彩・キャンヴァス	116.0×99.0	I・II
7	鬼頭鍋三郎	画室の女	1933	油彩・キャンヴァス	160.0×120.0	I・II
8	鬼頭鍋三郎	手をかざす女	1934	油彩・キャンヴァス	191.0×129.0	I・II
9	鬼頭鍋三郎	裸婦	1934	油彩・キャンヴァス	116.5×91.0	※
10	鬼頭鍋三郎	裁縫	1939	油彩・キャンヴァス	116.5×90.8	※
11	山田睦三郎	生花の時間	1943	油彩・キャンヴァス	100.0×80.3	I・II

※展示公開後、No.9《裸婦》に修復が必要な所見を確認。9/11閉館後に撤去作業を行い、残り会期の代替作品としてNo.10《裁縫》を展示した。

名品コレクション展Ⅲ

会期：2020年1月8日(水)～3月1日(日)

常設展示室1・2

出品作品

☆=初出品 * =寄託作品

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ (cm)
-----	-----	-----	-----	-------	----------

コレクション解析学

1	鬼頭夔二郎	風景	1925	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0
---	-------	----	------	-----------	-----------

エコール・ド・パリ：パリの日本人作家

* 1	安藤邦衛	赤い帽子をかぶった女	1919	油彩・キャンヴァス	38.0×30.5
2	伊藤廉	A. E. 氏の肖像	1929	油彩・キャンヴァス	100.8×81.0
3	海老原喜之助	風景	1927	油彩・キャンヴァス	81.4×100.3
4	岡鹿之助	魚	1927	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0
* 5	荻須高德	エドガー・キネ通りの市場	1929	油彩・キャンヴァス	60.0×73.0
☆* 6	鬼頭夔二郎	[風景]	1924	油彩・キャンヴァス	50.0×60.8
7	佐分真	風景	c. 1927-28	油彩・キャンヴァス	60.9×73.2
8	田中保	ソリタ・ソラノの肖像	1923	油彩・キャンヴァス	103.0×73.5
9	東郷青児	帽子をかむった男(歩く女)	1922	油彩・キャンヴァス	60.9×49.9
☆ 10	富澤有為男	[風景]	c. 1929-30	油彩・キャンヴァス	37.2×45.3
* 11	藤田嗣治	裸婦	1928	油彩・キャンヴァス	73.0×101.0
12	マルク・シャガール	二重肖像	1924	油彩・キャンヴァス	130.0×100.0
13	ハイム・スーチン	農家の娘	c. 1919	油彩・キャンヴァス	80.0×45.0
14	アメデオ・モディリアーニ	おさげ髪の少女	c. 1918	油彩・キャンヴァス	60.1×45.4
受贈記念特別出品					
15	藤田嗣治	二人の祈り	1952	油彩・キャンヴァス	46.2×38.2
16	藤田嗣治	夢	1954	油彩・キャンヴァス	50.8×61.3

現代の美術：写実の拡がり

1	赤瀬川原平	復讐の形態学(殺す前に相手をよく見る)	1963	インク・紙、パネル	90.0×180.0
2	荒川修作	自画像	1967	油彩、鉛筆・キャンヴァス	173.0×62.0
3	荒川修作	名前のない耐えているもの No.2	1958(1986)	ミクストメディア	253.5×123.1×22.7
4	岩田信市	ファイティング・ビューティ(キック)	1981	アクリル・キャンヴァス	150.5×302.0
5	河原温	《Today》シリーズより/FEB.23,1966	1966	アクリル・キャンヴァス	20.5×25.5
6	河原温	《I Got Up》シリーズ	1976	スタンプ、絵葉書(20枚)	各9.0×14.0
☆ 7	久野和洋	地の風景・道のかたち	2003-04	油彩・キャンヴァス	130.3×194.0
8	中西夏之	G/Z 足元はオレンジ色 HOHO-1	1994	油彩・キャンヴァス	227.3×181.5
9	中村正義	自画像	1962	紙本着彩	161.6×129.4
10	福岡道雄	琵琶湖の風	1982	FRP	183.8×120.7×47.1
11	藤本由紀夫	RECORD	2001	ミクストメディア	30.0×30.0×10.0
12	藤本由紀夫	REAL(3D)	2002	レンチキュラーシート、紙、木製額縁	76.0×58.0×3.0
13	星野真吾	蘇る残像	1979	紙本着彩	130.3×162.0
14	三岸節子	雷がくる	1979	油彩・キャンヴァス	89.0×116.3
☆* 15	三輪美津子	STATUE No.4	2009	油彩・キャンヴァス	162.0×130.3
16	村井正誠	歩く人	1992	油彩・キャンヴァス	228.0×182.0
17	村上友晴	マリア礼拝堂	2009	油彩、鉄筆・キャンヴァス	91.0×72.5
18	アンゼラム・キーファー	シベリアの女王	1988	ミクストメディア	280.0×501.0×6.5
19	トニー・クラッグ	住処のある静かな場所	1984	木	155.0×105.0×60.0
20	ラインハルト・サビエ	ユダヤ人としての自画像	1993	コラーージュ・紙、彩色アクリルグラス	123.0×98.0
21	フランク・ステラ	説教	1990	アルミニウム、ミクストメディア	345.5×365.8×139.7

メキシコ・ルネサンス: イサム・ノグチとメキシコの作家

1	北川民次	トラルバム霊園のお祭り	1930	油彩・キャンヴァス	99.5×89.8
2	北川民次	メキシコ水浴の図	1930	油彩・キャンヴァス	78.6×68.5
3	ホセ・クレメンテ・オロスコ	メキシコ風景	1932	油彩・キャンヴァス	76.1×93.9
4	フリーダ・カーロ	死の仮面を被った少女	1938	油彩・金属板	14.9×11.0
5	ダビッド・アルファロ・シケイロス	婦人像	1934	油彩・メゾナイト	152.7×78.7
6	イサム・ノグチ	死すべきもの	1959-62(1988)	ブロンズ	190.0×51.0×48.0
7	コンスタンティン・ブランクーシ	うぶごえ	1917(1984)	ブロンズ	17.0×26.0×18.0
8	ディエゴ・リベラ	スペイン風景(トレド)	1913	油彩・キャンヴァス	89.0×110.0
9	ディエゴ・リベラ	プロレタリアの団結	1933	プレスコ・石膏(3層)、ワイヤラス(金網)、合板	161.9×201.3
10	ディエゴ・リベラ	ヘンリー・ノーウェップの肖像	1935	油彩・板	115.1×91.2

郷土の美術: 岸田劉生と愛美社

1	大澤鉦一郎	宮脇少年像	1916	油彩・キャンヴァス	41.0×32.0
2	大澤鉦一郎	リンゴ三つ	1917	油彩・キャンヴァス	26.0×31.5
3	大澤鉦一郎	田舎の少年	1919	油彩・キャンヴァス	40.9×31.8
4	大澤鉦一郎	城のある風景	1920	油彩・キャンヴァス	60.9×45.7
5	岸田劉生	自画像	1914	インク・紙	29.5×18.5
6	岸田劉生	なわとびの図	1921	紙本着彩	24.2×33.7
7	岸田劉生	菊(君子独居)	1923	紙本着彩	84.0×34.2
8	岸田劉生	[臙顔染(花籠)]	1923	臙顔染・木綿	20.0×19.5
9	萬代比佐志	少女像	1921	鉛筆・紙	55.2×40.0
10	藤井外喜雄	りんご	1912-1926	油彩・板	23.7×33.0
11	藤井外喜雄	自画像	1920	油彩・板	33.0×23.5
12	水野正一	[静物、茶碗と林檎3個]	1918	油彩・キャンヴァス	33.5×45.5
13	水野正一	少女	1921	油彩・キャンヴァス	73.0×53.0
14	水野正一	自画像	1920's	油彩・キャンヴァス	45.7×38.3
15	宮脇晴	卓上の林檎	1919	油彩・キャンヴァス	24.2×33.3
16	宮脇晴	夜の自画像	1919	油彩・キャンヴァス	61.0×45.7
17	宮脇晴	母の像	1921	油彩・キャンヴァス	68.8×61.0
18	山田睦三郎	[静物]	1919	油彩・キャンヴァス	60.4×45.5
19	山田睦三郎	[一本の樹]	c. 1919	油彩・キャンヴァス	53.0×41.0
20	山田睦三郎	[とみ子六歳の肖像]	1921	油彩・キャンヴァス	45.5×38.0
21	山田睦三郎	[自画像]	1922	油彩・キャンヴァス	60.6×50.0

(2)常設企画展 Thematic Exhibition

新たなる木彫表現を求めて —平櫛田中賞受賞の作家たち—

In Search of the New Wood Carving Expression –
Artists Awarded Hirakushi Denchu Prize

会期：2019年4月9日(火)～6月30日(日)

会場

常設展示室3

内容

国土の七割を森林が占める日本では、豊富な木材資源を利用して、古くから様々な生活用具や建築が作られてきた。そして6世紀半ばに仏教が伝来すると、信仰の対象としての仏像が盛んに作られるようになり、平安末期から鎌倉時代を頂点に、数々の傑作が生まだされた。その後木彫表現は緩やかに衰微しつつ明治期を迎えるが、急激な西洋化への反動として起こった伝統美術復興の流れの中で、再び命を吹き返す。この木彫復活の中心にいた作家の一人が平櫛田中(ひらくし・でんちゅう)で、107年の長寿を生きた田中は、明治、大正、昭和の三代にまたがって数々の優れた作品を残した。この田中の偉大な業績を顕彰して存命中の1972年に設けられ

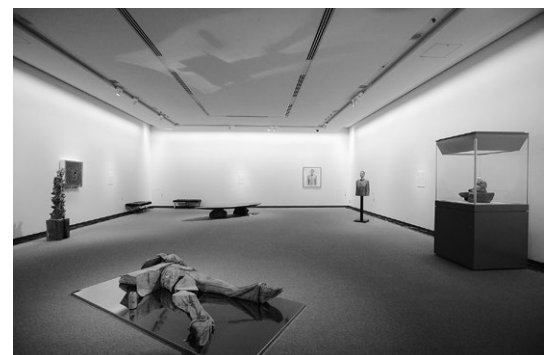
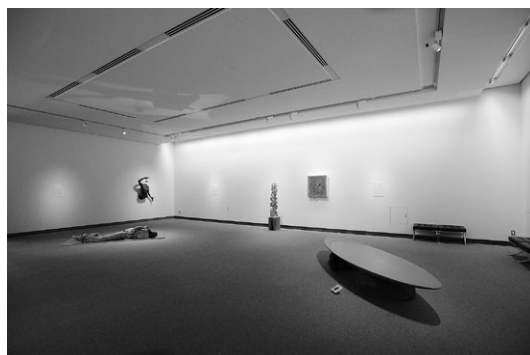


チラシ

たのが「平櫛田中賞」で、以来数多くの作家がこの賞の榮譽を受けている。今回の展示ではその中から選ばれた5人の彫刻家(小清水漸、戸谷成雄、舟越桂、藪内佐斗司、黒蔵壮)と田中自身の作品をあわせて展示し、長い伝統を持つ木彫表現の神髄と、そこに新たな息吹を与えようとする作家たちの様々な試みを紹介した。

出品作品

作者	作品名	制作年	素材	サイズ (cm)	所蔵	受賞年
平櫛田中	釣隠	1953	木、彩色	(本体)26.9×18.1 (台座)51.3×36.7(高さ)44.2	メナード美術館	
小清水漸	夢の浮舟—赤い舟	1987	木、石、水	85.0×300.0×40.0	名古屋美術館	第10回(1981)
戸谷成雄	17.レリーフ '98 II	1998	木、灰、アクリル	76.0×72.5×12.0	個人蔵(名古屋美術館寄託)	第17回(1995)
	立ち昇る森	1999	木、灰、アクリル	166.0×30.0×30.0	個人蔵(名古屋美術館寄託)	
舟越桂	かたい布はときどき話す	1988	楠に着色、大理石	高さ81.0	名古屋美術館	第18回(1997)
	「かたい布はときどき話す」のためのドロイング	1988	木炭、鉛筆・紙	97.0×86.3	名古屋美術館	
藪内佐斗司	女の鎧—おつまみ	1990	漆、顔料・檜	115.0×105.0×35.0	刈谷市美術館	第21回(2003)
黒蔵壮	マイハウスI	1986	楠、ステンレス	230.0×150.0×50.0	個人蔵	第27回(2015)



会場風景

平成から令和へと変わった今年度は4本の特別展を開催しました。

まず4月から5月末にかけては「印象派からその先へ―世界に誇る吉野石膏コレクション」を開催しました。明治以降、西洋の近代美術に強い憧れを抱いてきた日本人は数多くの美術品を収集してきました。国立西洋美術館の松方コレクションや大原美術館の大原コレクションなどがその代表的なものですが、比較的近年の重要なコレクションとして知られるのが吉野石膏コレクションです。当館では過去に開催した様々な展覧会で吉野石膏のコレクションを借用していますが、72点もの作品をまとめて紹介したのはこれが初めてでした。印象派からエコール・ド・パリを中心とするそのコレクションの質の高さに、来館された多くの方が驚かれ、またこの展覧会で初めてこのコレクションを知った方も多かったようです。ご覧になった方々の満足度も高く、予想を超える入場者をお迎えすることができました。

次いで8月から10月中旬にかけては、4回目となる「あいちトリエンナーレ2019」を開催しました。「情の時代」をテーマに掲げた今回のトリエンナーレでしたが、そのテーマよりも小企画として開催した「表現の不自由展・その後」が大きくクローズアップされ、全国的な話題となってしまいました。美術愛好家に限らず、様々な立場の人々を議論に巻き込んだという点では大きな意味がありましたが、本質的な議論とは別の部分でヒートアップする場面も少なからずあり、終了から1年近い時間を経ても未だにその余波の中にあります。議論の高まりが、課題の解決や理解に向かうのではなく、むしろ対立や分断をよりエスカレートさせる結果となってしまったことが残念でなりません。皮肉なことに、多くのメディアで取り上げられることにより、全会場の入場者数合計は予想をかなり上回りました。

10月下旬から12月中旬にかけては、イタリア・バロック絵画の巨匠「カラヴァッジョ展」を開催しました。カラヴァッジョはイタリアの国民的な画家であり、作品数もそれほど多くないことから、日本での紹介はこれまで僅かしかありません。今回は帰属作品も含めて10点のカラヴァッジョ作品と、関連作家の作品30点のあわせて40点のバロック絵画をご覧いただきました。光と闇が鋭く交錯するその絵画世界は見応え十分。日本ではほとんど見るのできないバロック絵画の神髄に、多くの来館者の方がご満足いただけたようです。ただし準備は大変でした。名古屋の前の札幌会場では、予定していた多くの作品が到着せず、名古屋会場でも当初の出品予定作品がかなり入れ替わるなど、開催直前まで綱渡りのような毎日でした。展覧会に不測の事態はつきもの、とはいうものの、ここまで二転三転した例は記憶にありません。

令和元年度最後の展覧会は「没後90年記念 岸田劉生展」を開催しました。「麗子像」で広く知られる岸田劉生ですが、38歳の若さでこの世を去るまで、絵画の本質とは何かを真剣に追求し続けました。肖像画、静物画、風景画など劉生が取り組んだ画題は多岐にわたり、またその様式も時代を追って目まぐるしく変化していきましたが、その揺れ動く軌跡はまさに劉生の人生の歩みそのものでした。本展では出品作品をほぼ制作年代順に展示することにより、その変化の軌跡を分かりやすく紹介しました。名古屋では久しぶりの本格的な岸田劉生展であり、代表作を網羅したその内容が多くの方に感銘を与えました。惜しむらくは会期の最終盤になって新型コロナウイルスの感染が拡大したために、来館を控えた方が少なくなかったことです。ただ、その後の展開を考えれば、最後まで開催することができただけでも幸運だったのかもしれない。こうして振り返ってみると、実に波乱含みの1年間だったことを改めて痛感します。

印象派からその先へ —世界に誇る吉野石膏コレクション—

Impressionism and Beyond
- Master Paintings from the Yoshino Gypsum Collection

会期：2019年4月9日(火)～5月26日(日)

会場

企画展示室1・2

主催

名古屋市美術館、中日新聞社、日本経済新聞社、テレビ愛知、共同通信社

後援

愛知県・岐阜県各教育委員会、名古屋市立小中学校PTA協議会

特別協力

吉野石膏株式会社、公益財団法人吉野石膏美術振興財団

協力

公益財団法人山形美術館、名古屋市交通局

協賛

あいおいニッセイ同和損保

観覧料

一般1,300円、高大生900円、中学生以下無料

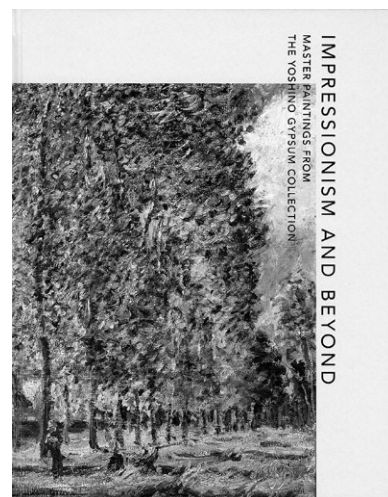
内容

石膏建材メーカーとして知られる吉野石膏株式会社は、1970年代から本格的に絵画の収集を開始し、2008年には公益財団法人吉野石膏美術振興財団を設立。コレクションの拡充と調査研究を進めている。そうして形成された西洋近代美術のコレクションは、質量ともに日本における歴代のコレクションに勝るとも劣らぬ内容を誇り、現在、その多くは創業の地である山形県の山形美術館に寄託されている。

本展では、吉野石膏株式会社および公益財団法人吉野石膏美術振興財団が所蔵する西洋近代絵画72点を紹介した。バルビゾン派から印象派を経て、フォーヴィスム、キュビズム、さらにエコール・ド・パリまでを網羅する作品群を、年代に沿って作家ごとに展示し、西洋近代美術史の流れを把握しやすい構成とした。作家別では、ピサロ、モネ、シャガールの三人は、それぞれの様式の変遷を把握できるほどに充実した点数が揃っていた。本展は、中部地方において、吉野石膏コレクションの西洋近代美術の名品をまとめて紹介する初めての機会となった。



ポスター



図録

関連催事

①記念講演会

日時：4月14日(日)午後2時～午後3時30分
会場：名古屋市美術館2階講堂
講師：佐藤菜々子(公益財団法人吉野石膏美術振興財団学芸員)
演題：「吉野石膏コレクションの見どころ、教えます」



記念講演会

②作品解説会

日時：4月27日(土)、5月18日(土)午後2時～午後3時30分
会場：名古屋市美術館2階講堂
講師：森本陽香(名古屋市美術館学芸員)

③アートトーク

日時：4月21日(日)午後2時30分～午後3時30分
会場：中区役所ホール
講師：山田五郎(編集者・評論家)
演題：「吉野石膏コレクションの楽しみ方」



アートトーク

④閉館後の展示室内での特別鑑賞会(有料催事、事前申込制)

日時：A. 4月27日(土)、B. 5月18日(土)
いずれも午後5時～
A=学芸員による解説(名画の夕べ)
B=学芸員による解説+コンサート(クラシックの夕べ)
会場：名古屋市美術館2階講堂および特別展会場

⑤休館日のベビーカートツアー(事前申込制)

日時：5月20日(月)午前10時30分～正午、
午後1時30分～午後3時
会場：特別展会場



クラシックの夕べ

⑥宗次ホールコラボ企画「名曲×名画 印象派コンサート」

日時：5月9日(木)午後1時30分～午後3時
会場：宗次ホール
講師：森本陽香(名古屋市美術館学芸員)
演奏：唐沢安岐奈(チェロ)、原田綾子(ピアノ)

⑦イーブルなごや公開講座

日時：5月15日(水)午後2時～
会場：イーブルなごや
(名古屋市男女共同参画センター・女性会館)大研修室



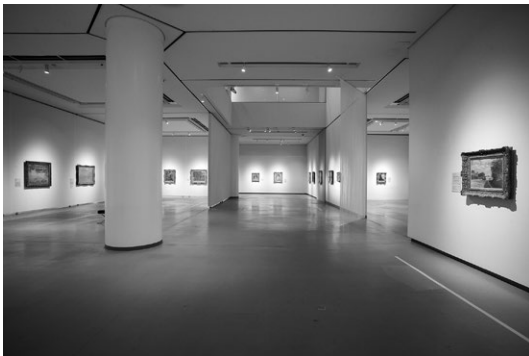
ベビーカートツアー

出品作品

番号	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)
1章：印象派、誕生 ～革新へと向かう絵画～					
1	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	牧場の休息地、農婦と三頭の雌牛	1870-74	油彩／カンヴァス	46.0×38.0
2	ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー	浅瀬を渡る山羊飼、イタリアの思い出	c.1872	油彩／カンヴァス	51.6×39.8
3	ジャン＝フランソワ・ミレー	群れを連れ帰る羊飼	1860-65	油彩、パステル、インク、黒コンテ／カンヴァス	46.5×56.0
4	ジャン＝フランソワ・ミレー	バター作りの女	1870	油彩／カンヴァス	98.4×62.2
5	ギュスターヴ・クールベ	ジョーの肖像、美しいアイルランド女性	c.1872	油彩／カンヴァス	54.0×64.0
6	エドゥアール・マネ	イザベル・ルモニエ嬢の肖像	c.1879	油彩／カンヴァス	99.3×75.6
7	ウジェーヌ＝ルイ・ブーダン	アブヴィル近くのソム川	c.1890-94	油彩／カンヴァス	61.0×50.0
8	クロード・モネ	ヴェトウイユ、サン＝マルタン島からの眺め	1880	油彩／カンヴァス	60.4×79.4
9	クロード・モネ	サン＝ジェルマンの森の中で	1882	油彩／カンヴァス	81.0×65.0
10	クロード・モネ	ヴェルノン教会の眺め	1883	油彩／カンヴァス	65.0×81.0
11	クロード・モネ	テムズ河のチャリング・クロス橋	1903	油彩／カンヴァス	73.0×100.0
12	クロード・モネ	睡蓮	1906	油彩／カンヴァス	81.0×92.0
13	アルフレッド・シスレー	マントからショワジール＝ロワへの道	1872	油彩／カンヴァス	46.0×56.0
14	アルフレッド・シスレー	モレに続く道	1882	油彩／カンヴァス	54.0×73.0
15	アルフレッド・シスレー	モレ＝シュール＝ロワン、朝の光	1888	油彩／カンヴァス	60.0×73.0
16	アルフレッド・シスレー	モレのポプラ並木	1888	油彩／カンヴァス	54.0×73.0
17	アルフレッド・シスレー	モレのロワン川、洗濯船	1890	油彩／カンヴァス	54.0×65.0
18	アルフレッド・シスレー	ロワン川沿いの小屋、夕べ	1896	油彩／カンヴァス	65.0×81.0
19	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	森の散歩道(ル・クール夫人とその子供たち)	1870	油彩／カンヴァス	41.0×32.5
20	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	桃のある静物	1871	油彩／カンヴァス	24.5×32.5
21	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	庭で犬を膝にのせて読書する少女	1874	油彩／カンヴァス	61.0×48.5
22	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	シュザンヌ・アダン嬢の肖像	1887	パステル／紙	61.0×49.2
23	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	箒をもつ女	1889	油彩／カンヴァス	65.0×46.0
24	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	幼年期(ジャック・ガリマールの肖像)	1891	油彩／カンヴァス	64.0×50.3
25	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	赤いブラウスを着た花帽子の女	1914	油彩／カンヴァス	46.0×38.0
26	エドガー・ドガ	踊り子たち(ピンクと緑)	1894	パステル／紙	70.9×49.0
27	メアリー・カサット	マリー＝ルイーゼ・デュラン＝リュエルの肖像	1911	パステル／紙	76.7×64.0
28	カミーユ・ピサロ	モンフォーコーの冬の池、雪の効果	1875	油彩／カンヴァス	114.3×109.9
29	カミーユ・ピサロ	ポントワーズの橋	1878	油彩／カンヴァス	60.5×73.0
30	カミーユ・ピサロ	ポントワーズのル・シュ	1882	油彩／カンヴァス	73.0×92.0
31	カミーユ・ピサロ	暖をとる農婦	1883	油彩／カンヴァス	73.2×60.0
32	カミーユ・ピサロ	ロンドンのキューガーデン、大温室前の散歩道	1892	油彩／カンヴァス	54.0×65.0
33	カミーユ・ピサロ	ルーアンのエписリー通り、朝、雨模様	1898	油彩／カンヴァス	81.0×65.0
34	ポール・セザンヌ	マルセイユ湾、レスタック近郊のサンタンリ村を望む	1877-79	油彩／カンヴァス	64.5×80.2
35	フィンセント・ファン・ゴッホ	雪原で薪を運ぶ人々	1884	油彩／カンヴァス(板に貼付)	67.0×126.0
36	フィンセント・ファン・ゴッホ	静物、白い花瓶のバラ	1886	油彩／カンヴァス	37.0×25.5
2章：フォーヴから抽象へ ～モダン・アートの諸相～					
37	ジョルジュ・ルオー	法官たち	1908	油彩／紙(カンヴァスで裏打)	77.5×56.5
38	ジョルジュ・ルオー	占い師	1937-39	油彩／厚紙	47.0×38.0
39	ジョルジュ・ルオー	バラの髪飾りの女	1939	油彩／紙(カンヴァスで裏打)	71.0×61.0
40	ピエール・ボナール	靴下をはく若い女	1908-10	油彩／カンヴァス	53.0×63.0
41	アンリ・マティス	緑と白のストライプのブラウスを着た読書する若い女	1924	油彩／カンヴァス	55.0×38.5
42	アンリ・マティス	静物、花とコーヒークップ	1924	油彩／カンヴァス	61.6×50.8
43	アルベール・マルケ	コンフラン＝サントノリーヌの川船	1911	油彩／カンヴァス	65.5×81.0
44	アルベール・マルケ	ロルボワーズ	制作年不詳	油彩／カンヴァス	50.0×61.0
45	モーリス・ド・ヴラマンク	セーヌ河の岸辺	c.1906	油彩／カンヴァス	50.5×65.5
46	モーリス・ド・ヴラマンク	大きな花瓶の花	1905-06	油彩／カンヴァス	104.3×52.5
47	モーリス・ド・ヴラマンク	花瓶の花	1909	油彩／カンヴァス	73.0×59.5
48	モーリス・ド・ヴラマンク	村はずれの橋	1911	油彩／カンヴァス	81.0×100.0
49	アンリ・ルソー	工場のある町	1905	油彩／カンヴァス	46.0×55.0
50	ジョルジュ・ブラック	洋梨のある静物(テーブル)	1918	油彩／カンヴァス	65.5×79.3
51	ジョアン・ミロ	シウラナ村	1917	油彩／カンヴァス	51.0×62.0
52	パブロ・ピカソ	フォンテーヌブローの風景	1921	パステル／紙	50.0×65.0
53	パブロ・ピカソ	女の肖像(マリー＝テレーズ・ワルテル)	1937	油彩／カンヴァス	46.0×38.0
54	パブロ・ピカソ	帽子をかぶった女	1939	油彩／カンヴァス	65.0×50.0
55	ワシリー・カンディンスキー	結びつける緑	1926	油彩／カンヴァス	84.0×57.5
56	ワシリー・カンディンスキー	適度なヴァリエーション	1941	油彩／カードボード	70.0×70.0

3章:エコール・ド・パリ ~前衛と伝統のはざままで~

57	モーリス・ユトリロ	モンマルトルのミュレ通り	c.1911	油彩／厚紙	81.0×60.0
58	モーリス・ユトリロ	サン＝ベルナール(アン県)の家並	1929	油彩／カンヴァス	60.0×73.0
59	マリー・ローランサン	五人の奏者	1935	油彩／カンヴァス	81.0×100.0
60	マリー・ローランサン	羽扇をもつ女	1937	油彩／カンヴァス	60.0×50.0
61	キース・ヴァン・ドンゲン	座る子供	1925	油彩／カンヴァス	100.0×80.0
62	モイーズ・キスリング	背中を向けた裸婦	1949	油彩／カンヴァス	73.5×54.5
63	マルク・シャガール	パイプを持つ男	c.1910	油彩／カンヴァス	61.0×38.0
64	マルク・シャガール	逆さ世界のヴァイオリン弾き	1929	油彩／カンヴァス	92.7×73.0
65	マルク・シャガール	バラ色の肘掛椅子	1930	油彩／カンヴァス	72.4×59.5
66	マルク・シャガール	恋人たちと花束	1935-36	油彩、テンペラ／カンヴァス	55.0×38.0
67	マルク・シャガール	夢	1939-44	油彩／カンヴァス	78.7×78.1
68	マルク・シャガール	モンマルトルの恋人たち	1953	油彩／カンヴァス	80.3×72.4
69	マルク・シャガール	サント＝シャベル	1953	油彩／カンヴァス	100.0×81.0
70	マルク・シャガール	天使と恋人たち	1956	油彩／カンヴァス	150.0×119.5
71	マルク・シャガール	翼のある馬	1962	油彩／カンヴァス	115.3×80.7
72	マルク・シャガール	グランド・パレード	1979	油彩／カンヴァス	120.0×132.0



1階会場風景



2階会場風景

あいちトリエンナーレ2019
情の時代
Taming Y/Our Passion

Aichi Triennale 2019: Taming Y/Our Passion

会期：2019年8月1日(木)～10月14日(月・祝)

会場

企画展示室1・2、常設展示室3
(名古屋市美術館、愛知芸術文化センター、
四間道・円頓寺会場、豊田市美術館・豊田市駅周辺)

主催

あいちトリエンナーレ実行委員会

芸術監督

津田大介(ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)

参加アーティスト数

93組 ※30の国と地域から参加

来場者数 (全会場合計)

675,939人

観覧料 (フリーパス)

一般3,000円 大学生2,300円 高校生1,100円 中学生以下無料

内容

あいちトリエンナーレは、2010年から3年ごとに開催されている国内最大規模の国際芸術祭。4回目となる2019年は、「情の時代 Taming Y/Our Passion」をテーマに、「情報」によって人々の「感情」が変化し、またそれを「情け」によってどのように解決していくのか、現代の情報技術や国際社会の状況を捉えた最先端の芸術作品を紹介した。

図録

21.4×27.1×2cm、368ページ

編集：あいちトリエンナーレ実行委員会

発行：あいちトリエンナーレ実行委員会



ポスター



図録

関連イベント

①キュレーターによるハイライト・ツアー（名古屋市美術館）

日時：8月4日(日)午前11時～正午

会場：特別展会場(エントランス・ロビー、企画展示室1・2)

進行役：飯田志保子、ペドロ・レイエス

②ボランティアによるガイドツアー

日時：会期中の金曜日の午後6時30分から、土曜日・日曜日・祝日の午前10時から、午後1時30分から(※10月12日(土)は、台風接近のため中止)

会場：特別展会場(エントランス・ロビー、企画展示室1・2)

③ワークショップ ユニフォームをつくる!

日時：8月14日(水)午前10時～午後3時

会場：常設展示室3

④アーティスト「と」みるツアー

日時：8月17日(土)午後2時～午後3時

会場：特別展会場(エントランス・ロビー、企画展示室1・2)

ゲスト：宮永愛子



アーティスト「と」みるツアー

⑤ラーニング ベビーカートツアー

日時：8月17日(土)午前10時～午前11時

会場：特別展会場(エントランス・ロビー、企画展示室1・2)

⑥エクステンション 藤井光

レクチャーパフォーマンス/鑑賞ツアー『無情』

日時：9月22日(日)午後5時～

会場：特別展会場(エントランス・ロビー、企画展示室1・2)

上演時間：90分

上演言語：日本語

チケット料金：1,300円



ベビーカートツアー

⑦つくるをふかめるウィーク

日時・講師

9月22日(日) 午後1時30分～午後4時30分 会田大也

9月23日(月・祝) 午後1時30分～午後4時30分 青木美紅

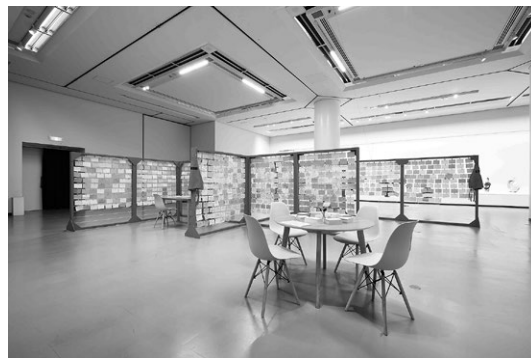
9月29日(日) 午後1時30分～午後4時30分 denha

会場：常設展示室3

出品作品

番号	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)・上映時間	所蔵
	碓井ゆい	ガラスの中で#1	2019	アクリル枠、布、糸	100.0×100.0×13.5、 100.0×100.0×11.0(2点組)	
	碓井ゆい	ガラスの中で#2	2019	アクリル枠、布、糸	100.0×100.0×13.5、 100.0×100.0×11.0(2点組)	
1	碓井ゆい	ガラスの中で#3	2019	アクリル枠、布、糸	100.0×100.0×13.5	
	碓井ゆい	ガラスの中で#4	2019	アクリル枠、布、糸	100.0×100.0×13.5	
	碓井ゆい	ガラスの中で#5	2019	アクリル枠、布、糸	80.0×80.0×10.8、 80.0×80.0×8.8(2点組)	
	碓井ゆい	ガラスの中で#6	2019	アクリル枠、布、糸	80.0×80.0×10.8	
2	今津景	生き残る	2019	油彩、キャンバス、デジタルプリント、 ビニール、ビデオインスタレーション		
3	藤井光	無情	2019	ビデオ・インスタレーション	10分29秒	
4	モニカ・メイヤー	The Clothesline	2019	参加型インスタレーション		
	榎本佳子	五重塔／壺	2008	陶	120.0×60.0×65.0	
	榎本佳子	竹燕／皿	2008	陶	47.0×36.0×8.0	
	榎本佳子	椿／皿	2008	陶	36.0×43.6×6.0	
	榎本佳子	鷺／壺／鷺	2010	陶	80.0×70.0×50.0(白鷺)、 80.0×40.0×40.0(黒鷺)(2点組)	
	榎本佳子	圧縮紋(武人埴輪)	2010	陶	40.0×40.0×40.0	
	榎本佳子	town/vessels	2011	陶	サイズ可変	
5	榎本佳子	雁行／壺	2012	陶	サイズ可変	
	榎本佳子	カジキ釣り／壺	2014	陶	116.0×68.0×64.0(左)、 37.0×47.0×37.0(右)(2点組)	
	榎本佳子	メロン／壺	2016	陶	22.0×28.0×22.0	
	榎本佳子	壺／桜	2017	陶	40.0×50.0×50.0	
	榎本佳子	橘／皿	2017	陶	46.0×37.0×10.0	
	榎本佳子	イカ／壺	2018	陶、LEDライト	32.0×20.0×20.0	
	榎本佳子	車／皿	2019	陶	50.0×45.0×14.0	
6	バスカレハンドロ(アレハンドロ・ホドロフスキー&バスカル・モンタンドン=ホドロフスキー)	サイコマジック：アレハンドロ・ホドロフスキーへの手紙	2019	レターアーカイヴ、小冊子		
	バスカレハンドロ(アレハンドロ・ホドロフスキー&バスカル・モンタンドン=ホドロフスキー)	アレハンドロ・ホドロフスキーのソーシャル・サイコマジック	2016	シングルチャンネル・ビデオ	7分19秒	
7	青木美紅	1996	2019	プリントした布に刺繍、木枠、モーター、家具、その他	サイズ可変	
	タニア・ベレス・コルドヴァ	Placebo	2017	鑄造されたアルミニウム、金色の チェーンネックレス、純金のチェーン ネックレス	サイズ可変	Courtesy Galerie Martin Janda, Vienna
	タニア・ベレス・コルドヴァ	Portrait of a woman passing by	2019	釉薬をかけた陶器、ドレスを着た女性、衣服	サイズ可変	Courtesy Galerie Martin Janda, Vienna
	タニア・ベレス・コルドヴァ	Mouth	2019	軽石	73.0×60.0×32.0	Courtesy Galerie Martin Janda, Vienna
8	タニア・ベレス・コルドヴァ	Second figure standing next to fountain	2019	長く紐状に編まれた茶色の人毛、プラスチック 容器、水中ポンプ、シャンプー入りの水	サイズ可変	Courtesy Galerie Martin Janda, Vienna
	タニア・ベレス・コルドヴァ	Time-lapse	2017	灰、化粧品、石灰化した土	100.0×68.0×2.8	Courtesy Galerie Martin Janda, Vienna
	タニア・ベレス・コルドヴァ	Various pocket coins	2019	ブロンズ・メキシコとアメリカの現行 通貨の複製	12.0×6.0×3.0	Courtesy Galerie Martin Janda, Vienna
	タニア・ベレス・コルドヴァ	Un parpadeo	2017	大理石彫刻、カラーコンタクトレンズ (右)	φ10.0×90.0	Courtesy Galerie Martin Janda, Vienna

	Sholim	Sholim Inspired by Tokyo Story	2019	GIF	
	Sholim	Career	2013	GIF	
	Sholim	Manager	2013	GIF	
	Sholim	Skinner Box Head	2013	GIF	
	Sholim	Machine	2013	GIF	
	Sholim	Happy Face	2013	GIF	
	Sholim	Director	2013	GIF	
9	Sholim	Ars Longa	2013	GIF	
	Sholim	Dream 1	2017	GIF	
	Sholim	Dream 2	2017	GIF	
	Sholim	Dream 3	2017	GIF	
	Sholim	Dream 4	2017	GIF	
	Sholim	Dream 6	2017	GIF	
	Sholim	Dream 7	2017	GIF	
	Sholim	Dream 10	2017	GIF	
	Sholim	Making of Sholim Inspired by Tokyo Story	2019	シングルチャンネル・ビデオ	10分
10	カタリーナ・ズィディエーラー	Shoum	2009	シングルチャンネル・ビデオ	7分2秒
11	ドラ・ガルシア	ロミオ	2009	パフォーマンス、印刷物	
12	バルテレミ・トグォ	アフリカ:西洋のゴミ袋	2019	金属製フレーム、ポリエチレン袋	サイズ可変



展示風景

カラヴァッジョ展

Caravaggio

会期：2019年10月26日(土)～12月15日(日)

会場

企画展示室1・2

主催

名古屋市美術館、中日新聞社、CBCテレビ

後援

イタリア大使館、イタリア文化会館、名古屋日伊協会、愛知県・岐阜県各教育委員会、名古屋市立小中学校PTA協議会

協賛

野崎印刷紙業、アイシン・エイ・ダブリュ、東海東京証券

協力

アリタリアーイタリア航空、日本航空、日本通運、CBCラジオ、名古屋市交通局、JR東海、近畿日本鉄道

学術協力

メタモルフォジ財団(ローマ)

観覧料

一般1,600円、高大生1,000円、中学生以下無料

内容

イタリアの国民的画家、ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ(1571-1610)の画業と人生に迫る名古屋では初となる展覧会。カラヴァッジョ展は日本で3度目、東海地方では18年ぶりの開催となった。16世紀末、劇的で生々しい表現を宗教や神話の世界にもちこみ、一躍時代の寵児となったカラヴァッジョ。とりわけ印象的なその光と闇の効果は、同時代および後世の画家たちに多大な影響を与え、まもなくレンブラントやラ・トゥールが登場する下地を用意することになった。本展覧会では、カラヴァッジョの作品10点(帰属作品を含む)と、その追従者ら同時代の画家たちの作品30点を展示した。白眉となったのは、晩年の傑作といわれる、ボルゲーゼ美術館(ローマ)所蔵の《ゴリアテの首を持つダヴィデ》である。本展覧会は北海道立近代美術館(札幌)とあべのハルカス美術館(大阪)に巡回したが、初来日の《ゴリアテの首を持つダヴィデ》は当館のみでの公開となった。カラヴァッジョの《洗礼者聖ヨハネ》(ボルゲーゼ美術館)や《メドゥーサの盾(第一ヴァージョン)》(個人蔵)といった質の高い作品とともに、ガイド・レーニ、グエルチーノ、パッティステッロ・カラッチョロ、アルテミジア・ジェンティレスキといった、日本では滅多に見ることのできない17世紀イタリアの巨匠たちの作品を紹介する機会となった。



チラシ



図録

図録

28.0×22.5cm 240ページ

責任編集：小佐野重利(本展監修者／東京大学名誉教授、同大特任教授)

編集：北海道立近代美術館、名古屋市美術館、あべのハルカス美術館、北海道新聞社

編集補佐：木村太郎(大阪芸術大学／神戸女学院大学非常勤講師)

発行：北海道新聞社

関連催事

① 記念講演会

日時:10月26日(土)午後2時～午後3時

会場:名古屋市美術館2階講堂

演題:「カラヴァッジョ時代の申し子あるいは挑戦者―」

講師:小佐野重利

(本展監修者/東京大学名誉教授、同大特任教授)



記念講演会 (小佐野重利氏)

② 記念講演会

日時:11月10日(日)午後2時～午後3時30分

会場:名古屋市美術館2階講堂

演題:「カラヴァッジョと斬首」

講師:宮下規久朗(神戸大学教授)



記念講演会 (宮下規久朗氏)

③ 展覧会解説

日時:11月23日(土・祝)午後2時～午後3時30分

会場:名古屋市美術館2階講堂

講師:保崎裕徳(名古屋市美術館学芸係長)

④ ボランティアによるギャラリートーク

日時:11月8日(金)、13日(水)、14日(木)、15日(金)、19日(火)、

20日(水)、21日(木)、26日(火)、27日(水)

午前10時30分～午前11時30分、午後2時～午後3時

⑤ 閉館後の展示室内での特別鑑賞会(有料催事、事前申込制)

日時:A. 11月9日(土)、B. 11月16日(土)

いずれも午後5時～

A=学芸員による解説(名画のタベ)

B=学芸員による解説+コンサート(クラシックのタベ)

⑥ ヤマザキマリ氏記念講演会

日時:11月14日(木)午後1時～午後2時

会場:名古屋市美術館2階講堂

演題:「とっておきイタリア美術」

講師:ヤマザキマリ(漫画家・随筆家)



クラシックのタベ



ヤマザキマリ氏記念講演会

出品作品

番号	作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ(cm)	所蔵
I 1600年前後のローマにおけるカラヴァッジョと同時代の画家たち						
1	ハートフォードの画家/ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ(?)	花瓶の花、果物および野菜	1605-1606年頃より前	油彩/カンヴァス	105.0×184.0	ローマ、ボルゲーゼ美術館
2	ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ	リュート弾き	1596-97年頃	油彩/カンヴァス	96.0×121.0	個人蔵
3	ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ	メドゥーサの盾(第一ヴァージョン)	1596-98年頃	油彩/カンヴァスに裏打ちされた紙	直径48.0-50.0	個人蔵
4	アンニーバレ・カラッチ	笑う若者の頭部	1580年代	油彩/カンヴァスに裏打ちされた紙	43.0×29.0	ローマ、ボルゲーゼ美術館
5	オラツィオ・ローミ・ジェンティレスキ	聖母子(イエスを待ち受ける悲劇を感じとる聖母)		油彩/カンヴァス	138.0×98.0	個人蔵
6	ジョヴァンニ・バリオーネ	聖ペテロの悔悛	1606年	油彩/カンヴァス	219.0×145.0	トリノ、サバウダ美術館
7	ジュゼッペ・チェーザリ 通称カヴァリエーレ・ダルピーノ	裸の男たちに助けられて急流を渡るディアナとニンフたち	1621-22年	油彩/カンヴァス	55.5×45.5	個人蔵
8	アンティヴェドゥート・グラマティカ	宝飾品を身につけた若い女性の半身像		油彩/カンヴァス	50.0×38.0	個人蔵
9	アンティヴェドゥート・グラマティカ	清純の寓意	1620年頃	油彩/カンヴァス	73.5×59.5	個人蔵
10	オラツィオ・ボルジャンニ	自画像	1607-10年頃	油彩/カンヴァス	65.4×50.2	ローマ、サンルカ国立アカデミー
11	グイド・レーニ	ルクレティア		油彩/カンヴァス	88.5×71.0	個人蔵
12	トンマーゾ・サリーニ	羊に乗る子どもと婦人		油彩/カンヴァス	160.0×111.0	個人蔵
13	17世紀前半の不詳画家	聖トマスの不信(カラヴァッジョ作品からの模写)	1610頃-66年	油彩/カンヴァス	108.5×146.0	フリンツェ、ウフィツィ美術館

II カラヴァッジョと17世紀のナポリ画壇

14	ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ	法悦のマグダラのマリア	1606年	油彩/カンヴァス	107.5×98.0	個人蔵
15	ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ	聖アガピトウスの殉教	1606-09年頃	油彩/カンヴァス	116.0×98.0	バネトリナ(ローマ)、司教区博物館
16	ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ	聖セバスティアヌス	1606年	油彩/カンヴァス	170.0×120.0	個人蔵
17	ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ	歯を抜く人	1608-10年頃	油彩/カンヴァス	139.5×194.5	パルチノ、カヴァリエーレ・ダルピーノ美術館
18	パッテスタ・カヴァッジョ(本名ジョヴァンニ・パッテスタ・カヴァッジョ)	キリストの洗礼	1610年頃	油彩/カンヴァス	113.0×136.0	ナポリ、シロラミニニ教会絵画館
19	パッテスタ・カヴァッジョ(本名ジョヴァンニ・パッテスタ・カヴァッジョ)	子どもの顔あるいは幼い洗礼者聖ヨハネ	1607-10年頃	油彩/カンヴァス	68.5×46.5	ナポリ、市立フィランジェリ美術館
20	ルイ・フィンソン	聖セバスティアヌス	1606-07年頃	油彩/カンヴァス	112.5×78.5	個人蔵
21	フィリッポ・ヴィターレ	ホロフェルネスの首を斬るユディト	1635年頃	油彩/カンヴァス	126.0×154.0	個人蔵
22	ジュゼッペ・デリベラ	会則を受け取る聖ブルーノ	1643年	油彩/銅板	38.0×28.0	ナポリ、サンマルティノ・修道院美術館
23	ジュゼッペ・デリベラ	洗礼者聖ヨハネの首	1646年	油彩/カンヴァス	80.0×98.0	ナポリ、市立フィランジェリ美術館
24	ジュゼッペ・デリベラ	聖ヒエロニムス	1651年	油彩/カンヴァス	121.0×100.0	ナポリ、サンマルティノ・修道院美術館
25	ジュゼッペ・デリベラ	聖アグネスの殉教		油彩/カンヴァス	245.0×170.0	個人蔵
26	アルテミジア・ジェンティレスキ	スザンナと長老たち		油彩/カンヴァス	162.0×123.0	個人蔵

III カラヴァッジョ様式の拡がり

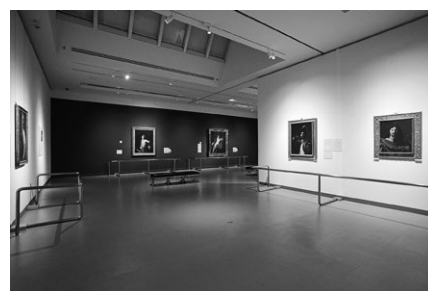
27	ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ	洗礼者聖ヨハネ	1609-10年	油彩/カンヴァス	159.0×124.0	ローマ、ボルゲーゼ美術館
28	ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ	ゴリアテの首を持つダヴィデ	1609-10年頃	油彩/カンヴァス	125.0×101.0	ローマ、ボルゲーゼ美術館
29	ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ(?)	横たわる洗礼者聖ヨハネ		油彩/カンヴァス	107.0×143.0	個人蔵
30	パオロ・グイドッティ	ゴリアテの首を持つダヴィデ	1608年	油彩/カンヴァス	97.0×73.0	ローマ、サンパオロ・マジョーレ・ラ・ヌーヴォー聖堂
31	バルトロメオ・マンフレデー	荒野の洗礼者聖ヨハネ	1608-12年頃	油彩/カンヴァス	119.0×97.0	個人蔵
32	バルトロメオ・マンフレデー	カインとアベル	1620年頃	油彩/カンヴァス	171.0×122.0	パルチノ、カヴァリエーレ・ダルピーノ美術館
33	バルトロメオ・マンフレデー周辺の画家	荊冠のキリスト	1610-20年頃	油彩/カンヴァス	115.0×175.0	トリノ、サバウダ美術館
34	ニコラ・レニエ	紳士の肖像		油彩/カンヴァス	69.0×56.0	個人蔵
35	ジョヴァンニ・フランチェスコ・グエリエーリ	口と娘たち	1617年	油彩/カンヴァス	142.0×164.5	ローマ、ボルゲーゼ美術館
36	ニコラ・トゥルニエ	フィアスコから飲む若者		油彩/カンヴァス	95.3×75.3	個人蔵
37	ジョヴァンニ・フランチェスコ・バルビエーリ 通称グエルチーノ	聖アンデレ		油彩/カンヴァス	116.5×96.0	個人蔵
38	オラツィオ・リミナルディ	ゴリアテの首を持つダヴィデ	1615-20年頃	油彩/カンヴァス	100.0×80.0	トリノ、サバウダ美術館
39	オラツィオ・リミナルディ	イカロスに翼を取り付けるダイダロス		油彩/カンヴァス	132.0×99.0	個人蔵

カラヴァッジョの肖像

40	作者不詳	ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョの肖像	1617年頃	油彩/カンヴァス	59.0×46.5	ローマ、サンルカ国立アカデミー
----	------	---------------------------	--------	----------	-----------	-----------------



1 階会場風景



2 階会場風景

没後90年記念 岸田劉生展

Kishida Riusei: A Retrospective

会期：2020年1月8日(水)～3月1日(日)

会場

企画展示室1・2

主催

名古屋市美術館、中日新聞社、日本経済新聞社、テレビ愛知

後援

愛知県・岐阜県各教育委員会、名古屋市立小中学校PTA協議会

協賛

大日本印刷、トヨタ自動車、損保ジャパン日本興亜

特別協力

東京国立近代美術館

協力

名古屋市交通局、JR東海、近畿日本鉄道

観覧料

一般1,400円、高大生900円、中学生以下無料

内容

《麗子微笑》(重要文化財)で知られる岸田劉生(1891-1929)は38歳で亡くなるまで人物画、静物画、風景画といった多彩なジャンルに取り組み、独創性豊かな作品を描いた。またその精神性の高い作品は、当時の多くの若い画家に大きな影響を与え、今なお観る者を惹きつけている。本展は没後90年を記念して企画され、初期から最晩年までの作品150点余を展示し、日本近代洋画史上で欠かせない存在である岸田劉生の歩んだ絵画の道を紹介した。(重要文化財《麗子微笑》は1月8日から2月16日までの限定公開)。

当初予定した作品数より多くの作品を出品することができ、充実した展示になった。来館者からの反応は好評であり、初めて岸田劉生の作品に本格的に触れる若い世代の姿も見られた。日本近代洋画の展覧会の入場者が減少傾向にあり、展覧会の開催が厳しくなるなかで、あらためて近代洋画家を取り上げる意義を考えるきっかけとなる展覧会になった。

図録

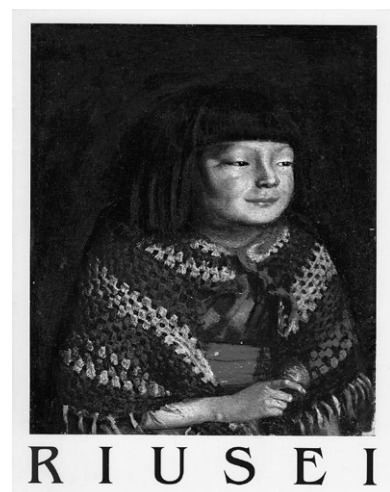
29.0×22.3cm 309ページ

編集：名古屋市美術館、東京ステーションギャラリー、山口県立美術館、中日新聞社

発行：中日新聞社



ポスター



図録

関連催事

① 記念講演会

日時:2020年2月2日(日)午後2時～午後3時30分

会場:名古屋市美術館2階講堂

講師:山田 諭(本展監修者、京都市美術館学芸課長)

演題:「岸田劉生:孤独なるものが行く道」

② 作品解説会

日時:2020年1月18日(土)、2月9日(日)

いずれも午後2時～午後3時

会場:名古屋市美術館2階講堂

講師:井口智子(名古屋市美術館学芸課長)

③ 休館日のベビーカーツアー (事前申込制)

日時:2020年2月25日(火)

①午前10時～正午 ②午後1時30分～午後3時

会場:特別展会場



記念講演会



ベビーカーツアー

I : [前期] 2020年1月8日(水)~2月2日(日)

II : [後期] 2020年2月4日(火)~3月1日(日)

出品作品

No.	作品名	制作年	技法/材質	所蔵	展示期間
第一章 「第二の誕生」まで 1907-1913					
1	緑	1907年8月6日	水彩/紙	東京国立近代美術館	I
2	子守り(想像画)	1907年8月16日	水彩、鉛筆/紙	東京国立近代美術館	I
3	雨	1907年9月17日	水彩、鉛筆/紙	東京国立近代美術館	II
4	薄暮	1907年9月24日	水彩、鉛筆/紙	東京国立近代美術館	I
5	社頭(臨画)	1907年10月25日	水彩、鉛筆/紙	東京国立近代美術館	II
6	大銀杏	1907年11月1日	水彩、鉛筆/紙	東京国立近代美術館	II
7	薄暮之海	1907年12月1日	水彩、鉛筆/紙	東京国立近代美術館	I
8	雨の街路	1908年3月18日	水彩、鉛筆/紙	東京国立近代美術館	I
9	自画像	1908年7月23日	鉛筆/紙	東京国立近代美術館	II
10	橋	1909年9月15日	油彩/麻布	ふくやま美術館	I・II
11	銀座数寄屋橋	1910年頃	油彩/板	郡山市立美術館	I・II
12	銀座と数寄屋橋畔	1910-11年頃	油彩/板	郡山市立美術館	I・II
13	日比谷の木立	1912年頃	油彩/板	下関市立美術館	I・II
14	自画像	1912年3月14日	油彩/麻布	東京都現代美術館	I・II
15	虎ノ門風景	1912年6月19日	油彩/麻布	東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館	I・II
16-1	築地風景	1912年	木版/紙	郡山市立美術館	I
16-2	築地風景	1912年	木版/紙	和歌山県立近代美術館	II
17	築地居留地風景	1912年12月23日	油彩/麻布	個人蔵	I・II
18	築地居留地風景	1913年頃	油彩/麻布	個人蔵	I・II
第二章 「近代的傾向…離れ」から「クラシックの感化」まで 1913-1915					
19	真田久吉氏像	1913年4月5日	油彩/麻布	宮城県美術館	I・II
20	斎藤与里氏像	1913年4月30日	油彩/麻布	愛知県美術館	I・II
21	B.L. の肖像(バーナード・リーチ像)	1913年5月12日	油彩/麻布	東京国立近代美術館	I・II
22	MSの肖像(千家元麿之像)	1913年5月15日	油彩/麻布	個人蔵	I・II
23	Aの肖像	1913年7月8日	油彩/麻布	平塚市美術館	I・II
24	裸婦	1913年7月21日	油彩/麻布	大原美術館	I・II
25	木村荘八像	1913年8月14日	油彩/板	横須賀美術館	I・II
26	Kの肖像(荘太像)	1913年8月23日	油彩/麻布	刈谷市美術館	I・II
27	自画像	1913年10月10日	油彩/麻布	兵庫県立美術館	I・II
28	自画像	1913年11月5日	油彩/麻布	下関市立美術館	I・II
29	清宮氏肖像	1913年11月6日	油彩/麻布	豊橋市美術博物館	I・II
30	自画像	1913年11月21日	油彩/麻布	東京国立近代美術館	I・II
31	自画像	1913年頃	油彩/麻布	個人蔵	I・II
32	自画像	1913年12月25日	油彩/麻布	豊田市美術館	I・II
33	代々木附近	1914年2月1日	油彩/麻布	大阪中之島美術館	I・II
34	自画像	1914年2月13日	油彩/麻布	個人蔵	I・II
35	アダムの孤独	1914年	セピアインク/紙	個人蔵	I
36	The Earth	1914年頃	インク/紙	東京国立近代美術館	I
37-1	怒れるアダム	1914(1975)年	エッチング/紙	郡山市立美術館	I
37-2	怒れるアダム	1914(1975)年	エッチング/紙	福島県立美術館	II
38-1	石を噛む人	1914(1975)年	エッチング/紙	郡山市立美術館	I
38-2	石を噛む人	1914(1975)年	エッチング/紙	福島県立美術館	II
39-1	欲望	1914(1975)年	エッチング/紙	郡山市立美術館	I
39-2	欲望	1914(1975)年	エッチング/紙	福島県立美術館	II
40	黒き帽子の自画像	1914年3月6日	油彩/板	個人蔵	I・II
41	早春の畑	1914年3月17日	油彩/麻布	岡山県立美術館	I・II
42	武者小路実篤像	1914年3月18日	油彩/麻布	東京都現代美術館	I・II
43	自画像(椿君に贈る自画像)	1914年5月8日	油彩/麻布	東京都現代美術館	I・II
44	自画像	1914年5月20日	油彩/麻布	岐阜県美術館	I・II
45	F氏像	1914年5月30日	油彩/麻布	平塚市美術館	I・II
46	黒き土の上に立てる女	1914年7月25日	油彩/麻布	似鳥美術館	I・II
47	画家の妻	1914年8月18日	油彩/麻布	個人蔵	I・II
48	自画像	1914年10月2日	油彩/麻布	福島県立美術館	I・II
49	道と電信柱	1914年10月15日	油彩/麻布	メナード美術館	I・II
50	Tの肖像	1914年12月12日	油彩/麻布	北九州市立美術館	I・II
51	画家の妻	1915年1月10日	油彩/麻布	大原美術館	I・II
52	高須光治君之肖像	1915年1月20日	油彩/麻布	愛知県美術館	I・II
53	椿君之肖像	1915年2月27日	油彩/麻布	横浜美術館	I・II

第三章 「実在の神秘」を超えて 1915-1918

54	赤土と草(赤土と草の道)	1915年6月18日	油彩／麻布	浜松市美術館	I・II
55	The Earth	1915年	木版／紙	郡山市立美術館	II
56	代々木附近(代々木附近の赤土風景)	1915年10月15日	油彩／麻布	豊田市美術館	I・II
58	男の像	1915年11月18日	木炭／紙	個人蔵	I
59	高須光治君之肖像	1915年12月22日	油彩／板	豊橋市美術博物館	I・II
60	冬の崖上の道	1915年12月23日	油彩／麻布	個人蔵	I・II
61	冬枯れの道路(原宿附近写生)	1916年1月17日	油彩／麻布	新潟県立近代美術館・万代島美術館	I・II
62	草	1916年4月25日	鉛筆／紙	東京国立近代美術館	II
63	壺	1916年4月28日	油彩／板	下関市立美術館	I・II
64	門と草と道	1916年6月7日	油彩／麻布	京都国立近代美術館	I・II
65	古屋君の肖像(草持てる男の肖像)	1916年9月10日	油彩／麻布	東京国立近代美術館	I・II
66	古屋君の顔	1916年10月29日	鉛筆／紙	神奈川県立近代美術館	I・II
67	壺の上に林檎が載って在る	1916年11月3日	油彩／板	東京国立近代美術館	I・II
68	手	1916年11月10日	油彩／板	似鳥美術館	I・II
69	林檎三個	1917年2月	油彩／麻布	個人蔵	I・II
70	初夏の小路	1917年5月17日	油彩／麻布	下関市立美術館	I・II
71	静物(湯呑と茶碗と林檎三つ)	1917年8月31日	油彩／麻布	大阪中之島美術館	I・II
72	静物(青布と林檎四個)	1917年9月15日	油彩／麻布	個人蔵	I・II
73	静物(赤き林檎二個とビンと茶碗と湯呑)	1917年11月19日	油彩／麻布	ふくやま美術館	I・II
74	霽れたる冬之日	1917年12月13日	油彩／麻布	千葉県立美術館	I・II
75	川幡正光氏之肖像	1918年1月13日	油彩／麻布	東京国立近代美術館	I・II
76	画家自画像	1918年1月31日	木炭、コンテ、チョーク、水彩／紙	東京国立近代美術館	II
77	静物(白き花瓶と台皿と林檎四個)	1918年4月12日	油彩／麻布	福島県立美術館	I・II
78	静物(手を描き入れし静物)	1918年5月8日	油彩／麻布	個人蔵	I・II
79	五月の砂道	1918年5月16日	油彩／麻布	群馬県立近代美術館	I・II
80	青年の首(岡崎精郎之顔)	1918年9月20日	コンテ／紙	中野美術館	I・II
82	長十郎像	1918年10月	コンテ、水彩／紙	個人蔵	I
83	蓼	1918年10月15日	木炭、チョーク／紙	愛知県美術館	II

第四章 「東洋の美」への目覚め 1919-1921

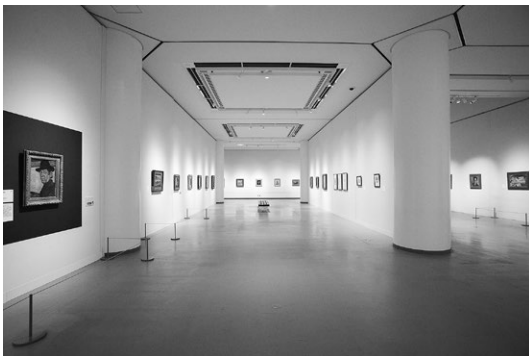
84	麗子六歳之像	1919年2月5日	木炭、水彩／紙	泉屋博古館分館	I・II
85	麗子六歳之像	1919年3月7日	水彩／紙	東京国立近代美術館	I
86	林檎を持てる麗子	1919年3月25日	水彩／紙	メナード美術館	I・II
87	村娘之図	1919年3月26日	水彩／紙	福田美術館	II
88	村娘之図	1919年4月13日	水彩、コンテ／紙	下関市立美術館	I
89	芝川照吉肖像	1919年7月10日	木炭、チョーク／紙	京都国立近代美術館	II
90	麗子坐像	1919年8月23日	油彩／麻布	ポーラ美術館	I・II
91	麗子像	1920年1月16日	水彩／紙	個人蔵	I
92	麗子微笑	1920年2月18日	木炭、水彩／紙	ポーラ美術館	I
93	麗子立像	1920年2月25日	水彩／紙	長谷川町子美術館	II
94	麗子之像	1920年2月28日	水彩、木炭／紙	個人蔵	I
95	麦二三寸	1920年3月16日	油彩／麻布	三重県立美術館	I・II
96	静物—赤りんご三個、茶碗、ブリキ罐、匙	1920年3月27日	油彩／麻布	大原美術館	I・II
97	六月風景	1920年6月1日	油彩／麻布	個人蔵	I・II
98	麗子肖像	1920年8月21日	コンテ、水彩／紙	個人蔵	II
99	村嬢於松立像	1921年1月7日	水彩、鉛筆／紙	東京国立近代美術館	II
102	入澤達吉氏肖像	1921年6月30日	油彩／麻布	個人蔵	I・II
103	信行之像	1921年7月13日	油彩／麻布	メナード美術館	I・II
104	窓外夏景	1921年7月20日	油彩／麻布	茨城県近代美術館	I・II
105	麗子洋装之像	1921年8月31日	コンテ、水彩／紙	下関市立美術館	II
106	麗子洋装之像	1921年9月2日	水彩／紙	長谷川町子美術館	II
108	麗子洋装之図(青葉持テル)	1921年9月30日	水彩／紙	豊田市美術館	I
110	麗子像	1921年10月4日	コンテ、水彩／紙	個人蔵	I・II
111	麗子微笑 *重要文化財	1921年10月15日	油彩／麻布	東京国立博物館	1/8~2/16

第五章 「卑近美」と「写実の欠除」を巡って 1922-1926

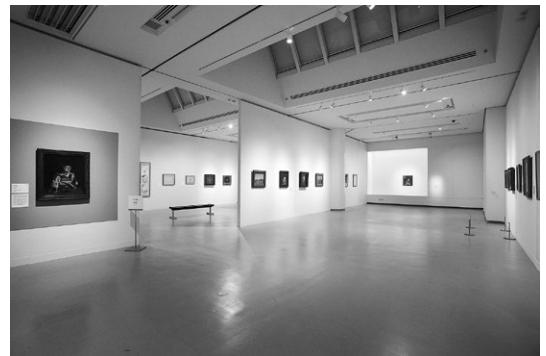
113	二人麗子図(童女飾髪図)	1922年3月21日	油彩／麻布	泉屋博古館分館	I・II
114	麗子像	1922年3月30日	水彩／紙	ポーラ美術館	II
115	窓外早春	1922年3月30日	油彩／麻布	個人蔵	I・II
116	麗子微笑	1922年5月18日	コンテ／紙	個人蔵	I
117	麗子	1922年5月18日	コンテ／紙	個人蔵	I・II
118	七童図	1922年9月13日	絹本着彩	個人蔵	I・II
119	五福祥集	1922年10月4日	紙本着彩	個人蔵	II
120	鯨坊主	1922年11月17日	油彩／板	豊田市美術館	I・II
121-1	鵠沼小景 鵠沼画房窓外雪景図	1922年12月	紙本墨画淡彩	愛知県美術館	I
121-2	鵠沼小景 窓外春光	1923年1月	紙本墨画淡彩	愛知県美術館	I
121-3	鵠沼小景 夏山急雨	1923年1月	紙本墨画淡彩	愛知県美術館	I
121-4	鵠沼小景 秋日閑々	1923年1月	紙本墨画淡彩	愛知県美術館	I
122	喜声和春光	1923年2月6日	紙本着彩	ポーラ美術館	I
123	白狗図	1923年2月13日か15日	絹本着彩	福島県立美術館 河野保雄コレクション	I
124	椿之図	1923年1月17日	絹本着彩	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	I・II
125	竹籠含春	1923年4月9日	油彩／麻布	個人蔵	I・II
126	林六先生閑居図	1923年4月9日	紙本着彩	個人蔵(世田谷美術館寄託)	I・II
127	椿之図	1924年頃	絹本着彩	ポーラ美術館	II
128	晩夏午后	1923年8月31日	油彩／麻布	ポーラ美術館	I・II
129	童女舞姿	1924年3月7日	油彩／麻布	大原美術館	I・II
130	籠椿	1924年5月17日	油彩／麻布	あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	I・II
131-1	四季の花果図 調脂弄粉(春)	1924年12月24日	紙本墨画淡彩	東京国立近代美術館	II
131-2	四季の花果図 盛夏諸甘(夏)	1924年12月24日	紙本墨画淡彩	東京国立近代美術館	II
131-3	四季の花果図 橙柿図(秋)	1924年12月24日	紙本墨画淡彩	東京国立近代美術館	II
131-4	四季の花果図 大根・慈姑・蜜柑(冬)	1924年12月24日	紙本墨画淡彩	東京国立近代美術館	II
132-1	菜果十色 苺	1925年1月	紙本着彩	下関市立美術館	II
132-2	菜果十色 柿	1925年1月	紙本着彩	下関市立美術館	II
132-3	菜果十色 葡萄	1925年1月	紙本着彩	下関市立美術館	II
132-4	菜果十色 桃	1925年1月	紙本着彩	下関市立美術館	II
133	松竹梅図(三友之図)	1925年1月24日	紙本着彩	個人蔵	I
134	梅花図	1925年2月14日	紙本着彩	個人蔵	I
135	少年肖像(村上巖氏十七歳)	1925年2月27日	油彩／麻布	宇都宮美術館	I・II
136	近藤医学博士之像	1925年3月20日	油彩／麻布	神奈川県立近代美術館	I・II
137	筍図	1925年5月19日	紙本着彩	個人蔵	I
138	瓜之絵	1925年7月	絹本着彩	個人蔵	I
140	四時有甘	1926年1月7日	紙本着彩	個人蔵	I
141	童子煎茶	1926年1月	紙本着彩	個人蔵	II
142	四時競甘	1926年	紙本着彩	愛知県美術館	I
143	人蔘図	1926年春	絹本着彩	東京国立近代美術館	II

第六章 「新しい余の道」へ 1926-1929

144	冬瓜図	1927年3月	油彩／麻布	個人蔵	I・II
145	冬瓜茄子図	1926年夏	絹本着彩	個人蔵	II
146	永日小閑	1926年夏	紙本着彩	下関市立美術館	I
147	調脂弄粉	1927年3月	紙本着彩	個人蔵	II
148	田村直臣七十歳記念之像	1927年7月27日	油彩／麻布	東京国立近代美術館	I・II
149	冬瓜葡萄図	1927年10月	油彩／麻布	岡山県立美術館	I・II
150	春日小閑	1928年頃	絹本着彩	ポーラ美術館	II
151	岡崎義郎氏之肖像	1928年5月11日	油彩／麻布	個人蔵	I・II
152	塘芽庵主人閑居之図	1928年頃	紙本着彩	下関市立美術館	I
153-1	福使黒白(『棋道』表紙原画)	1929年1月	紙本着彩	個人蔵	I
153-2	梅窓黒白(『棋道』表紙原画)	1929年	紙本着彩	個人蔵	I
153-3	花鳥黒白(『棋道』表紙原画)	1929年3月	紙本着彩	個人蔵	I
153-4	後庭春昼(『棋道』表紙原画)	1929年4月	紙本着彩	個人蔵	I
153-5	五月対奕(『棋道』表紙原画)	1929年5月	紙本着彩	個人蔵	I
153-6	霖雨笠碁之図(『棋道』表紙原画)	1929年	紙本着彩	個人蔵	I
153-7	夏厨黒白(『棋道』表紙原画)	1929年7月	紙本着彩	個人蔵	II
153-8	二童黒白(『棋道』表紙原画)	1929年	紙本着彩	個人蔵	II
153-9	秋庭黒白(『棋道』表紙原画)	1929年9月	紙本着彩	個人蔵	II
153-10	昆虫黒白(『棋道』表紙原画)	1929年10月	紙本着彩	個人蔵	II
153-11	楓窓対局(『棋道』表紙原画)	1929年晩秋	紙本着彩	個人蔵	II
153-12	冬至対奕(『棋道』表紙原画)	1929年	紙本着彩	個人蔵	II
154	卓上花果	1929年1月3日	油彩／麻布	個人蔵	I・II
155	ギヤマンのある静物	1929年1月	油彩／麻布	岡山県立美術館	I・II
156	春園金鶏之図	1929年8月28日頃	油彩／麻布	個人蔵	I・II
157	大連風景(路傍秋晴)	1929年10月	油彩／板	個人蔵	I・II
158	路傍秋晴	1929年11月	油彩／麻布	吉野石膏株式会社	I・II
159	路傍秋晴(大連風景)	1929年11月	油彩／麻布	茨城県近代美術館	I・II
160	満鉄総裁邸の庭	1929年11月	油彩／麻布	ポーラ美術館	I・II



1 階会場風景



2 階会場風景

名古屋市美術館では、展示室で作品を見ていただくだけでなく、鑑賞の楽しさや面白さを体験できる美術館を目指して、来館者の皆様からの多様な要望に応えられるように多彩な教育プログラムを実施しています。

令和元年度も特別展に関連した多彩な講演会を開催し、多くの方にご参加いただきました。「印象派からその先へ—世界に誇る吉野石膏コレクション」では、吉野石膏美術振興財団学芸員の佐藤奈々子氏にコレクションの魅力と出品作品の見どころについてお話しいただきました。また、編集者であり評論家の山田五郎氏の「アートトーク」では、「印象派とは何か」を古典主義、ロマン主義といった美術の動向からひも解き、そして作品の魅力を語っていただきました。10月から開催した「カラヴァッジョ展」では、展覧会監修者の小佐野重利氏に「カラヴァッジョ—時代の申し子あるいは挑戦者」と題して、そして神戸大学教授の宮下規久朗氏には「カラヴァッジョと斬首」と題してお話しいただきました。カラヴァッジョ研究の第一人者としてそれぞれの視点からの、人物像、作品制作の背景、他の作家の作品との関連性などの興味深い話に多くの方が耳を傾けていました。さらに本展覧会ナビゲーターの漫画家・随筆家のヤマザキマリ氏に、古代ローマからカラヴァッジョへと時代を追いながらイタリア美術の変遷を楽しくお話しいただきました。続く「没後90年記念 岸田劉生展」では、展覧会監修者の山田諭氏に、38歳で急逝するまでの劉生の作家人生を、出品作品を中心に制作年代を追って作品を紹介しながらお話しいただきました。また、各特別展開催にあわせて、担当学芸員による解説会を実施しました。

学芸員による研究発表の場としての「コレクション解析学」では、キスリング、喜多村麦子、野水信、鬼頭颯二郎の作品を取り上げ、4回開催しました。

セントラル愛知交響楽団から演奏者を迎えて、平日の閉館後に人数限定で展覧会解説と演奏をお届けするイベントを「印象派からその先へ」と「カラヴァッジョ展」で実施しご好評いただきました。サイエンス&アートフェスティバルではサククスによる演奏も披露していただきました。

子ども向け教育普及事業としては、学校休業日の体験活動の推進のための美術鑑賞プログラム「美術をたのしむプログラム」を今年度も実施しました。絵をじっくり見てぬり絵をやる「イチおし！—スペシャルぬり絵編—」、美術館の外に出て、ふだん何気なく見ている屋外彫刻を観察して楽しむ「びじゅつかんは玉手箱」、美術館の「なぜ？・何？」を一緒に考えていく「びじゅつかん検定」を実施しました。また、常設展示で紹介している作品から作成したぬり絵を土日祝日に配布し、4月、8月、9月には簡易授乳スパー

スや小さなお子さんでも楽しめるコーナー「ちびっこオアシス」を設置しました。なお、本年度はあいちトリエンナーレ（8月1日～10月14日）が開催され、夏休みはトリエンナーレの「ラーニング・プログラム」が実施されました。

芸術と科学の杜では、11月2日、3日にサイエンス&アートフェスティバルにおいてアート大会を実施。名古屋工業大学教授の石松丈佳氏を迎えて白川公園内の彫刻や自然をめぐる「アートを科学し、科学をアートするツアー」を開催し、2日間で1,320人が参加しました。

学校との連携による教育普及事業「出前アート体験」では、今年度は「作品に託されたメッセージ」を2校、「美術から異文化を知ろう」を1校、「アートカードで学ぼう」をガイドボランティアの支援を得て4校で実施しました。また、就業・職業・職場体験および職場訪問では、のべ22校、総計125名を受け入れました。今年度のトワイライトスクール/ルームは、全4校総計約160名が参加しました。ガイドボランティアによる常設展のガイドトークを受けた名古屋市内の小中学校児童・生徒たちは493名。充実した美術鑑賞の体験をしています。名古屋市美術館が開発した美術鑑賞補助教材「アートカード」の貸出は、今年度は、美術館と保管校から総計21件、41セットでした。

このように名古屋市美術館が積極的な教育普及事業を展開できるのは、ガイドボランティアの活動に支えられているからです。名品コレクション展でのギャラリートークを基本として、「出前アート体験」の支援、常設展の学校団体向けガイドトークの実施、ボランティア養成講座のサポートを行う教育活動など、幅広い分野で活動を行っています。令和元年度は、総計75名のボランティアが活動しました。

学生向け優待事業としては、美術館学生メンバーズに令和2年3月末現在12校が加入しています。今年度も学生向けの特別展の解説会を実施しました。高校生サポーター事業も継続しています。

美術館の活動を支援することを目的とした美術愛好家の会である名古屋市美術館協力会では、春・秋の「美術館見学ツアー」や近郊の美術館への「美術鑑賞ミニツアー」を積極的に実施しました。オリジナル・カレンダーは、吉本作次氏に作成を委嘱しました。

平成31年4月より図書室は午後1時から午後4時までの開室となり、5,429名にご利用いただきました。出版関係では、多彩で豊富な記事が好評の美術館ニュース「アートペーパー」（第111～113号）を発行しました。この他に「年報」「年間案内」を刊行しました。

1. 一般成人対象の事業

(1)講演会・解説会

年月日	時刻	内容	講師等	場所	参加者
31年4月14日(日)	午後2時～	「印象派からその先へ」展 記念講演会	佐藤菜々子(吉野石膏美術振興財団学芸員)	講堂	160
31年4月21日(日)	午後2時30分～	「印象派からその先へ」展 アートトーク	山田五郎(編集者・評論家)	中区役所ホール	450
31年4月27日(土)	午後2時～	「印象派からその先へ」展 作品解説会	森本陽香(名古屋市美術館学芸員)	講堂	130
元年5月2日(木)	午後1時30分～	3館合同 西洋美術展覧会 見どころ解説会	石崎尚(愛知県美術館学芸員)、保崎裕徳(名古屋市美術館学芸係長)、森本陽香(名古屋市美術館学芸員)、西崎紀衣(豊田市美術館学芸員)	講堂	170
元年5月12日(日)	午後2時～	「新たな木彫表現を求めて」 作品解説会	深谷克典(名古屋市美術館副館長)	講堂	40
元年5月18日(土)	午後2時～	「印象派からその先へ」展 作品解説会	森本陽香(名古屋市美術館学芸員)	講堂	120
元年6月15日(土)	午後2時～	「新たな木彫表現を求めて」作品解説会	深谷克典(名古屋市美術館副館長)	講堂	30
元年8月4日(日)	午前11時～	あいちトリエンナーレ2019 ハイライトツアー	飯田志保子(いいだしほこ)チーフキュレーター、ペドロ・レイエス キュレーター、参加アーティストのSholim(シヨリム)氏	展示室	50
元年10月5日(土)	午後2時～	藤田嗣治作品解説会	深谷克典(名古屋市美術館副館長)	講堂	140
元年10月26日(土)	午後2時～	「カラヴァッジョ展」 記念講演会	小佐野重利(カラヴァッジョ展監修者/東京大学名誉教授・同大特任教授)	講堂	180
元年11月10日(日)	午後2時～	「カラヴァッジョ展」 記念講演会	宮下規久朗(神戸大学教授)	講堂	180
元年11月14日(木)	午後1時～	「カラヴァッジョ展」 ヤマザキマリ氏記念講演会	ヤマザキマリ(漫画家・随筆家)	講堂	153
元年11月23日(土)	午後2時～	「カラヴァッジョ展」 展覧会解説	保崎裕徳(名古屋市美術館学芸係長)	講堂	180
2年1月18日(土)	午後2時～	「岸田劉生展」 作品解説会	井口智子(名古屋市美術館学芸課長)	講堂	119
2年2月2日(日)	午後2時～	「岸田劉生展」 記念講演会	山田諭(京都市美術館学芸課長)	講堂	180
2年2月9日(日)	午後2時～	「岸田劉生展」 作品解説会	井口智子(名古屋市美術館学芸課長)	講堂	160
2年2月14日(金)	午後6時～	「岸田劉生展」 学生メンバーズ特別鑑賞会	井口智子(名古屋市美術館学芸課長)	講堂	11

(2)コレクション解析学

年月日	時刻	内容	講師等	場所	参加者
元年5月19日(日)	午後2時～	女優の瞳に映るもの	中村暁子(名古屋市美術館学芸員)	講堂	70
元年9月29日(日)	午後2時～	喜多村麦子の人と芸術	保崎裕徳(名古屋市美術館学芸係長)	講堂	70
元年11月17日(日)	午後2時～	カタカナの彫刻	清家三智(名古屋市美術館学芸員)	講堂	90
2年2月16日(日)	午後2時～	柔らぎのある絵	角田美奈子(名古屋市美術館学芸員)	講堂	73

コレクション解析学第1回

日時：5月19日(日)午後2時～

演題：「女優の瞳に映るもの」

作品：キスリング《マルセル・シャンタルの肖像》

講師：中村暁子(名古屋市美術館学芸員)

内容：エコール・ド・パリの画家キスリングの《マルセル・シャンタルの肖像》を採り上げた。この作品は、当時のパリの人気女優を描いたものであり、「クールにして気品ある美貌」と讃えられた女優の全盛期である1930年代半ばに制作された。この女優の瞳に映ったであろう当時のキスリングの姿、そしてパリの様子を紹介し、作品の特徴やキスリングが作品に

込めたものを考えることを主眼とした。まず、エコール・ド・パリの画家たちの中では最も幸せな人生を送ったとされるキスリングの人生を辿り、華やかな人生とその一方で作品の中に見出される憂いの部分について話し、ユダヤ人としてのキスリングにも触れた。また、伴侶であるルネや当時キスリングが親しくしていた仲間たちの様子も紹介した。《マルセル・シャンタルの肖像》は、華やかな女優という職業の光と影を描き出しており、キスリングの人物画の特徴である華やかさと憂いの同居は、この作品の中にも顕著に表れている。当時のパリを写したブラッサイの写真も交えながら解説を行った。

コレクション解析学第2回

日時：9月29日(日)午後2時～

演題：「喜多村麦子の人と芸術」

作品：喜多村麦子《暮れ行く堀川》1928年

講師：保崎裕徳(名古屋市美術館学芸係長)

内容：喜多村麦子(1899-1986、本名林吉)は名古屋市生まれ。京都市立絵画専門学校別科を卒業後、成績優秀により無試験で研究科に進み、在学中の1926年、第7回帝国美術院展覧会(帝展)に《鷹の図》を出品して初入選を果たした。その後4回連続で帝展に入選し、1928年に開かれた「御大典奉祝名古屋博覧会」では、《暮れ行く堀川》で銀賞を獲得、中部地方の日本画壇を担っていく青年画家として期待される存在となった。一方で登山やスキー、テニス、写真にも傾倒し、各分野で趣味の域を超えた能力を発揮するようになる。特に「年のうち5カ月は私は山で暮らす」と語るほど登山には入れ込んでいた。いつしか寡作の作家として知られるようになり、1933年頃に八事興正寺の大広間の襖絵を完成させて以降は帝展の入選もなく、ほとんど大作を残していない。1937年には新愛知新聞の特派員として中国北部戦線に派遣され、写真とスケッチで現地の情景を記録、帰国後1938年には松坂屋の「従軍報告写真展」で100点余りの写真を公開した。現存する作品を通じて日本画家としての画業を振り返るとともに、多方面で才能を発揮した人生についても詳しく紹介した。

コレクション解析学第3回

日時：11月17日(日)午後2時～

演題：「カタカナの彫刻」

作品：野水信《コの記号》1965年

講師：清家三智(名古屋市美術館学芸員)

内容：野水信(1914-84)は石川県金沢市出身の彫刻家である。戦前から二科展で発表を続け、戦後は東海地方における抽象彫刻の先駆者となったが、その活動の記録は少なく未だに不明な点が多い作家でもある。当館収蔵作品の一つである《コの記号》はその名の通り、カタカナの一字を抽象形態に見立て、鉄板による立体構成を試みた作品である。作家自身の経歴について基礎資料から調べ直すとともに、野水がいかにして抽象彫刻を手掛けるに至ったか、また幅広い関心の在処と制作との関連性について考察した。

コレクション解析学第4回

日時：2020年2月16日(日)午後2時～

演題：「柔らぎのある絵」

作品：鬼頭薨二郎《風景》

講師：角田美奈子(名古屋市美術館学芸員)

内容：鬼頭薨二郎(1897-1952)は、名古屋に生まれ、名古屋において死去した洋画家である。フランスに留学し、帰国後は春陽会などで作品発表を行ったが、第二次世界大戦の戦災により滞欧作を含めて多くの作品を焼失した。残っている少ない資料から交友のあった橋本節哉や大川周明などの評価を紹介するとともに、藤井外喜雄など同郷の作家との交友や同時代の他作家との関係、時代背景などを交えて鬼頭作品の特質を検討した。

(3)コンサート

年月日	時刻	内容	演奏者等	場所	参加者
2019年5月18日(土)	午後5時～	「印象派からその先へ」展 閉館後の特別鑑賞会 クラシックのタベ	セントラル愛知交響楽団、森本陽香	講堂・展示室内	42
2019年11月2日(土)	午後6時～	イブニングコンサート	金城学院大学ヴォーカルアンサンブル 「リリー・ミュージズ」	ロビー	80
2019年11月3日(日)	午後6時～	イブニングコンサート	セントラル愛知交響楽団プロデュース サクセス四重奏	ロビー	150
2019年11月16日(土)	午後5時～	「カラヴァッジョ展」 閉館後の特別鑑賞会 クラシックのタベ	セントラル愛知交響楽団、保崎裕徳	講堂・展示室内	41

(4)パフォーマンス・ワークショップ

年月日	時刻	内容	講師等	場所	参加者
2019年9月22日(日)	午後5時～	「あいちトリエンナーレ2019」 レクチャーパフォーマンス/鑑賞ツアー「無常」	藤井光	展示室	80

2. 子ども対象の事業

(1)学校休業日の体験活動の推進

名古屋市美術館では平成15年度から、長期休業期間を除く学校休業日(土日祝)を対象に、美術や美術館に親しむプログラムを継続して実施している。これは名古屋市教育委員会が平成22年度まで推進してきた「なごやっ子教育推進計画」の後継として策定した「名古屋市教育振興基本計画」の一環で行うものである。

令和元年度は前年度の内容改訂を引き継ぎつつ、来館者の利用状況や興味関心、運営を支援しているボランティアの意見などを取り入れながら、「美術をたのしむプログラム」として事前申込制と自由参加、あわせて年間5種類の活動を企画、実施した。



①事前申し込みが必要なプログラム

1) イチおし！—スペシャルぬり絵編—

日時 6月9日(日)午前10時~正午

対象 小学4年生以上(一般も可)

会場 地階キッズコーナーおよび常設展示室1・2

参加者数 26名(うち一般5名)

スタッフ (名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香
ボランティア6名

内容 「ぬり絵でたのしむコレクション」(下記②-2参照)の試作に協力していた複数のボランティアから「色の濃淡や隣り合う色の組合せによって作品の見え方が全く違ってくことを、個人で自由に色塗りを楽しむ過程で気づくのは難しい」「自由参加の楽しさとは別に、作品をじっくり鑑賞する時間や色について話し合う過程を含めた申込制プログラムとして提供したい」との意見があり、検討の結果、一般成人の参加も歓迎する形で、事前申込プログラムの開催に踏み切った。

プログラム冒頭、ぬり絵に親しんでいる

頻度やこれまでに経験したことのある図柄などを尋ねた後、美術館が用意した2種のぬり絵用紙を見せ、もともになった絵画作品にはどんな色が使われていて、どんな雰囲気だと思うか、まずは参加者同士で自由に想像を話し合った。その後、常設展示室でぬり絵のもとになった作品を鑑賞し、想像していた雰囲気との違い、色がついた状態の作品を見て思うことを話し合った。使われている色の特徴や色の種類についても気づいたことを発言してもらった。

キッズコーナーへ戻り、1本の色鉛筆で作り出せる色の濃淡(グラデーション)のつけ方を考え、色鉛筆の持ち方や力の入れ方を工夫して4段階の塗り分けを体験した。これを応用した混色の仕方などを簡単に説明した後、各自ぬり絵を選んで取り組んだ。もとの作品を参考にしたい場合は、鑑賞マナーを守って自由に展示室へ出入りして良いこととした。色をつけるという活動を通して参加者が主体的に作品に関わる時間を過ごしたためか、日頃のギャラリートークなどと比較しても時間をかけて丁寧に作品を観察する様子が見えかけた。



2) びじゅつかんは玉手箱

日時 11月23日(土・祝)午前10時～正午
対象 小中学生とその保護者
参加者数 8家族28名
会場 地階キッズコーナーおよび白川公園一帯
スタッフ (名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香
ボランティア10名

内容 鑑賞する対象を、展示室内の作品から白川公園内の立体作品へと広げ、以前からあるものに目を向けていないものに意識を向けること、新たに発見したり、不思議に思ったり、「なぜ～なんだろう？」と疑問を持ったりしながら自発的に五感を働かせて鑑賞することをねらいとしたプログラム。

参加家族は4つのグループに分かれ、ボランティアが出すヒントをもとに白川公園のなかに潜んでいる立体作品を探す。該当する作品を見つけたら、今度は作品の形や色、大きさなど造形的な特徴に関する問いかけがボランティアから投げかけられるので、その言葉をもとに考えたり、作品を作った人の意図を想像したりしながら意見交換する時間を設けた。

グループによって鑑賞する作品は異なったため、最後に参加者全員で集まり、印象に残った作品を発表し合うなどして、互いの体験を共有した。



3) びじゅつかん検定

日時 2020年2月16日(日)午前10時～正午
対象 小学1～6年生
会場 地階キッズコーナーおよび常設展示室1・2、館内各所
参加者数 21名
スタッフ (名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香
ボランティア9名

内容 展覧会や美術作品を見た経験はあっても、美術館が何のための施設で、どのような機能を備えているか知る機会が少ないことに着目し、参加者に質問を投げかけ、意見を出し合っながら美術館の役割を正しく理解してもらうことをねらいとしたプログラム。設問は一問一答形式ではなく、複数の正解が考えられるよう工夫し、ヒントをもとに子どもたちが主体的に考えること、物事を関連づけながら想像することに重きを置いたところ、学校で学んだことや普段の生活、ニュースなどで知っている災害などと結び付けた発言が多く聞かれた。

質問の内容は宝物(=美術作品)を守る工夫に関する事柄と、美術館を楽しむ事柄の2つを用意し、美術館の役割に関することと来館者として楽しむこと両方を知ることが出来るようにした。プログラムの最後は、参加者一人一人に検定合格証を手渡した。



②自由参加プログラム

1) ちびっこオアシス

- 日 時** ① 4月27日(土)・28日(日)
② 8月24日(土)・25日(日)
③ 9月15日(日)・16日(月・祝)
- 開館時間**(午前9時30分～午後5時)中、随時
- 対 象** どなたでも(混雑時は乳幼児とその家族を優先)
- 参加者数** 150名 * 6日間のべ
- スタッフ** (名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香
ボランティア12名 * 6日間のべ
- 内 容** 地階キッズコーナーの約半分の広さに、高反発のブロックマットを敷きつめ、靴を脱いで過ごせるスペースを用意し、その一角に簡易授乳スペースも設置した。利用する乳幼児のために、将来造形活動に取り組むときに必要となる手の運動「つまむ、はさむ、ひっぱる、あける、しめる」などを促しながら、楽しむことのできる簡単な遊具を用意した。

2) ぬり絵でたのしむコレクション

- 日 時** 開館中の土曜・日曜・祝日(91日間)
- 対 象** 制限なし
- 延べ実績** 2,007枚
- 参加方法** 当日常設展入口で随時受付
- 内 容** 名品コレクション展の内容に応じて、所蔵作品をもとに作成したぬり絵を1～2種類用意する。配布は1人一枚、1日につき先着30枚まで。常設展を鑑賞した後に地階キッズコーナーで体験することで、作品を丁寧に観察する動機づけを行い、絵画における色彩の役割や、画家の工夫への理解を深めるきっかけとした。

(2)夏休みこどもの美術館

令和元年度は、あいちトリエンナーレ2019ラーニングチーム(以下、LT)と共同でプログラムの企画に取り組んだ。LTからは、前回(あいちトリエンナーレ2016)まで「普及・教育(エデュケーション)」と呼んでいた各種プログラムの名称を「ラーニング」に改め、参加者同士が相互に学ぶことのできる活動や場の提供を目指す、という全体方針が打ち出された。これにのっとり、来場者の創造性や主体性を発揮できる場＝アート・プレイグラウンド(以下、APG)の創出に向け、担当者とは活発な意見交換およびシミュレーションを行った。APGは基本コンセプトを共有しつつ「あそぶ」「は

なす」「つくる」「もてなす」「しらせる」というテーマをそれぞれに設け、当館を含む計5カ所で展開された。

この項では、当館スタッフが検討段階から共同企画者として関わった「APG つくるCREATE」とスペシャルワークショップの2件について報告する。上記以外にも会期中ラーニング関係のイベントは実施されたが、それらに関しては別項(2.子ども対象の事業(4)あいちトリエンナーレ ラーニングプログラム)を参照のこと。



1) アート・プレイグラウンド つくる CREATE

- 会 期** 8月1日(木)～10月14日(月・祝)
* 休館日除く
午前10時～午後5時 * ただし正午～午後1時30分の間は見学のみ
- 対 象** 制限なし * 混雑時は入場人員の制限を行い、時間入替制とした
- 会 場** 常設展示室3
- 参加者数** 13,569名 * 会期中のべ
- 内 容** つくるものや作り方があらかじめ決まっている「～教室」や「～講座」ではなく、来場者が「今つくりたいもの」をスタッフとのコミュニケーションから構想し、用意されたさまざまな素材や道具を組み合わせる具現化するための場を提供した。当初の構想と全く異なるものが完成することもあるが、そのような紆余曲折の過程(プロセス)も含めて「つくる」ことの面白さであると考えた。また「つくる」を経験することで、来場者の意識があいちトリエンナーレ2019の会場に展示されている作品群の制作過程へと向かい、作品への思考をさらに深めるきっかけになることを期待した。当館会場の展示作品に用いられた素材の一部を「つくる」会場にも用意し、みる経験とつくる経験との関連づけも試みた。

運営上の安全対策や各種トラブルシューティング、来場者へのサポートのあり方などについて事前に十分な議論を重ね、認識を共有した上で、日々の会場運営はLTコーディネーターおよびファシリテーター、有償のサポートスタッフに委ねた。



2) スペシャルワークショップ

【要事前申込／参加費無料】

「つくる」ユニフォームをつくる！

実施日時 8月14日(水)午前10時～午後3時30分

対象 小学3年生～中学生

会場 常設展示室3

参加者数 11名

スタッフ (名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香
(コーディネーター)山口麻里菜
(ファシリテーター)宮田明日鹿
(サポートスタッフ)2名

内容 「APGつくる」を訪れ、体験する来場者を具体的に想像し、彼らが使う作業着(ユニフォーム)に適した機能やデザインなどを参加者同士で話し合って構想シートにまとめ、持ち寄った古着を解体・再構成して制作した。

あらゆる場面において参加者の主体性やオーナーシップを重視し、話し合い、関わり合いによって制作過程(プロセス)や役割分担が決まってく様子を見守るよう心掛けた。話し合いが難航しているときや作業の進め方に悩んでいるときのみ、相談に応じる形で問題点を整理し、いくつかの方法論を提案するなど、最小限の支援を行った。

一方、大きめの裁ちばさみで生地を裁つ、待ち針を打つ、足踏みミシンをかけるなど、参加者が不慣れで危険を伴うことが予想される作業ではスタッフが手順や注意点を説明した上で、最初は手を添えながら、その後は様子を見ながら参加者たちに取り組み

せた。危険だから避ける／させないのではなく、必要な説明を行い信じて体験させることで子どもたちの注意力もおのずと高まり、参加者同士での教え合いや協同が多く見られた。



(3) 芸術と科学の杜

「芸術と科学の杜」とは、名古屋市美術館と科学館が連携して、市民の豊かな感性と創造力を育む魅力ある事業を継続して実施するとともに、白川公園周辺の文化施設や地域とも協力して連携の輪を広げることで「芸術と科学を中心にさまざまな文化が融合し、新しい文化を生み出すまち」の形成を目指すものである。

この事業の目的を実現するため、地元商店街や周辺の施設、関係機関で構成する「芸術と科学の杜連携推進会議」を設立し、今年度は以下の事業を実施した。

サイエンス&アートフェスティバル

アート大会

日時 11月2日(土)・3日(日・祝)午前10時～午後4時

場所 白川公園

参加者数 1,320名

企画・制作・講師 石松丈佳(環境造形、名古屋工業大学大学院教授)

スタッフ (名古屋市美術館学芸員)角田美奈子
ボランティア11名

内容 公園に設置されたパブリックアートや環境の特性を提示できるポイントを設定し、参加者は各ポイントを巡りながら五感を働かせ、また造形行為を含めながら環境を楽しむ体験をする。

①なりきりオブジェ

彫刻のポーズをまねしてなにが見えるか、聞こえるか、どんな匂いがするか、五感を働かせて観察する。

② 笹舟と風

水に浮かぶ笹舟で風の流れをみる。

③ おちばダッシュ

落ち葉の上を全力で駆け抜ける。

④ はっぱの首飾り

たくさん葉っぱを集めて色相環の首飾りをつくる。



(4) あいちトリエンナーレ ラーニングプログラム

1) ベビーカーツアー [要事前申込]

実施日時 8月17日(土)午前10時～午前11時

対象 18カ月までの子どもと保護者

会場 企画展示室1・2

参加者数 3組11名(うち子ども4名)

進行 茂原奈保子(あいちトリエンナーレ2019アシスタントキュレーター)

内容 キュレーターとともに、大人がリラックスしながら小さい子どもと一緒にトリエンナーレを楽しむ機会を提供した。

2) つくるをふかめるウィーク [当日自由見学]

地階常設展示室3で展開されている「アート・プレイグラウンドつくるCREATE」(以下、APGつくる)のコンセプトへのより深い理解を促すため、さまざまな分野で制作活動を行っているプロフェッショナルをゲストに招き、公開制作を行った。ワークショップのような参加型企画とはせず、ラーニングスタッフがアシスタントとしてゲストに付き、来場者とゲストとの関わりを広げる役割を担いながら、プロの技術や思考と出会う機会を創出した。

① 9月22日(日)午後1時30分～午後4時30分

「アイデアを形にするプロ」

参加者数 37名

ゲスト 会田大也(あいちトリエンナーレ2019ラーニングキュレーター)

内容 「スケッチアップ」(インターネット上で使えるデザインソフト)を用いて、当日APGつくるにある木材をデータ化、作りたいものの設計図を描き、それをもとに実際に木工を行った。

② 9月23日(月・祝)午後1時30分～午後4時30分

「想いを形にするプロ」

ゲスト 青木美紅(あいちトリエンナーレ2019出品作家)

参加者 12名

内容 次回作の試作として、レンチキュラーの手法を用いた刺繍での作品づくりを実施した。

③ 9月29日(日)午後1時30分～午後4時30分

「電子部品とアイデアでものをつくるプロ」

ゲスト denha(マープルマシーンビルダー)

参加者 17名

内容 簡単なパーツキットを用意し、はんだごてを使って組み立てるLED電子工作を行った。

地元連携事業

町内会イベントへの参加:

「買いにおいで」

「広小路夏祭り」

地元交流事業

特別展会期中、地元の方を招待し、担当学芸員の作品解説の後会場内の観覧を楽しんでいただいた。

(1) 印象派からその先へー世界に誇る吉野石膏コレクション

ア 開催日 4月26日(金)午後6時20分～午後8時

イ 参加者 62名

(2) カラヴァッジョ展

ア 開催日 11月15日(金)午後6時20分～午後8時

イ 参加者 70名

3. 学校対象事業

(1) ボランティアによる学校等団体向けガイドトークの実績

名古屋市美術館では、常設展を鑑賞する学校等の団体来館者に対して、希望によりボランティアによるガイドトークを実施している。これは来館者が10名程度のグループにわかれて、ボランティアと一緒に展示室をまわりながら、会話を通してじっくりと美術を鑑賞するものである。本年度は以下の団体に対してボランティアによるガイドトークを実施した。

No.	日時	曜日	団体名	見学者数(生徒数)	引率者数	対応ボランティア数
1	5月9日	木	いなべ市立大安中学校2年生	5	0	1
2	5月9日	木	美濃加茂中学校2年生	60	4	9
3	5月24日	金	岐阜県立各務野高等学校1・2年生	79	6	9
4	5月28日	火	桑名市立光風中学校2年生	5	0	1
5	6月26日	水	岐阜工業高等学校(デザイン工学科)3年生	40	2	6
6	11月7日	木	名古屋市立豊岡小学校6年生	59	2	9
7	11月13日	水	名古屋市立旗屋小学校4年生	67	3	8
8	11月14日	木	桑名市立陵成中学校2年生	6	0	1
9	11月15日	金	愛知教育大学附属名古屋小学校2年生	98	5	10
10	1月16日	木	名古屋市立東港中学校1年生	18	0	3
11	1月21日	火	名古屋市立北中学校1年生	6	0	1
12	1月30日	木	岡崎市立矢作中学校1年生	5	0	1
13	2月6日	木	大府市立大府北中学校1年生	5	0	1
14	2月21日	金	名古屋市立梅森坂小学校6年生	40	3	6
計				493	25	66

(2) アートカード貸出実績

アートカードは、名古屋市美術館の所蔵作品の中から60点を選び、はがき大の複製図版に仕立てた鑑賞学習用補助教材である。名古屋市立の小中学校等に対しては各区に設けた保管校を通して、それ以外の学校・団体には美術館から直接貸出を行い、鑑賞学習の普及に努めている。

令和元年度 アートカード保管校別貸出実績一覧

区	貸出先	ケース数	貸出期間
千種	(なし)	0	
東	葵小学校	3	6月10日～7月29日
	愛知教育大学附属名古屋小学校	3	11月6日～1月17日
	砂田橋小学校	3	1月20日～1月24日、2月3日～2月6日
北	名北小学校	3	1月～2月
西	山田小学校	2	1月20日～1月27日
中村	ほのか小学校	1	4月～2月
中	(なし)	0	
昭和	村雲小学校	1	4月25日～5月17日
瑞穂	穂波小学校	3	4月、5月、2月
熱田	白鳥小学校	2	7月1日～7月12日
中川①	西前田小学校	1	通年
中川②	(なし)	0	
港	東築地小学校	2	7月、12月
南	南光中学校	4	10月
守山	森孝東小学校	1	9月4日～9月27日
緑	東丘小学校	4	5月7日～5月10日、11月19日～11月22日
名東	梅森坂小学校	2	6月24日～7月1日
	猪高中学校	1	11月6日～11月8日
天白	(なし)	0	

計16件、36セット貸出

令和元年度 美術館からの直接貸出実績

No.	学校・団体名	ケース数	期間
1	松原小学校トワイライトスクール	1	4月16日～4月25日
2	愛知工業大学情報電子専門学校	1	4月16日～5月22日
3	誉高等学校	1	4月20日～5月17日
4	上名古屋小学校トワイライトスクール	1	7月2日～8月13日
5	梅森坂小学校	1	2月21日～3月3日

計5件、5セット貸出

令和元年度 アートカード保管校一覧

区	学校名	担当の先生	ケース数	保管ケース番号
千種区	城山中	森田 進午	3	2、3、4
東区	砂田橋小	福井 千絵	3	1、5、6
北区	名北小	鈴木さやか	4	7、8、9、10
西区	なごや小	樋田 裕二	4	11、12、13、61
中村区	ほのか小	富岡 真理	3	15、16、26
中区	新栄小	滝 純	3	17、18、19
昭和区	駒方中	松岡 健児	3	20、21、22
瑞穂区	穂波小	大島 聖矢	3	23、24、25
熱田区	白鳥小	佐々木めぐみ	2	27、28
中川区	はとり中	校條 敬子	4	29、30
	山王中	大鹿公仁子		31、33
港区	東築地小	加藤久仁夫	3	34、35、36
南区	南光中	石谷和佳子	2	62、63
守山区	大森小	山田祥太郎	4	42、43、44、45
緑区	東丘小	原 敏史	5	46、47、48、49、50
名東区	猪高中	梶野 有香	4	51、52、53、54
天白区	平針小	古河 恵	4	55、56、57、58

(3)出前アート体験

①港区 東築地小学校

プログラム名 作品に託されたメッセージ
日 時 6月18日(火)午前11時30分～午後0時15分
場 所 特別活動室
対象学年 4年生2クラス(73名) *学年まとめて授業
講 師 (名古屋市美術館学芸員)竹葉丈
授業内容 名古屋市美術館が所蔵するメキシコの女性

画家フリーダ・カーロ(1907-1954)の作品《死の仮面を被った少女》を題材として授業を行う。まず初めにパワーポイントでカラー図版を紹介するとともに、全員に図版コピーを配り、はじめに絵を見て感じたことを書いてもらう。

次に描かれた場面について次のような質問をした。

「女の子は、何の仮面をかぶっていますか?」「女の子の足もとにも別の仮面があります。」「女の子はどんなところに立っていますか?」

それらの質問に対して、骸骨の仮面を被った少女には、一様にある種の寂しさや恐怖等、何か悲しい物語があるような感想を得た。その後、画面全体から細部に至るまで、描かれた各要素について、子供たちと確認しながら見て行く。少女が被る骸骨の仮面の意味を、メキシコの民族行事「死者の日」の様子、その飾り物としての骸骨のイメージとメキシコ古代に於ける仮面信仰について解説。その後、ディズニー映画『リメンバー・ミー』のステルを見せると、子供たちの理解と興味は一気に昂まったように感じられた。

最後に作者であるフリーダ・カーロの人生と制作活動について紹介したが、先に挙げたディズニー映画にも登場していることもあってか、作品の成り立ちとともに作家に対しても興味を持ってくれた。

②中区 大須小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう
日 時 7月12日(金)午前10時40分～午前11時25分
場 所 教室
対象学年 1年生(1クラス25名)および特別支援学級(2クラス4名) *全体まとめて授業
講 師 (名古屋市美術館学芸員)角田美奈子

スタッフ (ボランティア)5名

授業内容 名古屋市美術館を例にして美術作品と美術館について紹介したあと、5つのグループに分かれて課題に取り組んだ。普段から交流授業を行っているとのことであったため、4つのグループにはそれぞれ1名の特別支援学級の児童が入り、クラスメートとともに互いに親しむ機会とした。グループごとにボランティア1名がつき、児童の活動をサポートした。

「美術に興味や関心を持つ機会作りとしたい」という担当教諭の依頼を受けて、良く見ること促す授業を行った。

グループごとに導入として60枚の全カードを良く見させたあと、各自がそれぞれ好きなカードを1枚ずつ選ぶ。次に「夏の日・冬の日」と題して、各自に夏と冬と思うカードをそれぞれ1枚ずつ選ばせる。各自の選んだカードを「夏」と「冬」に分けて集め、それぞれに含まれる図柄を確認する。その後、皆で話し合いながら暑いものから寒いものに順に並べる活動を行った。課題を行いながら皆で意見や感想を話し合うことで、作品への理解が深まるとともに一緒に活動する児童への理解や親しみを増す機会とした。

③南区 笠寺小学校

プログラム名 美術から異文化を知ろう
日 時 7月18日(木)午前9時35分～午前10時15分
場 所 特別活動室
対象学年 6年生2クラス(66名) *学年まとめて授業
講 師 (名古屋市美術館学芸員)井口智子
授業内容 本授業では、北川民次がメキシコ滞在中に描いた《トラルパム霊園のお祭り》とメキシコの画家フリーダ・カーロの《死の仮面を被った少女》への理解を深め、メキシコの生活や文化へ興味を持ってもらうことを目指し実施した。最初に当館の所蔵品を映像で示し、美術館の活動を紹介した。続いて、北川民次の《トラルパム霊園のお祭り》を映し、「何をしている人がいるか」「どんな建物が見えるか」「動物はいるか」「植物はあるか」といったことを問いかけ、4、5人のグループで相談しながら作品をよく見てもらい、見つけたものを発表してもらった。回答の「サボテン」からサボテンが描かれて

いるメキシコの国旗を示し、国を紹介した。そして描かれている教会、墓地、人々の姿から、メキシコで暮らした北川民次がこの絵で伝えようとした人の誕生、命、死といったことを、民次自身の結婚や娘の誕生の話を変えて説明した。その後、フリーダ・カーロの《死の仮面を被った少女》を取り上げ、死の仮面、マリーゴールドからメキシコの「死者の日」の話をした。最後に児童からの質問に答える時間を設けた。児童に問いかけ、児童の発言を取り上げていくことを心がけながら授業を進めた。

④昭和区 吹上小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう
日 時 9月18日(水)午前9時40分～午前10時25分
場 所 体育館
対象学年 2年生2クラス(60名) *学年まとめて授業
講 師 (名古屋市美術館学芸員)森本陽香
スタッフ (ボランティア)9名
授業内容 児童は9つのグループに分かれて座り、それぞれのグループにボランティア1名がつき、児童の活動をサポートした。全体の進行は学芸員が行った。

①わたしはだれでしょう？

各グループでアートカード60枚を図柄が見えるように広げる。学芸員が、ある作品の登場人物または生き物になりきり、作品を特定するためのヒントを3つ提示する。児童はそれぞれのヒントをよく聞き、すべてに当てはまる作品カードを探し出す。ヒントに当てはまるかどうか、判断に悩む作品がある場合は、グループで話し合い、意見を交換する機会とする。

②温度計を作ろう

決められた11枚のカードだけを広げ、残りのカードは片づける。11枚のカードの図柄をよく確認し、「熱い(暑い)」から「冷たい(寒い)」まで、温度計の目盛りのように縦一列に並べる。カードを並べる順番に迷ったときは、それぞれが考えた理由をグループ内で話し合っ決めて。どうしても決まらない場合は、「保留」として温度計外に置いてよい。最後に、他のグループの温度計を見てまわり、感じ方の違いや共通点を知る。

いずれの活動でも、児童たちは活発な意見交換を行い、同じ作品を見ても多様な見方が生まれることを学んだ。

⑤千種区 千代田橋小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう
日 時 9月25日(水)午前9時35分～午後0時20分
場 所 各クラス教室
対象学年 1年生3クラス(60名) *クラスごとに授業
講 師 (名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香
スタッフ (ボランティア)5名
授業内容 1クラスを5つのグループに分け、車座になって座り、アートカード60枚を図柄が見えるように広げる。それぞれの班にボランティアおよび学芸員、あるいは担任教諭がつき、以下の活動において児童の学習をサポートした。

【導入】たんでいゲーム *全体で行う活動

ある作品の一部分をトリミングし、拡大した図版を掲示する。児童はよく観察し、どのカードのどの部位かを探し当てる。作品を隅々まで丁寧に観察する練習としての活動。

【メインの活動】 *前者は全員で、後者はグループ単位で行う活動

①「ポーズで当てよう」

アートカードの作品に登場する人物のポーズやものの形を、スタッフが身体やジェスチャーを駆使して真似る(言葉は決して発しない)。児童たちはその様子を丁寧に観察し、60枚の中からどの作品のどの部分をスタッフが真似たのかを当てる。児童から立候補があればスタッフと交代し、役割を体験させると伝えたところ、勢いよく手を挙げる意欲的な児童が続出し、グループから1名ずつ代表者を出して体験させた。

この活動では、作品の中の人物やものになりきる場合も、正解の作品にたどり着くためにも、丁寧な観察が必要となる。遊びの要素を取り入れながら、児童が自主的に作品をよく見るよう働きかけた。

②「～～だからニガテです」

場に広げた60枚のアートカードをよく観察し、苦手な/気になる作品を各自1枚選ぶ。選ぶカードは複数名で重複しても

構わないこととし、全員が選んだところで、グループ内で順番に一人ずつ理由を発表し合った。

この活動は、担任の先生方から「児童の語彙を増やす活動にしたい」との要望を受けて考案した。感じたことを言葉にする練習として、あえて苦手なものを選ばせ、「どこが」「どのように」とできるだけ理由を具体的に挙げることを促した。

児童一人ひとりが「自分の感じ方に気づく」「自分とは違う感じ方を知る」ことを通して、いずれも間違いではないと理解するとともに、それぞれの考えや思いを尊重して受け止めることをねらいとした。

⑥名東区 北一社小学校

プログラム名 作品に託されたメッセージ
日 時 11月22日(金)午前9時45分～午前10時25分
場 所 特別活動室
対象学年 5年生2クラス(65名) *学年まとめて授業
講 師 (名古屋市美術館学芸員)中村暁子
授業内容 名古屋市美術館の所蔵作品の中から、メキシコの女性画家フリーダ・カーロが描いた《死の仮面を被った少女》(1938年)を採り上げた。最初に世界地図を投影し、メキシコという国がどこにあるかを確認し、メキシコの特徴について話をした。次に、《死の仮面を被った少女》の画像を見せ、どんなものが描かれているのか細かく観察し、発言してもらった。その後、この少女がどんな気持ちでここにいるのかをそれぞれ筆記し、何人かが発表した。続いて、フリーダ・カーロの写真や作品数点を見せ、彼女の人生について話した。また、メキシコの死者の日の説明を通じてメキシコの死生観についても伝え、《死の仮面を被った少女》がどういう背景で描かれ、そこにどのような意味が込められているかを理解してもらうようにした。最後にもう一度この作品を見て感想を言ってもらい、最初の印象とどのように変化したかを確認して、授業を終了した。

⑦名東区 藤が丘小学校

プログラム名 アートカードで学ぼう
日 時 2月21日(金)午前9時40分～午前11時30分
場 所 図書室
対象学年 1年生4クラス(104名) *学年を2つに分けて授業
講 師 (名古屋市美術館学芸係長)保崎裕徳
スタッフ (ボランティア)8名
授業内容 104名と参加児童が多かったため、半分に分けて2回同じ内容でアートカードを使った授業を行った。各回とも児童を8グループに分け、各グループにボランティアが1名ついて以下の活動を支援した。

(1)マッチング・ゲーム

山札20枚と場に広げる札40枚に分ける。一人ずつ順番に山札をめくり、「同じ色」が使っているカードを場の札から探し、「どこどこの何色が同じ」かを説明する。グループ全員が納得したらクリア。何周かしたら「同じ物」が描いてあるカード探しに切り替える。色や形という造形要素に意識を集め、色の具合や見たものを言葉で表現し、類似や差異に気づくことを目的とした。

(2)さがしてみよう

場に60枚のカードを広げる。場の札を観察しながら「怖い感じがする作品」を探し、順番に一人ずつ選ぶ。選び終わった後、各自どこを見て怖いと思ったかを説明する。全員が感想を発表したら、グループで相談して一番怖いものから順番に左から右へ並べる。時間があれば「楽しい感じがする作品」で2周目を行う。作品に対して、自分の経験や色・形などをもとに自分なりのイメージをもち、他の児童と気づきや見方を共有することを目的とした。

(4)就業・職業体験及び職場訪問受け入れ

対 象 中学校・高等学校生徒
内 容 【体 験】 総務課、学芸課の業務内容を知るとともに、警備、案内監視、施設管理等の業務内容を知り、体験する。
【訪 問】 館内施設の見学をするとともに、疑問点についてインタビューを行い、美術館に関する理解を深める。

実績

就業・職業体験

実施日	内容	学校名	学年	人数
元年6月11日(火)・12日(水)	体験	名古屋市立御幸山中学校	2年	5人
元年8月1日(木)・2日(金)	体験	名古屋市立名古屋商業高等学校	2年	5人
元年8月6日(火)・7日(水)	体験	愛知県立西春高等学校	1、2年	3人
元年8月22日(木)	体験	名古屋中学校	2年	5人
元年8月23日(金)	体験	名古屋中学校	2年	5人
元年8月27日(火)	体験	椋山女学園中学校	3年	7人
元年11月12日(火)・13日(水)	体験	名古屋市立若宮商業高等学校	1年	4人
2年1月16日(木)・17日(金)	体験	名古屋市立高針台中学校	2年	5人
2年1月21日(火)・22日(水)	体験	名古屋市立御田中学校	2年	6人
2年1月23日(木)・24日(金)	体験	名古屋市立東陵中学校	2年	3人
2年1月28日(火)・29日(水)	体験	名古屋市立伊勢山中学校	2年	4人
2年1月30日(木)	体験	南山中学校 男子部	2年	4人
2年2月4日(火)・5日(水)	体験	名古屋市立港北中学校	2年	2人
計				58人

職場訪問

実施日	内容	学校名	学年	人数
元年5月14日(火)	訪問	桑名市立陽和中学校	2年	6人
元年6月18日(火)	訪問	垂井町立不破中学校	2年	12人
元年11月1日(金)	訪問	岩倉市立岩倉中学校	1年	12人
元年11月7日(木)	訪問	蟹江町立蟹江北中学校	1年	5人
2年1月15日(水)午前	訪問	名古屋市立神丘中学校	2年	7人
2年1月15日(水)午後	訪問	名古屋市立神丘中学校	2年	8人
2年1月17日(金)	訪問	名古屋市立植田中学校	1年	5人
2年1月22日(水)	訪問	名古屋市立御幸山中学校	1年	6人
2年1月31日(金)	訪問	名古屋市立神沢中学校	1年	6人
計				67人

(5)その他

トワイライトスクール／ルームでの出前事業

「トワイライトスクール／ルーム」は名古屋市内各小学校の施設を利用し、放課後から夕方決められた時間まで、児童が安心して過ごせる機会と場所を提供する事業である。

以前から美術館では教育委員会が行う全市的事業「その道の達人派遣事業(美術館：出前アート体験)」に従事し、希望する市内の小中学校で授業を行ってきた。本事業は内容を従来のものより簡易化し、トワイライトスクール／ルームとの連携事業として実施することで、児童やその保護者に美術館の活動に対する認知度を高め、美術への関心を持ってもらおうという趣旨である。

令和元年度は、ボランティアのガイド活動がない期間[6月3日(月)～28日(金)]中に、4校で実施した。なお、年明け3月中旬にも2校での追加実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、トワイライトスクールにおいて外部講師による活動が一律中止となり、実施は見送られた。

①西区・上名古屋小学校トワイライトスクール

日時 6月5日(水)午後3時30分～午後4時30分

参加者数 1～2年生40名程度

講師 (名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香

スタッフ (ボランティア)5名

内容 ①たんていゲーム

アートカード60枚を図柄が見えるように広げる。作品画像の一部を切り取って拡大したものを提示し、児童はそれがどの作品のどの部分かを探し当てる。お手付きしたときは、どこで間違えたのかをグループで一緒に考える。

②わたしはだれでしょう？

アートカード60枚を図柄が見えるように広げる。学芸員が、ある作品の登場人物または生き物になりきり、見つけてもらうためのヒントを提示する(全部で3つ)。児童はそれぞれのヒントをよく聞き、すべてに当てはまる作品カード(と「私」は誰／何か)を探し出す。まぎらわしいカードも含まれるが、お手付きの場合は「どこで間違えたのか」を正解と見比べて確認し合う。

③カレンダーをつくろう

60枚のカードの図柄をよく観察し、題材などから四季に分類した後、季節や行事を考えながらカレンダーに合う作品を2カ月ごとに計6枚選ぶ。迷った時は、それぞれが選んだ理由をグループ内で話し合って決める。時間に余裕があれば、グループごとの選んだ結果を見合う。

②瑞穂区・陽明小学校トワイライトスクール

日時 6月14日(金)午後3時～午後4時

参加者数 1～2年生中心30～40名

講師 (名古屋市美術館学芸員)清家三智

スタッフ (ボランティア)6名

内容 ①たんていゲーム

②わたしはだれでしょう？

*ここまで上名古屋小学校の実施内容と同様。

③温度計をつくろう

あらかじめ選ばれた11枚のアートカードの図柄をよく観察し、作品から受ける温度の印象を「熱い(暑い)」から「冷たい(寒い)」まで、温度計の目盛りのように横一列に並べる。カードを並べる順番に迷ったときは、それぞれが考えた理由をグルー

プ内で話し合う。時間に余裕があれば、
グループごとの結果を見合う。

③天白区・植田南小学校トワイライトスクール

日 時 6月19日(水)午後3時～午後4時
参加者数 1～2年生50名程度
講 師 (名古屋市美術館学芸員)清家三智、森本陽香
スタッフ (ボランティア)6名
内 容 ①たんていゲーム
②わたしはだれでしょう？
③温度計をつくろう
*陽明小学校の実施内容と同様。

④緑区・旭出小学校トワイライトスクール

日 時 6月25日(火)午後3時30分～午後4時30分
参加者数 1～2年生中心30名程度(保護者6名を含む)
講 師 (名古屋市美術館学芸員)清家三智
スタッフ (ボランティア)4名
内 容 ①たんていゲーム
②わたしはだれでしょう？
③温度計をつくろう
*陽明小学校の実施内容と同様。

2 ボランティア

今年度は75名の登録者にて活動を行った。

主な活動は、常設展示室でのギャラリートークや、学校休業日の教育プログラムにおける美術鑑賞体験の支援など通常の出前授業の他に、トワイライトスクールでもアートカードを使った鑑賞学習体験を実施した。

多くのメンバーで安定した活動運営ができる一方で、一人当たりの活動の機会を確保することや、ガイドの質やレベルを平準化することが今後の課題となるが、美術館としては、ボランティアが安心して活動に積極的に取り組めるよう支援していくことが責務である。

(1)ボランティア登録者(2020年3月31日現在)

第6期:伊藤えつ子、荻野知恵子、梶田清美、加藤枝里香、坂井千恵 ほか、計9名

第7期:池本せい子、今井康夫、遠藤明子、太田美奈、大塚和子、加藤久子、末原みとせ、蔦森敦子、中川和彦、平尾真実、三浦有美、三島悠、安江あおい、安原栄里、横井文代、吉川優実 ほか、計17名

第8期:内海典子、川合幸代、神田初美、柴田順三、杉原和夫、杉山要、谷村満智子、都築祥子、道家千津子、中山越子、廣瀬千明、福田慶恵 ほか、計19名

第9期:伊藤和子、魚住千加子、可児理佳、北村滋規、近藤理恵、下田薫子、鈴木浩司、恒川明美、廣瀬典子、前澤真奈美、目加田頼子、吉村由紀江、米本有里、渡辺順子、渡曾真奈美 ほか、計18名

第10期:池田裕子、太田美也子、各務初音、川合葉子、久野るみ子、高鷲民生、中島鋭夫、二宮由加里、野沢忠道、古居幸子 ほか、計12名

(2)定例会

定例会は原則として毎月第2土曜日の午前中に開催した。ボランティア間の連絡・調整の他に以下のような研修を行った。3月定例会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

日時	時間	内容	講師
4月13日	午前10時～正午	係活動の話し合い	ボランティア
5月11日	午前10時～正午	今日は何の日? 1933年5月11日、ニューヨーク。壁画をめぐる物語	竹葉学芸員
6月8日	午前10時～正午	パスキンの素描と版画について	森本学芸員
7月13日	午前10時～正午	名品コレクション展Ⅱについて	清家学芸員
8月3日	午前10時～正午	研修係企画「視覚に障害のある方へのガイド」について	堀尾純子氏(名古屋YWCAアートな美)
9月14日	午前10時～正午	岸田劉生と愛美社	井口学芸課長
10月12日	午前10時～正午	日本における西洋美術の受容について	深谷副館長
11月9日	午前10時～正午	作品鑑賞ワークショップ	角田学芸員
12月14日	午前10時～正午	名品コレクション展Ⅲについて	角田学芸員
1月11日	午前10時～正午	アール・ヌーヴォーとユーゲント・シュティール	中村学芸員
2月8日	午前10時～正午	イサム・ノグチとその影響	保崎学芸係長

(3)ガイド活動

①常設展ギャラリートーク

休館日を除く毎日(午前11時～・午後2時～)、一般を対象とした約1時間のガイドツアーを各日ボランティア2名が担当した。※2月28日以降中止

活動日数 225日間

参加者数 延べ1,402名

②特別展ギャラリートーク

特別展ギャラリートークは、ボランティアに参加の希望を募り、展覧会ごとに担当を分けて行う。ギャラリートークの開催日、開始時間、方法などは、担当ごとに選出するまとめ役を中心にした話し合いによって決定する。登録後2年を経過したボランティアのメンバーが活動している。一般を対象とした約1時間のガイドツアーであり、ボランティア2名が組となり、会

場入口で参加者を募りグループを編成して1日につき2回実施する。

a)カラヴァッジョ展

開催日 11月8日、13日、14日、15日、19日、20日、21日、26日、27日(計9日)
時間 午前10時30分～／午後1時30分～
担当 6期:4名、7期:1名、9期:2名 計7名
参加数 延べ609名

b)没後90年記念 岸田劉生展

開催日 1月15日、17日、23日、24日、30日、31日、2月5日、7日、12日、19日、20日、21日(計12日)
時間 午前10時30分～／午後1時30分～
担当 7期:2名、8期:3名、9期:2名 計7名
参加数 延べ526名

(4)サポート活動 系の活動

研修係

館外研修は、5月25日に愛知県美術館にて「アイチアートクロニクル 1919-2019」を担当の副田一穂・同館学芸員のギャラリートークとともに鑑賞した。また、8月18日に岡崎市美術博物館にて「キスリング エコール・ド・パリの煌き」を担当の高見翔子・同館学芸員によるレクチャールームでの解説を受けて鑑賞した。また、定例会におけるレクチャーのうち、8月定例会において、研修係企画として「視覚に障害のある方へのガイドについて」と題して「名古屋YWCAアートな美」の堀尾純子氏を講師に招いてトーク技術の向上を図る機会とした。堀尾氏から紹介された「名古屋YWCAアートな美」の考え方や実践例を参考としながら係内で打ち合わせを重ね、2月8日の定例会後に視覚に障害のある方へのガイドを実践練習する自主研修を行った。

資料係

常設展の展示替えごとにギャラリートークの参考となる資料を選別してボランティアに情報提供し、必要なものは配布した。特別展ギャラリートーク等で使用した資料やコレクション解析学等の展覧会の記録を収集し、後に参照しやすいよう整理して保存するなど、資料の管理全般に携わった。

体験活動係

年間を通して開催される「美術をたのしむプログラム2019」各活動の実施に際し、スタッフの募集や実施

までの連絡調整、教材の下準備、参加者との対話を中心とした当日の運営サポート、実施後のボランティア定例会での活動報告を主に担当した。

当日の円滑な事業運営や鑑賞対象となる作品への理解を深めるため、事前打ち合わせやギャラリートークの自主練習を行ったほか、実施後の記録や参加者から寄せられた感想や質問などの情報共有をもとに、次年度の活動内容の検討や意見交換にも携わった。

団体対応係

学校団体等による常設展の鑑賞を円滑に進めるため、参加するボランティアの調整などの取りまとめを行ったほか、2回の自主勉強会を実施した。1回目の勉強会では、自由な発想を大切にしながらも、作品の本質に近づくための鑑賞者への声掛けについて議論を深めた。2回目では、大人数グループでの作品鑑賞の方法について意見を出し合った。勉強会や振り返りの場を通じて、各ボランティアの経験を共有するとともに、ギャラリートークの改善点などについて話し合った。

3 学生向け優待事業

(1)美術館学生メンバーズ

①趣旨

美術館と大学等との教育連携により、学生と美術との出会いを容易にし、学生生活をより豊かにする機会を提供する。

②対象

大学(短大、大学院)、専修学校、各種学校等の学校の生徒。オプションとして教職員の付加も可能。

③事業概要

「ゆめ・プレミアムアートコレクション寄附金」に一定額以上の寄附を行った学校法人や団体に対して、その特典として、在籍する学生等がその年度の特別展や常設展を学生証等の呈示だけで無料で観覧できるようにするもの。

④会員校及び参加数

12大学、約5,140名

(2)高校生サポーター事業

①趣旨

事業の実施により、高校生の美術に対する理解を深め、学校生活をより豊かにする機会を提供する。

②対象

高等学校、中等教育学校（後期課程に限る。）又は高等専門学校生徒。

③事業概要

2,000円の会費の納付により、納付から1年間の会員期間の間、サポーター証及び学生証の呈示により特典を受けられる。特別展は会員及び同行する高校生が4回を上限に無料で観覧でき、常設展は会員が何度でも無料で観覧できる。

④参加人数

約100名

4 協力会

名古屋市美術館協力は、美術館の活動等に協力するとともに、市民の美術に関する知識と教養の向上を図るために必要な事業を行い、芸術文化の振興発展に寄与することを目的に活動を行っています。

＜会員数＞	＜新規・継続別＞（令和2年3月31日現在）		
	新規	継続	計
特別会員 8名	特別会員 0名	8名	8名
一般会員 132名	一般会員 25名	107名	132名
ユース会員 17名	ユース会員 6名	11名	17名
家族会員 67名	家族会員 12名	55名	67名
（計） 224名	（計） 43名	181名	224名

令和元年度美術館協力会事業報告

- 展覧会ギャラリー・トークの開催
 - 「印象派からその先へー世界に誇る吉野石膏コレクション」
平成31年4月14日（日） 72名参加
 - 「あいちトリエンナーレ2019」
令和元年8月4日（日） 44名参加
 - 「あいちトリエンナーレ合同鑑賞会」
令和元年8月27日（火）午前 27名参加
令和元年8月27日（火）午後 30名参加
 - 「カラヴァッジョ展」
令和元年10月27日（日） 95名参加
 - 「没後90年記念 岸田劉生展」
令和2年1月12日（日） 88名参加
- 美術館見学ツアーの実施
 - 春 令和元年5月19日（日） 39名参加
浜松市美術館、静岡近代美術館、静岡市美術館
 - 秋 令和元年12月1日（日） 48名参加
大和文華館、喜多美術館、安倍文殊院、聖林寺
- 作家を囲む会
 - 「宮下規久朗さん」を囲む会
令和元年11月10日（日） 30名参加
 - 「山田諭さん」を囲む会
令和2年2月2日（日） 26名参加
- 美術館鑑賞ミニツアー
 - 「アイチアートクロニクル1919-2019」愛知県美術館
令和元年6月16日（日） 21名参加
 - 「神谷浩さんと行く、名古屋城本丸御殿」名古屋城本丸御殿
令和元年7月28日（日） 33名参加
 - 「あいちトリエンナーレ2019」豊田市美術館
令和元年8月25日（日） 18名参加
 - 「空間に線を引くー彫刻とデッサン」碧南市藤井達吉現代美術館
令和元年9月15日（日） 9名参加
 - 「シャルル＝フランソワ・ドービニー展」三重県立美術館
令和元年10月6日（日） 12名参加
 - 「コートールド美術館展」愛知県美術館
令和2年1月26日（日） 39名参加
 - 「岡崎乾二郎展」豊田市美術館
令和2年2月16日（日） 9名参加

- ブログの運用
令和元年度ブログ閲覧状況
〔投稿58件、閲覧数10,615回、ユーザー数(延)2,596名〕
- オリジナル・カレンダーの作成及び配付
「吉本作次」の油彩、水彩、雲母、アクリル・紙 270部
- 催しもの案内
特別展、常設展、講演会など情報提供、年間展覧会案内、アートペーパーの配付
- 作品の寄贈
オリジナル・カレンダー1件1点
令和2年2月10日の資料収集会議で決定
- 総会の開催
令和元年6月9日（日） 24名参加（委任状100名）

5 図書室

図書室の資料の充実を図るとともに、そのときどきの特別展に即した参考資料を揃えるなどして、利用者の多様なニーズに応えるよう努力しています。

図書資料分類別冊数一覧（令和2年3月31日現在）

分類	和書	洋書
辞書、辞典、年鑑、図書目録	578(1)	225(0)
画集、美術全集、所蔵品目録	7,757(52)	3,597(16)
展覧会図録	13,632(146)	1,529(7)
研究書、技法書	392(4)	15(0)
年報、紀要、報告書	8,493(258)	23(0)
美術雑誌	13,157(63)	2,573(7)
その他(美術教科書、一般図書)	2,589(14)	1,095(0)
小計	46,598(538)	9,057(30)
総計	55,655(568)冊	

()は今年度の受け入れ図書冊数

入室者数 5,429名

月	入室者数	月	入室者数
4月	512名	10月	386名
5月	973名	11月	756名
6月	113名	12月	608名
7月	0名	1月	338名
8月	755名	2月	456名
9月	514名	3月	18名

出版・制作物一覧

美術館ニュース『アートペーパー』Nos.111、112、113

美術館の活動状況や美術・文化についての様々な情報を広報するものです。

A 2判(2つ折り)、各5,000部、館内無料配布およびPDFデータを当館ウェブサイトに掲載

特集記事

- 111号：縁をつなぐ—海老原友忠《田端機関庫》をめぐって(1)
- 112号：縁をつなぐ—海老原友忠《田端機関庫》をめぐって(2)
- 113号：納屋橋の料亭・得月楼をめぐって



平成30年度名古屋市美術館年報

平成30年度の当館の活動の記録です。

A 4判、80頁、PDFデータを当館ウェブサイトに掲載



令和2年度年間案内

令和2年度の展覧会情報と教育普及プログラムについて広報するものです。

A 3判(2つ折り、3山経本折り)、20,000部、館内無料配布



常設展見学のしおりの改訂・増刷

常設展を見学する小・中学生にむけて、収蔵品の収集方針や代表的な作品について平易に解説するものです。

A 4判(3つ折り)、20,000部、館内無料配布



所蔵作品解説カードの増刷

常設展に展示中の作品について解説したカードです。

B 6判、増刷20種、計75,000枚、館内無料配布



名古屋市美術館ボランティア(第11期)募集要項

当館ボランティアの活動の紹介、応募方法の告知および応募用紙です。

A 3判(2つ折り)、7,000部



名古屋市美術館東山動物園猛獣画廊壁画修復募金チラシ

令和元年度より、「ゆめ・プレミアムアートコレクション寄附金事業」を「東山動物園猛獣画廊壁画修復募金」として、寄附金の使用用途を3点の壁画の修復に一本化しました。本チラシはこの募金を告知するためのものです。

A 4判、20,000部



令和元年度は、受贈391点、受託2132点の合計2523点もの大量の作品を新たに受け入れました。

予算の関係もあり、今年度は作品を購入することはできませんでしたが、貴重な作品を多数ご寄贈いただきました。名古屋市内の個人と企業からは藤田嗣治の戦後作品2点のご寄贈をいただきました。いずれも藤田夫人が亡くなるまで手元に置いていた重要な作品で、過去の藤田展にも必ず出品された代表作です。当館の藤田作品はこれで6点となり、ますます充実いたしました。

赤瀬川原平の「千円札裁判関連資料」273点は、前年の収集会議において寄託となったものですが、ご所蔵家より改めてご寄贈いただけることになりました。赤瀬川を研究する上でも、また戦後の日本美術の歴史を語る上でも極めて貴重な資料であり、今後整理と調査を進め、十分に活用したいと思います。

さらに中村正義と下郷羊雄の貴重な作品および資料を、いずれも名古屋市内在住の個人からご寄贈をいただいています。地元の現存作家で戦後の抽象表現を代表する作家、加藤大博氏からは作品と資料26点を、また同じく地元の現存作家の黒巖壮氏からは、初期の木彫の代表作をご寄贈いただきました。

他にも戦後のリアリズム運動の一面を伝える海老原友忠の素描作品、日本を代表するメディア・アーティスト山本圭吾の連歌をテーマとした作品。デザイナーであり、詩人でもあった亀山巖のユニークなペン画と

切り絵、名古屋を拠点とした前衛芸術集団「ぶろだくしょん我'S」の活動を知る手がかりとなる資料。

1960年代の国内の美術の動向を知る上で貴重な雑誌『形象』と『機関』。毎年恒例となっている現存作家によるカレンダーとその原画など、多種多様な作品と資料のご寄贈をいただいています。

当館のコレクションでは、写真が充実している点も特徴の一つといえますが、今年度は日高長太郎の作品や関連資料などを含む1700点を超える膨大なご寄託をいただきました。今後調査研究を進めて、地元の写真史の一層の解明に努力したいと思います。

令和元年度の受贈作品391点を加えて、コレクションの総数は6700点を超えました。着実にコレクションを充実させていくことはもちろん大切ですが、収蔵した後の調査・研究もそれに劣らず重要です。今後の展示や教育普及活動に反映させることができるよう、引き続き地道な調査を継続していきたいと思っています。

(1) 受贈

① 資料



1. 中村正義
(1924-1977)
NAKAMURA Masayoshi
《木》
Trees
c.1948
紙本墨画淡彩
27.5×39.6cm
平松潤一郎氏寄贈



2. 中村正義
(1924-1977)
NAKAMURA Masayoshi
《林》
Woods
c.1959
紙本着彩
39.0×58.5cm
平松潤一郎氏寄贈



3. 中村正義
(1924-1977)
NAKAMURA Masayoshi
《白樺・秋》
Birch・Autumn
1960年
紙本着彩
50.2×73.3cm
平松潤一郎氏寄贈



4. 中村正義
(1924-1977)
NAKAMURA Masayoshi
《雪》
Snow
1961年
紙本着彩
50.0×73.1cm
平松潤一郎氏寄贈



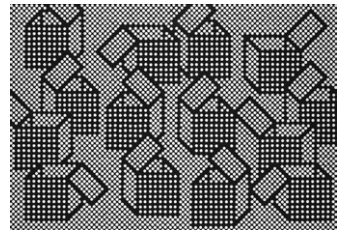
5. 藤田嗣治
(1886-1968)
FUJITA Tsuguharu
《二人の祈り》
Prayer of the Two
1952年
油彩・キャンヴァス
46.2×38.2cm
平松潤一郎氏寄贈



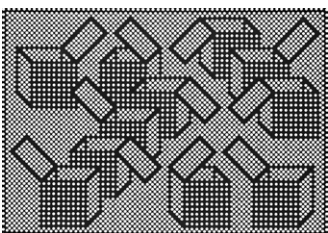
6. 藤田嗣治
(1886-1968)
FUJITA Tsuguharu
《夢》
Dream
1954年
油彩・キャンヴァス
50.8×61.3cm
オリエンタルビル株式会社寄贈



7. 下郷羊雄
(1907-1981)
SHIMOZATO Yoshio
《流木》
Driftwood
1976年
油彩・キャンヴァス
41.0×32.0cm
水谷功子氏寄贈



8. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《点による作業-80.D2》
Work with Points-80.D2
1980年
油彩・キャンヴァス
額: 116.0×165.7×4.0cm 112.0×162.0cm
加藤大博氏寄贈



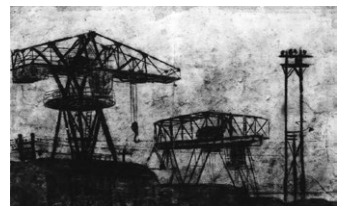
9. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《点からの作品-92.C2》
Work with Points-92.C2
1992年
油彩・キャンヴァス
額: 116.0×165.5×4.0cm 112.0×162.0cm
加藤大博氏寄贈



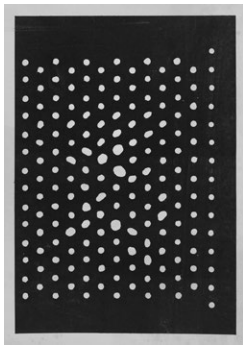
10. 吉本作次
(1959-)
YOSHIMOTO Sakuji
《樹下奏飲図(名古屋美術協力会
カレンダー-2020原画)》
Man and Woman Drinking and Playing the Herp
under the Tree (Original Painting of the Nagoya
City Art Museum Membership Calendar 2020)
2019年
油彩、水彩、雲母、アクリル・紙
56.4×39.8cm
吉本作次氏寄贈



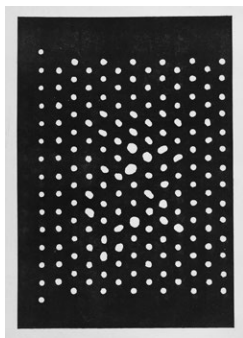
11. 海老原友忠
(1920-2003)
EBIHARA Tomotada
《南部風景》
Scenery of Southern Area
1954年
コンテ・紙
24.2×66.0cm



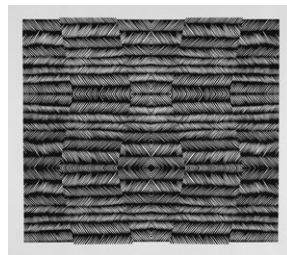
12. 海老原友忠
(1920-2003)
EBIHARA Tomotada
《クレーン》
Crane
1954年
コンテ・紙
20.8×33.4cm



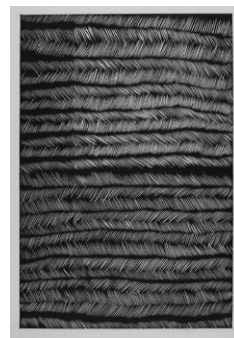
13. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《[題不詳]》
[Untitled]
n.d(70年代前半)
インク・紙 木版
紙:58.8×43.4cm イメージ:52.4×36.3cm
加藤大博氏寄贈



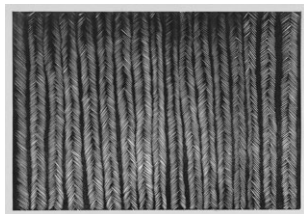
14. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《[題不詳]》
[Untitled]
n.d(70年代前半)
インク・紙 木版
紙:58.5×44.4cm イメージ:52.4×36.3cm
加藤大博氏寄贈



15. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《[題不詳]》
[Untitled]
n.d(70年代)
インク・紙 木版
紙:50.3×66.0cm イメージ:41.7×46.8cm
加藤大博氏寄贈



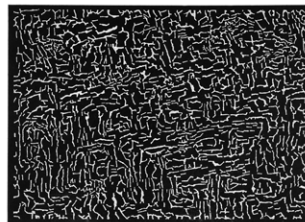
16. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《[題不詳]》
[Untitled]
n.d(70年代)
インク・紙 木版
紙:54.6×39.8cm イメージ:44.3×29.7cm
加藤大博氏寄贈



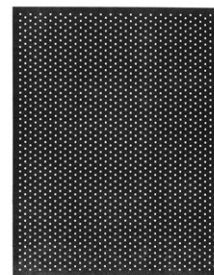
17. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《[題不詳]》
[Untitled]
n.d(70年代)
インク・紙 木版
紙:54.4×64.1cm イメージ:34.9×50.7cm
加藤大博氏寄贈



18. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《[題不詳]》
[Untitled]
n.d(70年代)
インク・紙 木版
紙:56.7×54.5cm イメージ:40.0×39.4cm
加藤大博氏寄贈



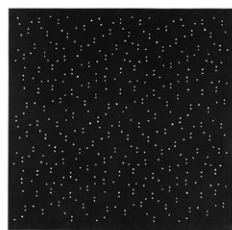
19. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《[題不詳]》
[Untitled]
n.d(70年代)
インク・紙 木版
紙:56.5×56.0cm イメージ:27.1×37.6cm
加藤大博氏寄贈



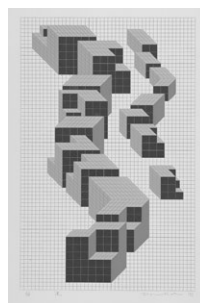
20. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《彩色(3) Work-(A)'78》
Color(3) Work-(A) '78
1978年
インク・紙 木版
紙:50.4×36.1cm イメージ:40.4×31.6cm
加藤大博氏寄贈



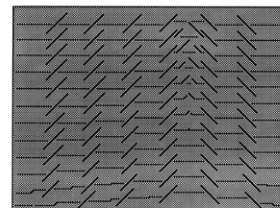
21. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《Work-(N)'78 withdrawal of
projention》
Work-(N) '78 withdrawal of projection
1978年
インク・紙 木版
紙:52.3×56.5cm イメージ:39.4×40.1cm
加藤大博氏寄贈



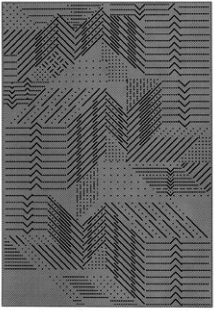
22. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《Work(Z)'78 withdrawal of
projention》
Work(Z) '78 withdrawal of projection
1978年
インク・紙 木版
紙:49.6×50.9cm イメージ:40.5×41.1cm
加藤大博氏寄贈



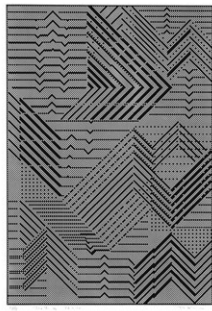
23. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《連》
Range
1983年
インク・紙 シルクスクリーン
紙:73.0×54.5cm イメージ:54.0×34.5cm
加藤大博氏寄贈



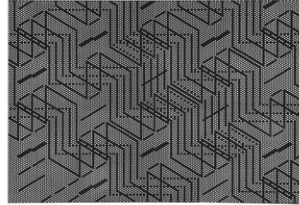
24. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《Points Work(11)》
Points Work(11)
1983年
インク・紙 シルクスクリーン
紙:45.0×60.5cm イメージ:34.4×46.1cm
加藤大博氏寄贈



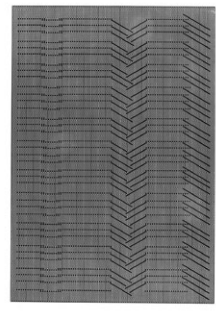
25. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《Dots '84-8》
Dots '84-8
1984年
インク・紙 シルクスクリーン
紙:66.5×50.3cm イメージ:59.3×40.9cm
加藤大博氏寄贈



26. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《Dots '84-10》
Dots '84-10
1984年
インク・紙 シルクスクリーン
紙:66.0×50.5cm イメージ:59.7×41.1cm
加藤大博氏寄贈



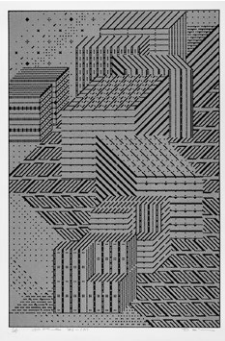
27. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《Dots '85-(A)》
Dots '85-(A)
1985年
インク・紙 シルクスクリーン
紙:54.3×72.5cm イメージ:42.3×59.6cm
加藤大博氏寄贈



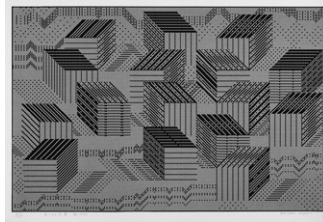
28. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《Dots '85-(L)》
Dots '85-(L)
1985年
インク・紙 シルクスクリーン
紙:72.5×54.6cm イメージ:59.8×41.0cm
加藤大博氏寄贈



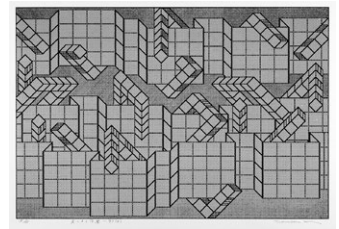
29. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《Dots '85-(Y)》
Dots '85-(Y)
1986年
インク・紙 シルクスクリーン
紙:76.1×57.0cm イメージ:59.7×41.0cm
加藤大博氏寄贈



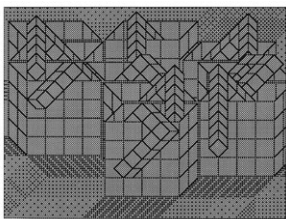
30. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《Dots '86-(K)》
Dots '86-(K)
1986年
インク・紙 シルクスクリーン
紙:107.0×78.7cm イメージ:90.9×60.4cm
加藤大博氏寄贈



31. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《点による作業'86-M(L)》
Work within Points '86-M(L)
1986年
インク・紙 シルクスクリーン
紙:74.6×104.6cm イメージ:59.6×91.0cm
加藤大博氏寄贈



32. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《点による作業-'87(E)》
Work within Points -87(E)
1987年
インク・紙 シルクスクリーン
紙:78.9×107.1cm イメージ:59.5×88.0cm
加藤大博氏寄贈



33. 加藤大博
(1936-)
KATO Daihaku
《点による作業(箱)-'87(F)》
Work within Points -87(F)
1987年
インク・紙 シルクスクリーン
紙:79.0×98.6cm イメージ:58.2×78.0cm
加藤大博氏寄贈



34. 黒藤壮
(1951-)
KUROWARABI Sou
《マイ・ハウスI》
My House
1986年
楠・ステンレス
230.0×150.0×50.0cm
丹羽勝壽氏寄贈



35. 山本圭吾/伊藤英高
(1936-)
YAMAMOTO Keigo
《もう一つのゲート(浅草寺)》
Another Gate(The Sensou-ji Temple)
1990.6
顔料・キャンヴァス
56.0×75.2cm
山本圭吾氏寄贈



36. 山本圭吾/Don Foresta
(1936-)
YAMAMOTO Keigo
《流れ》
Flowing
1990.6
顔料・キャンヴァス
21.0×27.9cm
山本圭吾氏寄贈



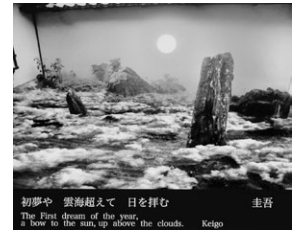
37. 山本圭吾/Axel Wirths/ Don Forester, etc.
(1936-)
YAMAMOTO Keigo
《情報の歪み No.1》
Distortion of the Information No.1
1991.8
顔料・キャンヴァス
56.2×84.8cm
山本圭吾氏寄贈



38. 山本圭吾/伊藤英高/山口あかね
(1936-)
YAMAMOTO Keigo
《虹の庭》
Garden of Rainbow
1992.6
顔料・キャンヴァス
29.7×43.6cm
山本圭吾氏寄贈



39. 山本圭吾/伊藤英高
(1936-)
YAMAMOTO Keigo
《石段を登る名月》
Harvest Moon Climbing a Stone Stairway
1995.9
顔料・キャンヴァス
73.2×54.9cm
山本圭吾氏寄贈



40. 山本圭吾/伊藤英高/柴田明彦
(1936-)
YAMAMOTO Keigo
《初夢や/雲海越えて/日を拝む》
Dream of the Year, a Bow to the Sun,
up above the Clouds
1996.1
顔料・キャンヴァス
27.6×33.5cm
山本圭吾氏寄贈



41. 山本圭吾/伊藤英高
(1936-)
YAMAMOTO Keigo
《都市の水輪》
Water Ring of The City
1996.4
顔料・キャンヴァス
47.8×73.9cm
山本圭吾氏寄贈



42. 山本圭吾/伊藤英高/柴田明彦
(1936-)
YAMAMOTO Keigo
《雲海の竹林》
Canebreaks in the Cloud
1996.8
顔料・キャンヴァス
24.9×36.8cm
山本圭吾氏寄贈

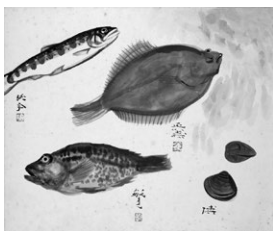


43. 山本圭吾/Robert.H.P.Dunn
(1936-)
YAMAMOTO Keigo
《日の出との対話(21世紀の夜明け)》
Dialogue with Sunrise; Down of 21st Century
2000.11
顔料・キャンヴァス
30.5×43.2cm
山本圭吾氏寄贈



44. 山本圭吾/栄晓佳
(1936-)
YAMAMOTO Keigo
《観月を/あきらめ宿路の/雨上がり》
At the Way to Home, after giving up the
Viewing Moon
2006.8
顔料・キャンヴァス
73.8×54.3cm
山本圭吾氏寄贈

②特別資料



1. 中村正義 関連資料
(1924-1977)
NAKAMURA Masayoshi
《寄せ書き》
Fish and Shell
1959年
紙本着彩
37.6×45.0cm
平松潤一郎氏寄贈



2. 中村正義 関連資料
(1924-1977)
NAKAMURA Masayoshi
《天愚会囲碁記事星取表》
Score of the game of Go
1959年
紙本着彩
39.5×32.0cm
平松潤一郎氏寄贈



3. 赤瀬川原平
(1937-2014)
AKASEGAWA Genpei
《「千円札裁判」関連資料(1件273点)》
Documents and Materials for the 1,000 yen
Note Trial Unfolds
1963-70年
文書、証拠品(紙幣類似品コレクション、展覧会
パンフレット等)



4. 《雑誌「形象」第5号》
Magazine "Form", "Organ"
1962.3
印刷・紙・雑誌



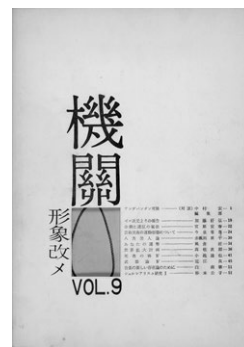
5. 《雑誌「形象」第6号》
Magazine "Form", "Organ"
1962.6
印刷・紙、雑誌



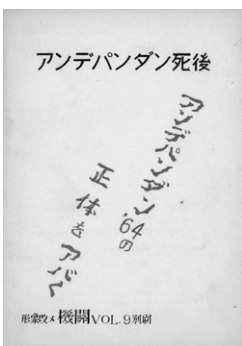
6. 《雑誌「形象」第7号》
Magazine "Form", "Organ"
1963.2
印刷・紙、雑誌



7. 《雑誌「形象」第8号》
Magazine "Form", "Organ"
n.d.
印刷・紙、雑誌



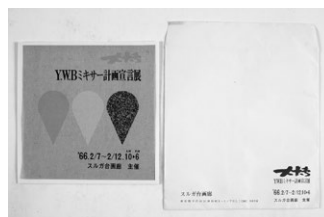
8. 《雑誌「機関」(「形象」から改題)第9号》
Magazine "Form", "Organ"
1964.6
印刷・紙、雑誌



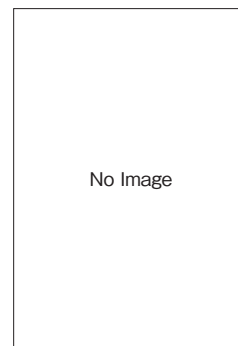
9. 《雑誌「機関」第9号別冊》
Magazine "Form", "Organ"
n.d.
印刷・紙、雑誌



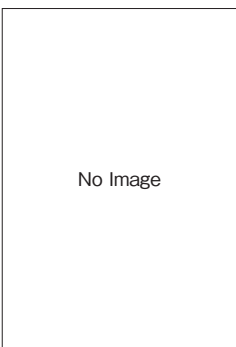
10. 《雑誌「機関」第10号》
Magazine "Form", "Organ"
1966.1
印刷・紙、雑誌



11. 加藤大博 (1936-)
KATO Daihaku
《加藤大博個展「Y.W.B.ミキサー計画宣言展」リーフレット(外袋付)》
Leaflet for "Kato Daihaku; Declaring Y.W.B Mixer Plan"
1966年
インク・紙
54.9×18.3(三つ折り)18.3×18.3
外袋:24.3×20.4cm
加藤大博氏寄贈



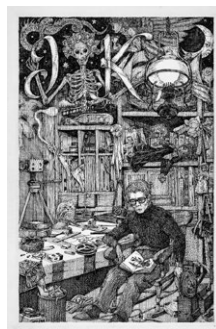
12. 伊勢湾共和国 独立運動円卓会議
《伊勢海国の独立 伊勢湾共和国独立運動円卓会議機関誌》
Independence of Lsekaikoku, Isewan Bay Republic Independence movement Roundtable Organ Magazine
1978年
インク・紙 書籍
27.2×19.8×0.2cm
加藤大博氏寄贈



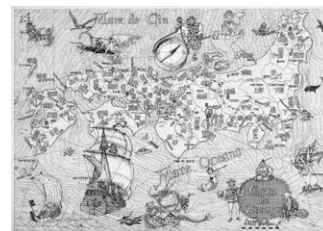
13. 伊勢湾共和国 独立運動円卓会議
《伊勢湾共和国 伊勢湾共和国独立運動円卓会議機関誌 2》
Independence of Lsekaikoku, Isewan Bay Republic Independence movement Roundtable Organ Magazine No.2
1978年
インク・紙 書籍
27.3×20.0×0.2cm
加藤大博氏寄贈



14. 亀山巖 (1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《輝く天使》
Shining Angel
n.d.
インク・紙、ペン画
紙:22.5×21.7cm



15. 亀山巖 (1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《アトリエ》
Atelier
n.d.
インク・紙、ペン画
紙:37.6×26.6cm



16. 亀山巖 (1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《Carta de Zipangu》
Carta de Zipangu
n.d.
インク・紙、ペン画
紙:37.4×52.5cm



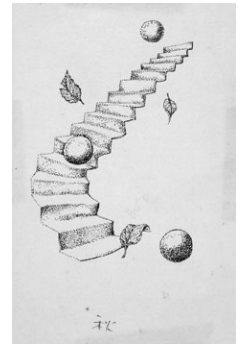
17. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《モチーフ》
Motifs
n.d.
紙 切り絵
紙: 28.0×35.1cm



18. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《地球と両性神》
Earth and A Bisexual God
n.d.
紙 切り絵
紙: 22.6×15.8cm



19. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《草花》
Grass flowers
n.d.
紙 切り絵
紙: 27.3×35.1cm



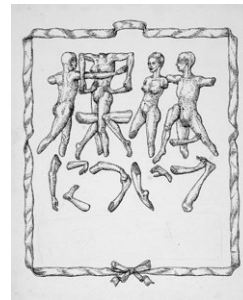
20. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《秋》
Autumn
n.d.
インク・紙 ペン画
紙: 17.1×11.5cm



21. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《黒い世界》
Black World
n.d.
インク・紙 ペン画
紙: 26.7×18.8cm



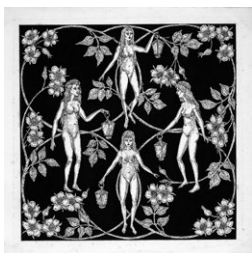
22. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《【題不詳】》
[Untitled]
n.d.
インク・紙 ペン画
紙: 23.1×11.1cm



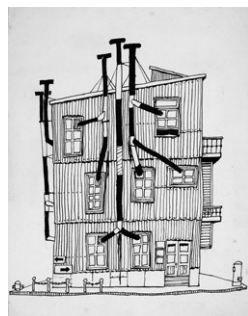
23. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《裸体について》
About Nudes
n.d.
インク・紙 ペン画
紙: 22.6×16.4cm



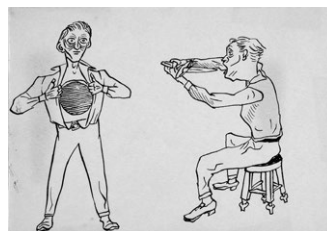
24. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《【題不詳】》
[Untitled]
n.d.
インク・紙 ペン画
紙: 22.1×21.0cm



25. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《【題不詳】》
[Untitled]
n.d.
インク・紙 ペン画
紙: 21.3×21.5cm



26. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《【題不詳】》
[Untitled]
n.d.
インク・紙 ペン画
紙: 23.1×17.2cm



27. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《【題不詳】》
[Untitled]
n.d.
インク・紙 ペン画
紙: 12.4×17.9cm



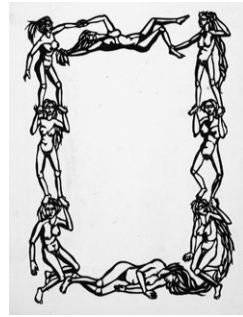
28. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《【題不詳】》
[Untitled]
n.d.
紙 切り絵
紙: 34.0×21.0cm



29. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《[題不詳]》
[Untitled]
n.d.
紙 切り絵
紙:27.4×34.9cm



30. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《[題不詳]》
[Untitled]
n.d.
紙 切り絵
紙:34.9×27.3cm



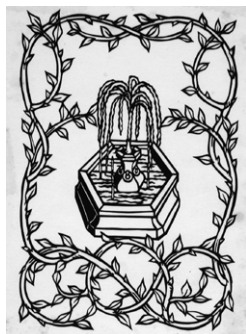
31. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《[題不詳]》
[Untitled]
n.d.
紙 切り絵
紙:25.2×19.5cm



32. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《[題不詳]》
[Untitled]
n.d.
紙 切り絵
紙:34.5×27.2cm



33. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《[題不詳]》
[Untitled]
n.d.
紙 切り絵
紙:28.5×19.5cm



34. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《[題不詳]》
[Untitled]
n.d.
紙 切り絵
紙:24.6×19.4cm



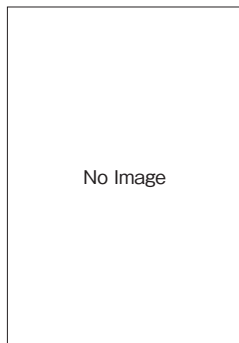
35. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《亀山巖の絵本(帙付)》
Kameyama Iwao's Picture Book
1975年
インク・紙・皮 書籍
31.0×21.7×2.2cm



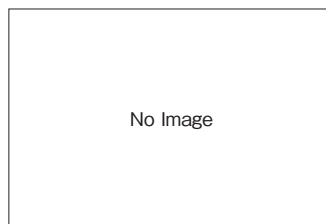
36. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《たらちね茶漬け一たべもの雑記帳
(外袋付)》
[Tarachinechaduke]-A Food Notebook
1990年
インク・紙 書籍
19.8×14.0×2.4 外袋:26.8×19.1cm



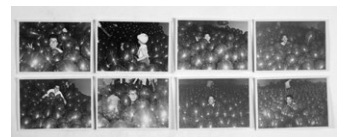
37. 亀山巖
(1907-1989)
KAMEYAMA Iwao
《「黒い世界・亀山巖展」ポスター》
Poster for "Kameyama Iwao; Black World"
1975年
インク・紙
93.5×63.2cm



38. ぶろだくしょん我'S/関連資料
(1969-1974)
Production-Gas
《「野外造形'69」リーフレット》
[Leaflet] for "Yagaizoukei (Field Shape) '69"
1969年
インク・紙
25.8×18.4×0.2cm



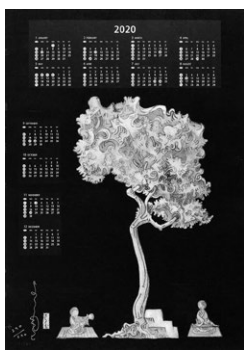
39. ぶろだくしょん我'S/関連資料
(1969-1974)
Production-Gas
《[MODEN DANCE RECITAL
奥田敏子舞踏団 公演]リーフレット》
Leaflet for "Okuda Toshiko Modern Dance
Company Recital"
1970年
インク・紙
54.4×26.3(四つ折り13.6×26.3) cm



40. ぶろだくしょん我'S/関連資料
(1969-1974)
Production-Gas
《[In Play]関連写真》
Related of "In Play"
1969年
6×7カラーネガ8枚、
カラー紙焼き[サービサイズ] 8枚



41. ぶろだくしょん我'S/関連資料
(1969-1974)
Production-Gas
《「映像会」関連写真》
Related Photos of "Screening"
1970年
35mmカラー・ネガ1本[20カット、2カット
紙焼きなし]、カラー焼き[サービサイズ] 18枚



42. 吉本作次
(1959-)
YOSHIMOTO Sakuji
《樹下奏飲図(名古屋市美術館協会の
カレンダー2020)》
Man and Woman Drinking and playing the Herp
under the Tree (Nagoya City Art Museum
Membership Calendar 2020)
2019年
印刷・紙
42.0×29.7cm
名古屋市美術館協会寄贈

③追記(平成29年度受贈)

平成29年度の年報に未記載のため改めて記載した



1. 川崎亀太郎
(1902-1990)
KAWASAKI Kametaro
《流氓ユダヤー題不詳(仲間)》
1941/2005年
ゼラチンシルバープリント
オリジナル・ネガからのニュー・プリント
20.2(27.9)×29.9(35.5) cm
川崎英子氏寄贈



2. 川崎亀太郎
(1902-1990)
KAWASAKI Kametaro
《流氓ユダヤー題不詳(姉妹、窓辺)》
1941/2005年
ゼラチンシルバープリント
オリジナル・ネガからのニュー・プリント
20.1(27.9)×30.1(35.5) cm
川崎英子氏寄贈



3. 川崎亀太郎
(1902-1990)
KAWASAKI Kametaro
《流氓ユダヤー題不詳(姉妹)》
1941/2005年
ゼラチンシルバープリント
オリジナル・ネガからのニュー・プリント
20.2(27.9)×30.1(35.5) cm
川崎英子氏寄贈



4. 川崎亀太郎
(1902-1990)
KAWASAKI Kametaro
《流氓ユダヤー題不詳(少女)》
1941/2005年
ゼラチンシルバープリント
オリジナル・ネガからのニュー・プリント
20.1(27.9)×29.9(35.5) cm
川崎英子氏寄贈



5. 川崎亀太郎
(1902-1990)
KAWASAKI Kametaro
《流氓ユダヤー題不詳(三人の子供)》
1941/2005年
ゼラチンシルバープリント
オリジナル・ネガからのニュー・プリント
20.2(27.9)×30.1(35.5) cm
川崎英子氏寄贈



6. 川崎亀太郎
(1902-1990)
KAWASAKI Kametaro
《流氓ユダヤー題不詳(門前)》
1941/2005年
ゼラチンシルバープリント
オリジナル・ネガからのニュー・プリント
20.2(27.9)×30.1(35.5) cm
川崎英子氏寄贈

(2)資料収集状況一覧

年度別

年度	分類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総計
58年度		0	26	2	0		1		29
59年度		3	32	50	1		0		86
60年度		4	25	67	20		2		118
61年度		5	23	33	6		1		68
62年度		12	38	0	360		15		425
63年度		0	15	8	13		6		42
元年度		3	7	2	275		1		288
2年度		7	4	2	17		1		31
3年度		1	3	2	122		0		128
4年度		2	10	15	126		3		156
5年度		0	13	4	0		3		20
6年度		0	7	0	1		2		10
7年度		1	27	2	195		0		225
8年度		0	7	0	2		3		12
9年度		0	2	0	17		2		21
10年度		2	8	0	21		0		31
11年度		2	10	0	0		1		13
12年度		0	9	0	0		0		9
13年度		0	8	0	※ △83	※ 83	1	0	9
14年度		1	0	0	167	0	0	0	168
15年度		0	1	0	0	8	2	0	11
16年度		0	0	8	0	0	2	0	10
17年度		0	2	10	0	4	0	0	16
18年度		0	9	0	0	0	0	0	9
19年度		0	2	0	0	0	1	0	3
20年度		0	1	0	0	0	1	0	2
21年度		0	1	7	3	0	0	0	11
22年度		0	1	0	0	0	0	0	1
23年度		0	1	0	0	0	0	0	1
24年度		0	0	0	0	0	2	0	2
25年度		0	0	0	0	2	0	0	2
26年度		0	0	0	0	0	0	0	0
27年度		2	1	0	0	3	0	0	6
28年度		0	1	0	0	3	0	0	4
29年度		0	0	0	0	0	△1	0	△1
30年度		0	1	0	0	0	0	0	1
元年度		0	0	0	0	0	0	0	0
購入総計		45	295	212	1,263	103	49	0	(0) 1,967
保管転換		16	41	31	35	3	3	1	(0) 130
寄贈	(4)	87	(6) 349	(2) 950	(21) 551	(10) 507	(1) 31	(347) 2,181	(391) 4,656
受入変更		0	0	0	0	2	0	0	(0) 2
総計	(4)	148	(6) 685	(2) 1,193	(21) 1,849	(10) 615	(1) 83	(347) 2,182	(391) 6,755

収集方針別

分類	日本画など	洋画など	水彩素描など	版画など	写真	彫刻など	特別資料	総計
エコーラ・ド・パル		(2) 32	3	478	0	2	3	(2) 518
メキシコ・ルネサンス		36	41	391	60	4	0	(0) 532
現代の美術	5	(1) 139	(2) 99	282	(10) 73	63	(281) 292	(294) 953
郷土の美術	(4) 143	(3) 478	1,050	(21) 698	482	(1) 14	(66) 1,887	(95) 4,752
総計	(4) 148	(6) 685	(2) 1,193	(21) 1,849	(10) 615	(1) 83	(347) 2,182	(391) 6,755

()内の数字は令和元年度収集分 ※分類変更による増減

<修復>

キスリング 《マルセル・シャントルの肖像》

1935年 油彩・キャンヴァス 116.0×81.0cm

【損傷状態】

画面左や下部に小さな絵具層の剥落が2か所見られた。また、作品全体に右上から左下に走る絵具層の細かい亀裂が多数見られ、亀裂の一部は剥離を起こしかけていて、危険な状態であった。画面下部には絵具層表面のスレによる剥落も見られた。

【修復処置】

画面全体の洗浄を行い、亀裂（絵具層の浮き）部分、および剥落部分に熱可塑性接着剤BEVAを塗布。剥落部は水溶性絵具で補彩した。額縁の剥落部の型取り、充填、成型、補彩を行い、バックパネルとしてポリカーボネート板を装着した。

鬼頭鍋三郎 《裸婦》

1934年 油彩・キャンヴァス 116.5×91.0cm

【損傷状態】

画面右下の絵具層に白カビが生成していた。また、画布の張りが緩く、木枠の中棧の跡が画面上下に付いていた。キャンヴァスの左下には張り皺が生じていた。画面下辺に膨らみ変形があり、縁には擦れ傷があった。画面および裏面に埃の吸着が認められ、一部の木枠には割れが生じていた。

【修復処置】

カビの殺菌と、画面および裏面の洗浄、裏面のドライクリーニングを行った。張皺と変形の修正を行い、既存の木枠への貼り直し、側辺等の補強を行った。画面、額縁とも一部補彩を行い、額縁の汚れを洗浄した。額縁の割れを接着し、剥落箇所を充填、整形した。

<額装改良>

パスキン 《サロメの踊り》

1927年 ドライポイント・紙 20.2×27.2cm

【額装の状態】

ベニヤ裏蓋の水張りテープが切れており、ベニヤが傷んでいた。

【額装改良】

ベニヤ裏板の周囲にテープを貼り、トンボを装着。アンダーマットを新調し、装着した。

<屋外彫刻点検>

屋外彫刻のうち、以下の作品を点検した。

セバスティアン 《椰子》

1993年 着色スチール 420×280×100cm

【状態】

作品下部に腐食穴があり、漏水が見られる。また、作品上部にも腐食穴が見られる。所々に塗装の浮きと錆が認められる。

【今後の対応】

すぐに倒壊する等の危険はないが、経過を観察し、2～3年後には再度点検を行う必要がある。劣化状態の把握のため、超音波厚さ測定器による厚さの調査が提案された。

アレクサンダー・コールドー 《ファブニール・ドラゴンⅡ》

1969年 着色スチール 325×411×238cm

【状態】

羽根のチェーン部分に摩耗が見られる

【今後の対応】

チェーン部分の経過を観察し、2～3年後には再度点検を実施することが望ましい。

青木野枝 《無題》

1993年 鉄 301.0×径170.0cm

【状態】

特に問題は認められなかった。

新宮晋 《風のまつり》

1978年 着色スチール、アルミニウム 2点1組 500.0×260.0×200.0cm

【状態】

支柱部分に錆、腐食、塗装劣化が認められた。

【今後の対応】

倒壊等の危険はないが、塗装することが望ましい。

<害虫調査>

収蔵庫に25か所トラップを仕掛け、調査を行った。今回は文化財加害昆虫の捕獲は認められなかった。

作品を収集にあたっては、サイズ・材質・形状、作品の状態などの作品に即したデータの採取のほか、作者・作品名・制作年・出品歴・所蔵歴などの作品に係わる歴史・文献的な情報の調査も行っている。これらの情報は、作品研究の基礎となるものであるが、収蔵時にすべてが明らかにできない作品もある。このような作品は、収蔵後も機会あるごとに追跡調査や情報収集を行って、不明な事項や新しい事実を明らかにするように努めている。

(1)作家の生没年の変更

記載事項なし

(2)作品名の変更

北川民次《トラルパム霊園のお祭り》

作品名の下線部の英文表記を以下のとおりに統一

Memorial Services in the Cemetery in Tlalpan

(3)作品の材質の変更

フリーダ・カーロ《死の仮面を被った少女》

現行材質名：油彩・ブリキ

改訂材質名：油彩・金属板

理由：2019年6月のボストン美術館への作品貸出に際して、現地で蛍光X線分析装置による調査が行われた。その結果、支持体が亜鉛を含む金属板であることが判明した。

収蔵資料貸出（令和元年度）

作家名	作品名	貸出期間・貸出先	展覧会名・展示期間
フリーダ・カーロ	《死の仮面を被った少女》	平成31年2月15日～令和元年6月28日 ボストン美術館	「民族芸術：フリーダ・カーロとフォーク・アート」 平成31年2月27日～令和元年6月19日
河野次郎	《無題》	平成31年3月1日～令和元年6月30日 愛知県美術館	愛知県美術館リニューアル・オープン記念 全館コレクション企画 「アイチアークロニクル 1919-2019」 平成31年4月2日～令和元年6月30日
河野次郎	《無題》		
河野次郎	《無題》		
河野次郎	《無題》		
山田睦三郎	《自画像》		
[特別資料]	「愛美社油絵素描展覧会目録」		
[特別資料]	「草土社名古屋展覧会目録」		
[特別資料]	「第三回愛美社絵画展覧会」		
加藤延三	《少女像(松枝)》		
伊藤敏博	《破れたる壺と四個のリンゴ》		
鬼頭鍋三郎	《手をかざす女》		
松下春雄	「第四回サンサンオン展の旗」		
三岸好太郎	《海と射光》		
北脇昇	《浄火習作》		
北脇昇	《鳥獣曼荼羅》		
下郷羊雄	《作品》		
下郷羊雄	《伊豆の海》		
美術新選手	『ジムナズ』(1号～3号)		
吉川三伸	《葉に因る絵画》		
眞島建三	《ミノタウロス》		
猪飼重明	《シャベルについて》		
猪飼重明	《偶像の手術》		
下郷羊雄	超現実主義写真集『メセム属』		
田島二男	《砂のなかの小枝》		
田島二男	《梓》		
田島二男	《板による(一)歌手》		
田島二男	《人生》		
田島二男	《砂浜の裸婦》		
田島二男	《ある人間の思想の発展・・・霧と寝室と》		
後藤敬一郎	《消滅する風景》		
後藤敬一郎	《ある極》		
杉本健吉	「名古屋城再建基金ポスター原画」		
臼井薫	題不詳(自転車の兄妹)		
臼井薫	《山の兄弟、瀬戸市》		
臼井薫	《大雨の日、名古屋 北区》		
臼井薫	《雪の朝 中区 桜通り伏見》		
矢橋六郎	《鎧》		

堀尾実	《フォト・コラージュ》	平成31年3月1日～令和元年6月30日 愛知県美術館	愛知県美術館リニューアル・オープン記念 全館コレクション企画 「アイチアートクロニクル 1919-2019」 平成31年4月2日～令和元年6月30日
堀尾実	《フォト・コラージュ》		
堀尾実	《フォト・コラージュ》		
堀尾実	《フォト・コラージュ》		
堀尾実	《フォト・コラージュ》		
堀尾実	《フォト・コラージュ》		
堀尾実	《フォト・コラージュ》		
堀尾実	《フォト・コラージュ》		
堀尾実	《フォト・コラージュ》		
堀尾実	《フォト・コラージュ》		
堀尾実	《フォト・コラージュ》		
白木正一	《イエロースカイ》		
ぶろだくしょん我'S	「In Play」関連資料		
ぶろだくしょん我'S	《人形参院選》		
ぶろだくしょん我'S	「人形参院選」関連資料		
久野利博	《BODY DISTANCE / February.1, 1981. (Nagoya)》		
久野利博	《BODY DISTANCE / July.11, 1981. (Hamamatsu)》		
久野利博	《BODY DISTANCE / August.13, 1982. (Firenze)》		
村山槐多	《房州風景》	令和元年5月15日～9月15日 おかざき世界こども美術博物館 サントミューゼ 上田市立美術館	「没後100年 岡崎が生んだ天才 村山槐多」展 令和元年6月1日～7月15日 令和元年7月27日～9月1日
久野真	《P.L.3 x 6-B》	令和元年7月10日～9月14日 刈谷市美術館	「久野真展-Metal Works-」 令和元年7月23日～9月1日
久野真	《石膏による作品》		
久野真	《鋼鉄による作品》		
久野真	《鋼鉄による作品》		
三岸好太郎	《構図(暖炉のある静物)》	令和元年12月1日～令和2年4月18日 公益財団法人ポーラ美術振興財団 ポーラ美術館	「シュルレアリスムと絵画-ダリ、エルンストと日本の「シュール」展」 令和元年12月15日～令和2年4月5日
三岸好太郎	《海と射光》		
北脇昇	《鳥獣曼荼羅》		
北脇昇	《春に合掌す》		
下郷羊雄	《祭礼風の構成》	令和2年2月4日～4月28日 練馬区立美術館	「津田青楓とあゆむ明治大正昭和展」 令和2年2月21日～4月12日
下郷羊雄	《着衣婦人》		
モイーズ・キスリング	《新聞のある静物》	令和2年2月9日～7月4日 奥田元宋・小由女美術館	「キスリング展」 令和2年2月22日～4月10日

(1)名称

ゆめ・プレミアムアートコレクション寄附金事業

(2)趣旨

優れた美術品の収集、所蔵作品の修復をするため、寄附金を集めるもの。令和元年度から「東山動物園猛獣画廊壁画修復募金」を開始し、令和5年度「名古屋市美術館開館35周年」での修復後の壁画の公開を目指す。

名古屋市美術館では、「ゆめ プレミアムアートコレクション寄附金事業」として、「東山動物園猛獣画廊壁画修復募金」を開始します。

第2次世界大戦中、東山動物園の動物は殺処分などにより激減しました。1948年、中京新聞社の提唱により、猛獣のいない寂しさを補う目的で、動物不在の歌合に「猛獣画廊」が開設されました。世界の動物の生態を紹介する3点の壁画が、太田三郎、水谷清、宮本三郎の画家3氏によって描かれ、猛獣画廊で公開されました。

動物の飼育数が回復するに従って役目を終えた壁画は、現在名古屋市美術館に保管されています。しかし収蔵当初から損傷が激しく、良好な状態で保存、展示するために修復が必要な状況でした。皆様からいただいた寄附金を、この壁画の修復に活用させていただき、本市の貴重な文化財があるべき姿で後世に伝えていきたいと考えています。目標額は1000万円で、令和5年度「名古屋市美術館開館35周年」での修復後の壁画の公開をめざします。

どうぞ、皆様のご協力をお願いします。

太田三郎《東山動物園猛獣画廊壁画 No.1》
1948年 油彩・キャンバス 141.0×540.0cm

※「ゆめ プレミアムアートコレクション寄附金事業」は、ふるさと納税の対象（税の控除）となります。寄附の方法等詳細につきましては「ゆめ プレミアムアートコレクション寄附金事業」のリーフレットをご覧ください。

お問い合わせ先
名古屋市美術館 総務課
〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番26号
TEL 052-212-0001 (FAX 052-212-0002)

(3)寄附金の概要

1口1,000円以上。特典として、名古屋市外在住の5,000円以上の個人の寄附者には、常設展1年間定期観覧券(大人1,200円)を進呈。

(4)目標額

令和5年度に10,000,000円。(学生向け優待制度の一部金額も含む)

(5)寄附金受入状況(令和2年3月31日現在)

令和元年度： 60件、 3,104,005円
累 計：258件、 17,769,227円

(6)寄附金の活用

平成30年度に寄附金13,000,000円を、開館30周年記念作品として、藤田嗣治《ベルギーの婦人》の購入代金の一部に充当した。

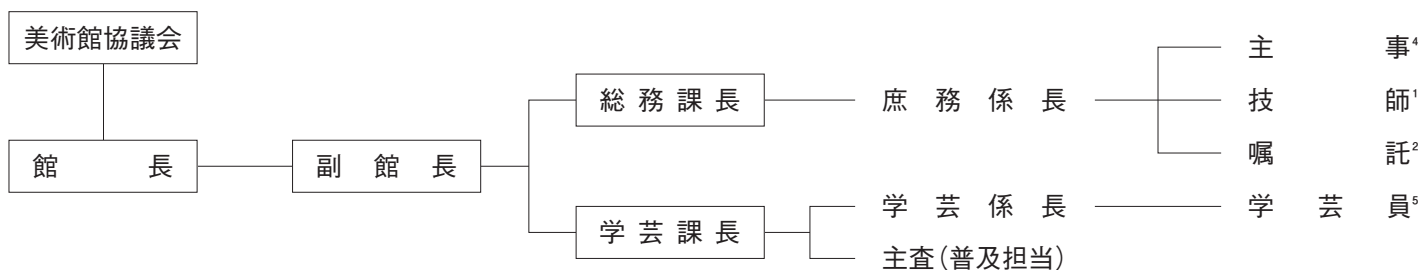
入館者一覽 VISITOR

展 覽 会 名	開催期間	開催 日数 (日)	有 料			無 料			入場者 総 数 (名)	
			一般	高大生	有料小計	招待券等	中学生以下	無料小計		
常 設 展	平成31年 4月9日(火)～ 令和2年 3月1日(日)	230	6,704	1,415	8,119	99,313	3,199	102,512	110,631	
特 別 展	印象派からその先へー 世界に誇る吉野石膏コレク ション	平成31年 4月9日(火)～ 令和元年 5月26日(日)	43	37,758	2,251	40,009	11,973	2,419	14,392	54,401
	あいちトリエンナーレ2019 情の時代	令和元年 8月1日(木)～ 令和元年 10月14日(月)	66	41,882	4,777	46,659	17,961	1,347	19,308	65,967
	カラヴァッジョ展	令和元年 10月26日(土)～ 令和元年 12月15日(日)	44	60,500	3,026	63,526	15,838	3,578	19,416	82,942
	没後90年記念 岸田劉生展	令和2年 1月8日(水)～ 令和2年 3月1日(日)	47	27,700	1,053	28,753	11,437	2,010	13,447	42,200
	特 別 展 小 計		200	167,840	11,107	178,947	57,209	9,354	66,563	245,510
合 計			174,544	12,522	187,066	156,522	12,553	169,075	356,141	
									教育普及事業参加者 (展示室内参加者を除く)	16,259
									総 計	372,400

〈年度別入館者数等〉

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	累 計	
展 覧 会	常 設 展	開催日数	251日	192日	252日	230日	8,874日
		入場者数	111,444人	77,850人	186,191人	110,631人	4,263,002人
	特 別 展	開催日数	241日	192日	252日	200日	6,864日
		入場者数	182,863人	121,970人	410,366人	245,510人	8,517,770人
	入 場 者 小 計		294,307人	199,820人	596,557人	356,141人	12,780,772人
教育普及事業参加者		20,044人	17,471人	26,897人	16,259人	733,704人	
入 館 者 合 計		314,351人	217,291人	623,454人	372,400人	13,514,476人	

1 組織図



2 美術館協議会

(1)名古屋市美術館協議会委員

名古屋市立笹島小学校・中学校長	伊藤 久仁	愛知県私学協会文化部長	伊藤 俊典
愛知県立旭丘高等学校長	杉山 賢純	公益財団法人名古屋市文化振興事業団専務理事兼事務局長	柵木 厚
名古屋市立大学大学院人間文化研究科准教授	宮下さおり	名古屋市地域女性団体連絡協議会会計	田澤 悦子
名古屋市立小中学校PTA協議会理事	古田由美子	公募委員	笹岡克比人
愛知県立芸術大学美術学部教授	小西 信之	名古屋商工会議所文化・観光委員会副委員長	滝 茂夫
愛知県美術館長	南 雄介	名古屋造形大学准教授	濱田 樹里
名古屋造形大学教授	高橋 綾子	株式会社JTB執行役員法人事業本部副本部長	松本 博

(2)名古屋市美術館協議会開催状況

日 時	場 所	協 議 題
第1回定例会 令和元年8月28日(水) 午後2時～午後4時	美術館講堂	○平成30年度事業実施結果について ○令和元年度事業実施状況について

※第2回定例会は、感染症対策のため開催中止

3 職 員

館 長	早瀬 弘親	学芸課長	井口 智子
副館長	深谷 克典	学芸係長	保崎 裕徳
総務課長	橋 弘子	主査(普及)	竹内 智哉
庶務係長	太田 重弘	学芸員	角田美奈子
主 事	西村 弘		竹葉 丈
	布施 英彦		中村 暁子
	木村 進也		清家 三智
	長谷川千加		森本 陽香
技 師	小川 和秀		
	嘱 託	秦 久美子	
	千田 智治		

4 運営予算

総予算費	内 訳	
238,610千円	特別展関係費	95,309千円
	常設展運営費	21,076千円
	資料関係費	2,588千円
	教育普及事業費	7,876千円
	調査研究費	364千円
	管 理 費	111,397千円

令和元年度名古屋市美術館年報

発行日

令和2年9月

編集・発行

名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号
(芸術と科学の杜・白川公園内)

TEL 052-212-0001

FAX 052-212-0005

名古屋市美術館

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番25号

Tel.052-212-0001 Fax.052-212-0005